

新設統合第二小学校建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

二番丁小学校遺跡

2011年3月

高松市教育委員会

例　　言

- 1 本書は、新設統合第二小学校建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書で、二番丁小学校遺跡にかかる埋蔵文化財発掘調査報告書である。
 - 2 本報告書の執筆は、遺構に関する整理および執筆は渡邊誠が、遺物の整理および執筆は船榮紀子が行い、編集は渡邊が行った。
 - 3 発掘調査から整理作業、報告書執筆を実施するにあたって、下記の関係諸機関ならびに方々から御教示および御協力を得た。記して厚く謝意を表すものである（五十音順、敬称略）。
- 香川県埋蔵文化財センター、乗松真也
- 4 本報告の高度値は海拔高を表し、方位は座標北を示す。
 - 5 出土遺物の実測図は、土器は1／3, 1／4, 1／6, 石器および金属器は1／2, 1／4, 遺構の縮尺については図面ごとに示している。
 - 6 発掘調査で得られたすべての資料は、高松市教育委員会で保管している。

目 次

第Ⅰ章 調査の経緯と経過	1	第Ⅳ章 まとめ	57
第Ⅱ章 地理的・歴史的環境	2	遺物観察表	61
第Ⅲ章 調査成果	7		

挿 図 目 次

第1図 二番丁小学校遺跡調査区配置図	1	第28図 A区第2遺構面土坑・ピット出土遺物	35
第2図 高松市および市域における位置図	2	第29図 B区遺構配置図および土層断面図	35
第3図 高松城跡周辺遺跡分布図	3	第30図 B区横状遺構平・断面図	36
第4図 A区第1遺構面遺構配置図	8	第31図 B区土坑・ピット平・断面図	37
第5図 A区土層断面図	9	第32図 B区溝平・断面図	38
第6図 A区建物遺構間連遺構	10	第33図 B区出土遺物①	39
第7図 A区土坑平・断面図①	11	第34図 B区出土遺物②	40
第8図 A区出土遺物①	12	第35図 B区出土遺物③	41
第9図 A区出土遺物②	13	第36図 B区出土遺物④	42
第10図 A区出土遺物③	14	第37図 B区出土遺物⑤	43
第11図 A区出土遺物④	15	第38図 B区出土遺物⑥	44
第12図 A区土坑平面図②	17	第39図 B区出土遺物⑦	45
第13図 A区出土遺物⑤	18	第40図 B区出土遺物⑧	46
第14図 A区出土遺物⑥	19	第41図 C区遺構配置図・土層断面図	47
第15図 A区出土遺物⑦	20	第42図 C区土坑平・断面図	48
第16図 A区出土遺物⑧	21	第43図 C区出土遺物①	49
第17図 A区土坑平・断面図③	22	第44図 C区出土遺物②	50
第18図 A区出土遺物⑨	23	第45図 C区出土遺物③	51
第19図 A区出土遺物⑩	24	第46図 C区出土遺物④	52
第20図 A区出土遺物⑪	25	第47図 C区土坑・ピット平・断面図	53
第21図 A区出土遺物⑫	26	第48図 C区出土遺物⑤	54
第22図 A区区画施設・溝・平・断面図	27	第49図 C区出土遺物⑥	55
第23図 A区ピット平・断面図	28	第50図 遺構配置図	57
第24図 A区出土遺物⑬	29	第51図 享保年間高松城下図	58
第25図 A区出土遺物⑭	30	第52図 享保年間高松城下図の調査地周辺の状況	58
第26図 A区第2遺構面遺構配置図	33		
第27図 A区第2遺構面土坑およびピット 平・断面図	35		

挿 表 目 次

第1表 高松城周辺の調査履歴	4	第2表 遺物観察表	61
----------------------	---	-----------------	----

图版 1-1	A 区第 1 遗構面全景	图版 9-6	ASK120 半裁状况
图版 1-2	A 区と新校舎および旧校舎	图版 9-7	ASK140
图版 1-3	C 区と旧校舎	图版 9-8	ASK140 半裁状况
图版 2-1	A 区第 2 遗構面東側全景	图版 10-1	ASK145 半裁状况
图版 2-2	A 区第 2 遗構面西側全景	图版 10-2	ASK150 半裁状况
图版 2-3	B 区柱穴列検出状況	图版 10-3	ASK155
图版 2-4	B 区柱列完掘状況	图版 10-4	ASK160・170・175・225
图版 3-1	A 区南東隅土坑完掘状況	图版 10-5	ASK160 半裁状况
图版 3-2	A 区東側土坑完掘状況	图版 10-6	ASK170 半裁状况
图版 3-3	A 区西側柱列群	图版 10-7	ASK175 半裁状况
图版 3-4	A 区南側柱列群	图版 10-8	ASK185
图版 4-1	A 区北壁土層①	图版 11-1	ASK185 半裁状况
图版 4-2	A 区北壁土層②	图版 11-2	ASK205 半裁状况
图版 4-3	A 区南東壁土層	图版 11-3	ASX200 ①土層
图版 4-4	A 区西壁土層	图版 11-4	ASX200 ②土層
图版 5-1	ASX200 周辺①	图版 11-5	ASK065
图版 5-2	ASX200 周辺②	图版 11-6	ASP002 半裁状况
图版 5-3	A 区東側柱穴群	图版 11-7	ASP051 半裁状况
图版 5-4	ASD215	图版 12-1	ASP039
图版 6-1	BSK102・103 土層	图版 12-2	ASP041・042 半裁状况
图版 6-2	BSD105 土層	图版 12-3	ASP043 半裁状况
图版 6-3	BSK102・103	图版 12-4	ASP318 検出状況
图版 6-4	BSK102・103 周辺	图版 12-5	ASP318 半裁状况
图版 7-1	B 区全景	图版 12-6	ASP318 完掘状況
图版 7-2	C 区掘削状況	图版 12-7	ASP318 曲部、土器出土状況
图版 7-3	C 区全景①	图版 12-8	BSP113
图版 7-4	C 区全景②	图版 13-1	BSP114
图版 8-1	ASK025 半裁状況	图版 13-2	CSK209
图版 8-2	ASK040 半裁状況	图版 13-3	CSK210・218 周辺
图版 8-3	ASK045	图版 13-4	CSK209 土層
图版 8-4	ASK045 半裁状況	图版 13-5	CSK210・218
图版 8-5	ASK050	图版 13-6	CSK217
图版 8-6	ASK055・060 半裁状況	图版 13-7	CSK226
图版 8-7	ASK070	图版 13-8	CSK225
图版 8-8	ASK080 半裁状況	图版 14-1	A 区 SK045
图版 9-1	ASK085 半裁状況	图版 14-2	A 区 SK040
图版 9-2	ASK090	图版 14-3	A 区 SK140
图版 9-3	ASK105	图版 14-4	A 区 SK105
图版 9-4	ASK105 半裁状況	图版 15-1	A 区 SK90・95
图版 9-5	ASK110・115 半裁状況	图版 15-2	A 区 SK100

- 図版 15-3 A 区 SK90・95, SK125
図版 15-4 A 区 SK185
図版 16-1 B 区 SK103
図版 16-2 B 区 SK102
図版 16-3 C 区 SK217
図版 17-1 A 区 SK025
図版 17-2 A 区 SK125・130・135 一段下付
図版 17-3 A 区 SK140
図版 17-4 C 区 SK219
図版 17-5 A 区 SK170
図版 17-6 C 区 SK225
図版 17-7 A 区 SK90・95
図版 17-8 C 区 SK217
図版 18-1 A 区 SK170
図版 18-2 B 区 SK102・103
図版 18-3 A 区 SK225
図版 18-4 B 区 SK102・103
図版 18-5 A 区 SK155
図版 18-6 B 区 遺構検出時
図版 18-7 B 区 SK102・103
図版 18-8 B 区 西側段下付時
図版 18-9 A 区 SK045
図版 19-1 A 区 SP318
図版 19-2 A 区 SK030
図版 19-3 A 区 SK215・130・135
図版 19-4 A 区 SK100
図版 19-5 A 区 SK102
図版 19-6 A 区 SK205
図版 19-7 C 区 SK217
図版 20-1 A 区 瓦
図版 20-2 C 区 瓦
図版 20-3 B 区 瓦
図版 21-1 A 区 玩具（動物）
図版 21-2 A 区 玩具（人形）
図版 22-1 B 区 玩具
図版 22-2 C 区 玩具
図版 23-1 青銅製品
図版 23-2 鉄製釘
図版 23-3 鉄製品、針金
図版 23-4 骨角器
図版 24-1 A 区 玩具
図版 24-2 石製品
図版 24-3 土製品

第Ⅰ章 調査の経緯と経過

第1節 調査の経緯と経過

二番丁小学校跡地での新設統合第二小学校建設（当時の仮称、後に新番丁小学校となる）にあたり、平成19年度に事前協議を本市教育委員会教育部総務課を行い、同年8月6・7・29日に試掘調査を実施した。試掘調査地は周辺の地形等の復元によって東西にのびる砂堆が広がっていることが想定されており、近世以前にも集落等の遺跡が存在する可能性が指摘されていた。

建設予定地で計6箇所のトレンチ掘削を実施し、遺構の有無の把握を行った。その結果、地表から約1.2m前後の深さで中世～近世前半の遺物を包含する遺構を確認した。これらの遺構は予定地の北側に偏在しており、地形復元からも北側が微高地状に南側より高くなっている。南側は低地となっていることが明らかとなった。これは、予定地南側が地形復元によって旧河道と推定されていたことを裏付ける結果となった。

試掘調査の結果から、建設予定地北側を埋蔵文化財包蔵地と判断し、二番丁小学校遺跡と命名した。平成21年2月10日付けで香川県教育委員会宛に高松市長より埋蔵文化財発掘の通知が本市教育委員会に提出され、2月24日付けで香川県教育委員会から発掘調査が必要との通知があり、発掘調査を実施することとなった。発掘調査予定地は、屋内運動場が建設される範囲で、かつ校舎が建っていない箇所においてのみ発掘調査を実施することとなった。調査に関わる掘削等は、新設統合第二小学校（仮称）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査用工事委託として株式会社合田工務店に業務を委託し実施した。なお、調査面積・期間等については、下記のとおりである。

対象面積 467m²

調査主体 高松市教育委員会 教育部文化財課

担当者 文化財調査係波邊誠、高上拓、中西克也

調査原因 統合第二小学校（仮称）建設

（屋内運動場建設予定地）

調査期間 平成21年5月1日～6月30日

発掘調査は第1図のようにA～C区に分けて校庭等の使用状況からB・C⇒A区の順序で実施し、B・C区が5月9日～22日、A区が5月28日～6月22日で調査を実施した。なお、B・C区については既存の配管（ガス、電気、水道）によって大きく規制を受けたため、当初計画より調査範囲が限定された。なお、旧校舎の範囲につ

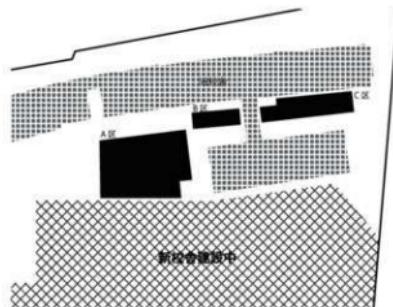
いては、立会を行ったが基礎によって遺構面は既に破壊されており、調査には至らなかった。詳細な調査成果については後述するが、近世（江戸時代後半期を中心とする）の武家屋敷を確認し、さらに下層に中世以前の遺構面を確認した。

調査後、屋内運動場が建設され、平成22年度4月に旧二番丁、旧四番丁、旧日新小学校区の生徒が通う新番丁小学校として開校した。

第2節 整理作業の経過

整理作業については、平成22年度に実施した。具体的には出土遺物の洗浄・接合を実施し、分類作業および選別作業を行った後、遺構図面の整理、出土遺物の実測および拓本作業、製図を行い、最終段階に執筆および編集作業を実施した。

なお、出土した金属製品および木製品の保存処理を第一合成株式会社に業務委託し、平成22年5月～11月に実施した。



第1図 二番丁小学校遺跡調査区配置図

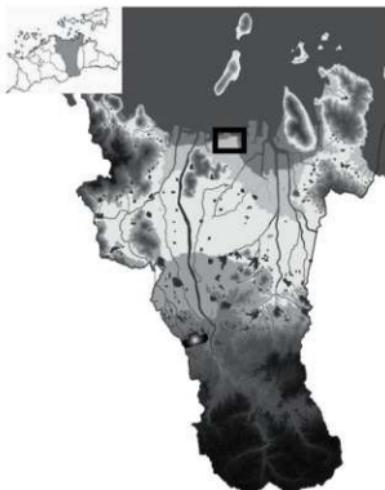
第Ⅱ章 地理的・歴史的環境

当遺跡の地理的および歴史的環境については、既に多くの報告書によって整理されており、特に高松城跡周辺の状況については大嶋 2009 に詳しくまとめられている。ここでは重複をなるべくさけ、当遺跡に関わる部分について抽出し、整理しておくこととしたい。

第1節 地理的環境

当遺跡の所在する高松城跡周辺の現在の地形環境は、近世城下町や周辺の陸地造成（干拓）によって整えられたが、より本源的には高松平野を流れる諸河川と、潮流による海浜地形の形成を出発点としている。大部分が讃岐山脈に源をもつ香東川が運ぶ土砂の堆積によって形成されたと考えられており、これまでの発掘調査や微地形分析により分ヶ池、下池、長池、大池を結ぶ流路等、数本の主流路が確認されている。これらのうち東方の流路は弥生時代後期から古代にかけて埋没したのに対し、石清尾山塊の東側の流路は近世初頭（寛永期）まで主要な流路群として存在した。現在、高松平野中央部に所在する石清尾山塊の西側を流れる香東川の流路は、近世初頭に分流していた流路を一本化したものである。なお、石清尾山塊東側の旧流路は、石清尾山麓を巡って西浜に至る流路群（現在の摺鉢谷川に並行）と石清尾山南麓から上福岡に至る流路群（現在の御坊川に並行）に細別でき、高松城跡周辺は、この2本の流路群に挟まれた地域である。

また、著名な『南海通記』巻廿の記述によれば、高松城跡周辺は西側と東側に海が湧入しており、その間の砂州（陸地）が海に向かって突き出す様子が、あたかも一筋の矢のようであり、そのため「菟原」郷と称され、郷内には「西浜」「東浜」という漁村があったと記載されている。このような記述に加え、高松城跡周辺の微地形については、松本和彦氏（2007、2009）によって発掘調査および現地地形観察、絵図等の検討等により復元も行われている。それによれば、基本地形は二つの旧河道、旧香東川支流と現摺鉢谷川に画された巨大な中洲と海側にあった複数の砂堆である。中洲は高松城本丸周辺がやや半島状に突き出る格好となる。近世城下の大手筋とほぼ一致する旧河道分歧点から高松城本丸にかけては周辺より高く、発掘調査でも弥生土器や須恵器などが多数認められており、周辺に集落の存在をうかがわせる。そのため、弥生時代後期後半頃には微高地状を呈した比較的の安



第2図 高松市および市域における位置図

定した土地であった可能性が高く、それ以降の遺物も確認されていることから、以後も安定した地盤で、集落の展開の可能性を想像させる（佐藤 2003、小川 2004、2008、渡邊 2009 等）。

二番丁小学校遺跡が所在する高松城跡西側は中世前半は、複数の砂堆が湾内に存在していた範囲にあたり、当遺跡はそのうち最も大きく東西にのびる砂堆上に位置する。砂堆のほとんどは現在のJR 軌道とほぼ同位置・同方向に形成されている。この砂堆は、近世以降の海浜部における微高地の地盤となるものと考えられる。

13世紀後半以降、両田河川の堆積作用による湾内の埋積が急速に進行し、旧河道は次第に埋没し、一部は湿地化したものと考えられる。その後も徐々に埋積が進行し、近世の城下町が展開する地盤が形成されたと考えられる。現に、当遺跡の西側および南西部（現香川大学周辺から以西にかけて）は現摺鉢谷川の河口に位置し、その堆積作用によって形成された範囲に当たる。この範囲はもともと低地であったためか、江戸時代を通じて田畠や墓地が展開し、居住地としての土地利用はほとんどなされていない。

以上のように、河川の堆積作用によって形成された中洲と砂堆が徐々に拡張し、結合しながら近世の高松城およびその城下町、そして市街地が形成されたと考えられる。



第3図 高松城跡周辺遺跡分布図

第2節 歴史的環境

高松城跡周辺では近年多くの発掘調査が実施され、江戸時代の城下町のみならず、中世の港町の景観やそれ以前の集落の様相などが次第に明らかにされつつある。それらの成果について第1表に整理しておく。なお、本書ではこれまで調査箇所で呼称していた遺跡名を高松城跡●次調査として呼称する。その調査次数は高松市刊行の『高松城史料調査報告書』掲載の一覧表にその後の調査を加えて整理している。第1表のように、高松城跡周辺では、これまで、高松城を中心にここ16年間で多数の発掘調査が実施され、中世を中心とした調査成果が蓄積されている。

中世以前については、弥生時代終末期以前の遺物が比較的まとまって認められるものの、古代に遡る遺構はほとんど認められず、遺構が検出された事例は松平大膳家上屋敷跡における調査のみである。しかし、内堀より外側での発掘調査はほとんど実施されておらず、大手筋付近に弥生時代終末期以降の遺跡が展開している可能性は十分考えられる。そのほか文献史料に基づきながら当遺跡周辺の状況をみると、先の『南海通記』巻廿の記述から「庵原」郷が後の高松城下に相当することがうかがえるが、「庵原」という郷名は『和名抄』や中世文書

にはみえず、『南海通記』も他の卷では「野原」郷と呼称している。したがって、地域の呼称としては「野原」郷が一般的であったと考えられる。野原郷では、応徳3年(1086)、白河天皇の退位に伴い、郷内の勅旨田が立券されて野原庄が成立し、後に妙法院門跡領となっている。その庄域は康治2年(1143)の太政官牒案(『安楽寺院古文書』)によると、東西南北ともに条里坪付けで記されており、東・西・北は野原郷内で、南は坂田郷に及ぶことが分かる。なお、『昭慶門院御領目録案』(嘉元4年:1306)には、野原郷が知行地としてみえるため、郷内全体が立庄されたのではないことが分かる。

そのため、『和名抄』等に見られる香川郡12郷の一つである英原郷の実態を解明する調査が今後期待されるところであり、当遺跡周辺についても同様な状況である。

近年、発掘調査による港湾施設の状況、文献の『兵庫北関入船納帳』などの港湾に関する記述や、寺社に関する記述などの総合的な検討から、高松城が築城される地形環境や経済基盤が解明されつつあり、早くから港町として開けていたことが前提となりつつある。

当遺跡周辺のこれまでの発掘調査では港湾施設以外にも11世紀後半以降の遺構が検出されている。浜ノ町遺跡では白磁四耳壺を埋納していた13世紀末~15世紀末の集落が検出されている(乘松2004)。これに加え、近

第1表 高松城周辺の調査履歴（Noは第1図に対応）

No	遺跡名	次数	調査地区名	調査期間	調査面積	調査原因	文献
A	二番丁小学校遺跡	-	-	2009.5.1～2009.6.30	467m ²	施設結合第二小学校建設	本書
1	高松城跡	1	東ノ丸跡	1985.4.15～1986.5.31	6,047m ²	同上	荒井1987
2	高松城跡	2	木手門	1990.4.14～1990.6.5	2,000m ²	山元1991	
3	高松城跡	3	御殿小一丸地区	1995.2.7～1995.3.31	1,009m ²	御殿小一丸建設	森下1995
4	高松城跡	4	城ノ内史安政御物置地区	1995.4.1～1995.6.31	5,000m ²	城ノ内史安政御物置	北山1999
5	高松城跡	5	西の丸町地区Ⅱ	1995.12.1～1997.3.31	4,539m ²	アンボート高松総合整備事業	佐藤2003a
6	高松城跡	6	西の丸町地区Ⅲ	1997.8.1～2000.12.31	10,052m ²	アンボート高松総合整備事業	松本2003b
7	高松城跡	7	事務丸	1997.11.20～1997.12.25	300m ²	事務所建設	大堀1998
8	高松城跡	8	西ノ町	1997.7.10	47m ²	同上	大堀1999a
9	高松城跡	9	地主櫓	1997.12.3	4m ²	史跡整備	大堀1999a
10	高松城跡	10	高松北堀地区	1998.4.1～1998.6.30	900m ²	高松北堀事業建設	山元1999
11	高松城跡	11	内町	1998.4.16	65m ²	古墳律設	大堀1999a
12	高松城跡	12	三の丸	1998.7.8～1998.8.11	14m ²	史跡整備	大堀1999a
13	高松城跡	13	西の丸町地区Ⅰ	1999.4.1～2000.12.22	390m ²	アンボート高松総合整備事業	古野2001
14	高松城跡	14	地主櫓	1999.10.25～2000.4.23	170m ²	史跡整備	2004a
15	高松城跡	15	丸ノ内地区	2001.4.1～2001.9.30	488m ²	家島墓戸州律設	松本2003a
16	高松城跡	16	和平大陸主屋尾跡	2002.2.1～2002.3.25	99m ²	寺澤会館律設	大堀2002
17	高松城跡	17	和平大陸主屋敷跡	2002.4.15～2002.9.1	970m ²	ビル建設	小川2004
18	高松城跡	18	三の丸、西摺北側	2002.10.7～2002.10.10	8m ²	史跡整備	川田2003b
19	高松城跡	19	西の丸町地区Ⅳ	2002.10.16～2002.10.30	131m ²	アンボート高松総合整備事業	佐藤2003b
20	高松城跡	20	丸之内	2002.11.28～2002.11.29	10m ²	ビル建設	川田2003c
21	高松城跡	21	寺町一丁目（無収蔵跡）	2002.11.28～2003.3.14	490m ²	都市計画道路高松市街建設	中西2003～2007
22	高松城跡	22	宇駒、北町	2003.5.13	14m ²	高松住宅建設	川田2004b
23	高松城跡	23	丸之内、馬鹿計画道路高松南北岸衝突事業	2003.6.11	23m ²	都市計画道路高松南北岸衝突事業	川田2004c
24	高松城跡	24	丸之内、西水門布設工事	2003.8.18～2003.9.22	296m ²	西水門設	川田2004f
25	高松城跡	25	丸之内、個人住宅建設	2003.8.25～2003.8.26	22m ²	個人住宅建設	川田2004d
26	高松城跡	26	二の丸、五基宮西門料金所敷地工事	2003.8.26～2003.9.4	10m ²	公園整備	川田2004e
27	高松城跡	27	外堀、西の丸、共同住宅建設	2003.10.8～2003.10.9	30m ²	共同住宅建設	大堀2004
28	高松城跡	28	丸之内、共同住宅	2003.11.12～2003.11.19	50m ²	共同住宅建設	山元2004
29	高松城跡	29	東の奉行所跡	2003.12.8～2004.3.15	511m ²	共同住宅建設	小川2005
30	高松城跡	30	西の丸町	2004.7.13～2004.7.19	6m ²	ビル建設	川田2005a
31	高松城跡	31	丸之内	2004.7.21	19m ²	ビル建設	川田2005c
32	高松城跡	32	丸之内	2004.11.9	48m ²	個人住宅建設	川田2005d
33	高松城跡	33	鉄門	2005.1.24～2005.8.19	62m ²	史跡整備	大堀2007a
34	高松城跡	34	膳跡	2005.2.21～2005.5.12	511m ²	山元寺跡建設	小川2006
35	高松城跡	35	外堀、高松町	2005.5.11～2005.5.12	320m ²	ビル建設	大堀2006
36	高松城跡	36	舟町二丁目地区	2006.1.12～2006.3.28	556m ²	ビル建設	小川2006
37	高松城跡	37	天守台	2006.11.1～2008.3.31	1,530m ²	史跡整備	報告書未刊
38	高松城跡	38	江戸長屋跡Ⅰ	2007.8.18～2007.7.31	84m ²	都市計画道路高松南北岸建設	川田2008
39	高松城跡	39	江戸長屋跡Ⅱ	2008.4.1～2008.4.28	70m ²	都市計画道路高松南北岸建設	渡邉2009
40	高松城跡	40	丸之内	2008.11.19	4m ²	共同住宅建設（仮称）	渡邉2009
41	高松城跡	41	丸之内	2009.3.2～3.19	45m ²	共同住宅建設	渡邉2010
42	高松城跡	42	城ノ内中学校	2009.4.9～2009.7.13	230m ²	シールド埋設機架立実験用	報告書未刊
43	高松城跡	43	中城南岸右岸	2009.10.16	3m ²	石垣推削工事	大堀2010
44	高松城跡	44	本町	2010.2.16	32m ²	事務所建設	小川2011
45	前ノ町遺跡	-	-	2000.2.15～2002.3.31	4,992m ²	アンボート高松総合整備事業	発免2004
46	片町町遺跡	-	-	2000.8.15～2005.6.22	120m ²	ビル建設	小川2002
47	網町町遺跡	-	-	1985.1.16～1986.1.7	200m ²	市立美術館建設	末光2003
48	生駒親正大妻墓所	-	-	-	-	-	-
49	同前一丁目遺跡	-	-	2005.10.26～2005.11.10	88m ²	都市計画道路	川田2006
50	龜井戸跡	-	-	2010.3.16～2010.4.2	60m ²	-	高上2011
51	大井戸	-	-	2010.7.26～2010.9.30	890m ²	-	報告書未刊
52	御賀城跡	-	-	-	-	-	-

* 高松城跡は立会調査および試掘調査も記載

隣の愛宕神社や若一王子神社の創建のいわれによれば、13世紀後半に社殿があったと考えられ、中世以降の土地利用のあり方や周辺の社会環境を想定できる資料が徐々に増加しつつあり、当遺跡の調査もその状況をより鮮明にすることが一つの課題でもあった。

以上の点から、中世の高松城周辺は多くの寺院や多くの小領主を抱えることができるだけの経済的基盤を有し

た港町「野原」と考えられ、地域の中心機能を果たしていた可能性は高い。

近世の城内の状況については、これまで発掘調査や絵図等の研究により、多くのことが明らかとなっている。ここでは、森下友子氏（1996）の整理を踏まながら、当遺跡周辺の江戸時代における歴史的変遷の状況を整理しておきたい。17世紀前半の『生駒時代譜』岐高松城屋敷

割図』によれば、当遺跡周辺は侍屋敷が広がり、西側は塙焼浜と書かれているように、この段階では浜が広がっていたようで、城下町の西端は見性寺付近である。

絵図等によれば、17世紀中頃には当遺跡周辺は武家屋敷として土地利用が開始されていることが明らかである。また、見性寺や弘慈寺、蓮華寺の存在がうかがえる。これらのことから、生駒家による城下町の整備範囲がおおよそ当遺跡付近までであったことが分かる。その後、大手筋周辺の町人街の変遷からも明らかなように、藩主の生駒家から松平家への移行に伴い、高松城下も大きく変化することとなる。18世紀代の絵図によれば、城下町の状況も変化し、大手筋以外にも町屋が展開し、当遺跡周辺にも西通町、鉄砲町、高嶋町、木蔵町などが形成され、その筋の南北に武家屋敷が展開している様子が描かれており、これ以後、当遺跡の所在地も含め、各武家屋敷に居住していた武士の変遷を追うことができる。また、先の寺院に加え、吉祥寺、泉立寺、日妙寺、常福寺、真行寺、王子稚現、愛宕神社などの寺社が増えていく様子が見て取れる^{註1)}。当遺跡周辺の城下町の基本的な区割りや寺社はこの頃に築かれ、江戸時代を通じて大きな変化は認められない。そのため、先にも述べたように初代藩主松平頼重によって城下町の整備が進められ、第2代藩主頼常にかけて（17世紀後半～18世紀初頭）高松の城下町の基本的構造が出来上がったものと考えられる。しかし、当遺跡周辺では、近代以降の都市整備等によって大きく街区が変貌し、特に当遺跡所在地およびそれ以南の地域では絵図に認められるような街区が認められない場合が多い（森下 1996）。

先にも述べたように、明治期以降、当遺跡の所在地は近代化に伴う新たな街区の形成の中で大きく変化する。遺跡名の二番丁小学校もその歴史の中でこの地につくられ、最近まで教育の場としての役割を果たしてきた。最後にその小学校の歴史について整理しておきたい。

明治5年の文部省の学制の改正により、小学校の設立が掲げられ、浜ノ町弘慈寺に第3小学校が開校した。明治6年には西浜小学校（西浜町常福寺）、糸浜小学校（浜ノ町弘慈寺）、大浜小学校（浜ノ町泉立寺）となり、明治7年には県の補助が取りやめとなり、西浜小学校が廃校となった。その後、明治9年に公私立学校を廃止し、高松と接続する村を13学区に分けた。そして、先の2校が西浜小学校、日新小学校となった。明治17年には先の13学区を1学区とし、日新小学校が第5高松小学校、西浜小学校が第5小学校の分校となった。明治19年には小学校令の交付により第5小学校は五番丁尋常小学校

に統合され、第5小学校の分校は西浜簡易小学校となる。さらに、明治23年の改正小学校令によって、明治25年に西浜簡易小学校を廃し、四番丁尋常小学校に統合される。その後、西通町周辺には明治35年に二番丁小学校が、明治41年には西浜小学校が創立されている。明治期の教育制度の変化の最終段階に二番丁小学校が創立されたのである。この二番丁小学校は昭和59年に旧校舎の配置となり、平成21年まで続いている。校舎は運動場に対してアーチ状を呈する非常に珍しい形状である。平成13年に創立100周年を迎えたが、市街地の空洞化に伴う生徒数の激減が要因となり、平成20年から統合小学校の新校舎建設が開始された。平成22年4月に、旧二番丁、旧四番丁、旧日新小学校校区の生徒が通う新番丁小学校として生まれ変わったのである。

【註】

1) 絵図には描かれていないが、それ以前から存在が想定される寺社もある。

【主要参考文献】

- 井上正夫 2007 「経済史の観点から」『四国村落研究会シンポジウム「港町の原像－一中世港町・野原と讃岐の港町－」』四国村落道路研究会
- 上野進 2007 「野原をめぐる寺社と領主」『四国村落研究会シンポジウム「港町の原像－一中世港町・野原と讃岐の港町－」』四国村落道路研究会
- 永年会 1932 「増補高松港記」
- 胡光 2007 「[高松城下園原風]」の歴史的前提」『調査研究報告 第3号』香川県立博物館
- 大崎和則はか 1999a 「史跡高松城跡（地久櫓跡・三ノ丸跡）」高松市教育委員会
- 大崎和則はか 1999b 「松平公益会事務所改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」高松市教育委員会・財団法人松平公益会
- 大崎和則 2002 「香川県伊豫護土会館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」高松城跡（松平大膳家上屋敷跡）」高松市教育委員会・香川県伊豫護土会
- 大崎和則 2004 「高松城跡（外堀、西内町、共同住宅建設）」高松市内道路発掘調査概報
- 大崎和則 2015 「平成15年度国庫補助事業」－高松市教育委員会
- 大崎和則 2006 「高松城跡（外堀、兵庫町）」」高松市内道路発掘調査概報
- 大崎和則 2007a 「史跡高松城跡整備報告書」第1冊 鉄門石垣調査・保存整備工事報告書」高松市・高松市教育委員会
- 大崎和則 2007b 「高松城の発掘成果から」『四国村落研究会シンポジウム「港町の原像－一中世港町・野原と讃岐の港町－」』四国村落道路研究会
- 大崎和則 2008a 「史跡高松城跡整備報告書」第2冊 石垣基礎調査報告書」高松市・高松市教育委員会
- 大崎和則 2008b 「高松城」『季刊考古学 第103号』特集 逆境城郭と城下町：鹿児島園
- 大崎和則 2008c 「史跡高松城跡整備報告書」第3冊 玉藻解体・記録保存調査報告書」高松市・高松市教育委員会
- 大崎和則 2010a 「史跡高松城跡・中堀南岸石垣（石垣復旧）」－「高松市内道路発掘調査概報平成21年度国庫補助事業」高松市教育委員会
- 大崎和則 2010b 「史跡高松城跡」『香川県文化財年報』（平成20年度）香川県教育委員会
- 小川賢 2002 「片原町道路」『香川県埋蔵文化財調査年報 平成12年度』香川県教育委員会
- 小川賢はか 2004 「新ヨンテンビル別館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」高松城跡（松平大膳家上屋敷跡）』高松市教育委員会・四電ビジネス株式会社
- 小川賢はか 2005 「共同住宅建設（コトデン片原町バーキング路地）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告」高松城跡（東町奉行所跡）』高松市教育

- 委員会・高松平電気鉄道株式会社
 小川賀 2006a 「高松城跡（寿町二丁目）」「高松市内遺跡発掘調査概報－平成 17 年度国庫補助事業－」高松市教育委員会
 小川賀はか 2006b 「丸亀商店街 A 街区第一種市街地再開発事業に係る
 隅地駐車場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書「高松城跡（西隅）」
 高松市教育委員会・高松市丸亀町商店街 A 街区市街地再開発組合
 小川賀はか 2007 「寿町二丁目テナントビル建設に伴う埋蔵文化財発掘調
 查報告書「高松城跡（寿町二丁目地区）」
 小川賀はか 2007 「香浜海岸線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
 第 1 番「高松城跡（江戸長屋街跡）」
 小川賀 2009 「高松城跡」「高松市内遺跡発掘調査概報平成 21 年度国庫補
 助事業」高松市教育委員会
 小川賀 2011 「高松城跡（本町地区）」「高松市内遺跡発掘調査概報平成
 22 年度国庫補助事業」高松市教育委員会
 香川県 1987a 「香川県史 第九巻 資料編 近世史料 I」
 香川県 1987b 「香川県史 第五巻 通史編 近代 I」
 香川県 1989a 「香川県史 第三巻 通史編 近世 II」
 香川県 1989b 「香川県史 第四巻 通史編 近世 III」
 香川県立文書館 1996 「香川県立文書館史料集 1 高松藩御令様之内書抜
 上巻」
 香川県立文書館 1999 「香川県立文書館史料集 2 高松藩御令様之内書抜
 下巻」
 川畠聰 2003a 「史跡高松城跡地久横台発掘調査概報 平成 11～13 年度
 調査」高松市教育委員会
 川畠聰 2003b 「史跡高松城跡（三の丸、籠櫓北側）」「高松市内遺跡発
 掘調査概報－平成 14 年度国庫補助事業－」高松市教育委員会
 川畠聰 2003c 「高松城跡（内の丸）」「高松市内遺跡発掘調査概報－平成
 14 年度国庫補助事業－」高松市教育委員会
 川畠聰 2004a 「史跡高松城跡地久横台発掘調査概報 平成 14～15 年度調
 查」高松市教育委員会
 川畠聰はか 2004b 「高松城跡（中堀、北湊町）」「高松市内遺跡発掘調査
 概報－平成 15 年度国庫補助事業－」高松市教育委員会
 川畠聰はか 2004c 「高松城跡（丸の内、都部計画道路高松海岸線街路事業）」「
 高松市内遺跡発掘調査概報－平成 15 年度国庫補助事業－」高松市
 教育委員会
 川畠聰はか 2004d 「高松城跡（丸の内、個人住宅建設）」「高松市内遺跡
 発掘調査概報－平成 15 年度国庫補助事業－」高松市教育委員会
 川畠聰はか 2004e 「史跡高松城跡（丸の内、丸の内公園西門料金所整備工事）」
 「高松市内遺跡発掘調査概報－平成 15 年度国庫補助事業－」高松市
 教育委員会
 川畠聰 2004f 「高松城跡（丸の内、再生水管敷設工事）」「高松市内遺跡
 発掘調査概報－平成 15 年度国庫補助事業－」高松市教育委員会
 川畠聰はか 2004g 「高松城跡（菊屋町、共同住宅建設）」「高松市内遺跡
 発掘調査概報－平成 15 年度国庫補助事業－」高松市教育委員会
 川畠聰 2005a 「高松城跡（西の丸町）」「高松市内遺跡発掘調査概報－
 平成 16 年度国庫補助事業－」高松市教育委員会
 川畠聰はか 2005b 「高松城跡（内堀）」「高松市内遺跡発掘調査概報－
 平成 16 年度国庫補助事業－」高松市教育委員会
 川畠聰はか 2005c 「高松城跡（丸の内）」「高松市内遺跡発掘調査概報－
 平成 16 年度国庫補助事業－」高松市教育委員会
 川畠聰 2005d 「高松城跡（丸の内）」「高松市内遺跡発掘調査概報－平成
 16 年度国庫補助事業－」高松市教育委員会
 北山健一 1999 「香川県歴史博物館建設計に伴う埋蔵文化財発掘調査報告
 高松城跡」香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
 小山篤 2005 「ケンブリッジ大学秘蔵明治古写真－マーケサガの日本旅
 行」凡社
 財団法人松平公益会 1964a 「高松藩祖松平重傳」
 財団法人松平公益会 1964b 「松平頼壽傳」
 佐藤竜馬はか 2003a 「サンボート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発
 掘調査報告書 第 4 冊「高松城跡（西の丸町地区）II」香川県教育委員会・
 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
 佐藤竜馬 2003b 「サンボート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調
 執報告「高松城跡（西の丸町 D 地区）」香川県教育委員会
 佐藤竜馬 2007a 「考古学的視点から見た「高松城下囲屏風」」「調査研究
 報告 第 3 号」香川県歴史博物館
 佐藤竜馬 2007b 「初期高松城下町「在地の要素」」「四国村落研究会シボ
 ジュム 港町の原像－中世港町・野原と讃岐の港町－」四国村落遺
 跡研究会
 佐藤竜馬 2007c 「戦国期 伊勢源氏の軌跡をたどる」「四国村落研究会シ
 ンボジュム 港町の原像－中世港町・野原と讃岐の港町－」四国村

落葉道研究会

- 渋谷啓一 2007 「古・高松港と瀬戸内海世界」「四国村落研究会シンポジ
 ュム 港町の原像－中世港町・野原と讃岐の港町－」四国村落遺
 跡研究会
 宮元甲正 2003 「根屋町道跡」「高松市内遺跡発掘調査概報平成 22 年度 国庫
 补助事業」高松市教育委員会
 高橋学 1992 「高松平野の地形環境－弘福寺領山田郡田園比定地付近の微
 地形環境を中心とした－」「讃岐国弘福寺領の調査 弘福寺領讃岐国山田
 郡田園調査報告書」高松市教育委員会
 高松市 1957 「重要文化財高松城 二ノ丸 月見櫓 繁櫓 波櫓 水手
 朝門修理工事報告書」
 高松市 1966 「新高松市史 II」
 高松市 1974 「史跡高松城跡保存修理工事報告書」石垣修理工事報告
 高松市 1988 「高松百年史」上巻
 高松市・高松市教育委員会 2009 「高松城史料調査報告書」史跡高松城跡
 整備報告書第 4 冊
 中西克也はか 2005 「市街地再開発関連街路事業（高松駅南線）に伴う埋
 蔵文化財発掘調査報告書 第 1 番「高松城跡（無壽院跡）」高松市
 教育委員会
 中西克也はか 2007 「市街地再開発関連街路事業（高松駅南線）に伴う埋
 蔵文化財発掘調査報告書 第 2 冊「高松城跡（寿町一丁目）」高松市
 教育委員会
 野村美紀 2007 「高松城下囲屏風」の基礎的考察」「調査研究報告 第 3 号
 香川県史跡博物館
 丹松真也 2007 「サンボート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
 報告 第 6 冊「浜ノ町遺跡」香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵
 文化財調査センター
 丹松真也 2007 「漁船集団と港町」「四国村落研究会シンボジウム港町の
 原像－中世港町・野原と讃岐の港町－」四国村落遺跡研究会
 古野徳久 2004 「サンボート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
 報告 第 3 冊「高松城跡（西の丸町地区）I」香川県教育委員会・財
 团法人香川県埋蔵文化財センター
 松岡明子 2007 「歴史の視点から見た「高松城下囲屏風」」「調査研究報
 告 第 3 号」香川県史跡博物館
 松本和彦 2003a 「高松家庭裁判所移転に伴う埋蔵文化財発掘調査報告
 高松城跡（丸の内地区）」香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化
 財調査センター
 松本和彦はか 2003b 「サンボート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財發
 掘調査報告 第 5 冊「高松城跡（西の丸町地区）III」香川県教育委員会・
 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
 松本和彦 2007 「野原の原貌と地域構造－发掘成果を中心に－」「四国
 落研究会シンボジウム 港町の原像－中世港町・野原と讃岐の港
 町－」四国村落遺跡研究会
 松本和彦 2009 「野原の原貌と地域構造－中世讃岐と瀬戸内世界」港町
 の原像（上）岩田書院
 森下英治 1995 「高松城跡」「香川県埋蔵文化財調査年報 平成 6 年度」
 香川県教育委員会
 森下友子 1996 「高松城下の絵図と城下の変遷」「財団法人香川県埋蔵文
 化財調査センター 研究要覧 IV」財団法人香川県埋蔵文化財調査セン
 ター
 山元敏裕はか 1991 「史跡高松城塔発掘調査報告書－玉藻公園整備事業に
 伴う埋蔵文化財発掘調査－」「高松市文化財調査報告書」高松市教育
 委員会
 山元敏裕はか 2004 「高松城跡（丸の内、共同住宅建設）」「高松市内遺跡
 発掘調査概報－平成 15 年度国庫補助事業－」高松市教育委員会
 山元素子はか 1999 「高松北警察署建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報
 平成 10 年度「高松城跡」香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文
 化財調査センター
 渡部明夫はか 1987 「高松城東ノ丸跡発掘調査報告書」香川県教育委員会
 渡邊誠 2008 「二番丁小学校遺跡」「高松市内遺跡発掘調査概報平成 19 年
 度国庫補助事業」高松市教育委員会
 渡邊誠 2009 「高松城跡 綾羅街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 第
 2 冊「高松城跡」
 渡邊誠 2010 「高松城跡」「香川県文化財年報（平成 20 年度）香川県教
 育委員会

第Ⅲ章 調査成果

調査成果については A, B, C 区の順序で報告する。その際、建物遺構 (SA, SB)、土坑 (SK)、溝や区画施設 (SD, SX)、ピット (SP) の順序で報告を行っていくが、遺構の切り合い関係などから同時に報告することが望ましい遺構については、適宜適切な箇所で報告を行っていくので注意いただきたい。遺構番号については調査時に A 区 : S●001, B 区 : S●101, C 区 S●201 という呼称で行ったが、A 区の遺構数が多く、重複が生じることになった。そのため頭に工区名を付与することとした。なお、紙幅の関係で、遺物の詳細については遺物一覧表を参照していただきたい。

第一節 A 区の調査成果

a 調査概要

本調査区では遺構面を 2 面（第 4 図、第 26 図）確認することができた。第 1 遺構面では建物状遺構、土坑などを多数確認した。後述するように、土坑は南東隅と北西隅に集中する傾向があり、偏在性が認められた。また、調査区南東隅部の土坑の集中する範囲は、遺構面を構成するシルト層が他の部分と異なり非常に汚れており、遺構の切り合いの検討作業に苦慮した。

第 2 遺構面は砂を基盤層とすると同時に、地山面にも当たる。ピット状の遺構が不規則に展開するが、居住に関わるような明確な遺構は確認することができず、遺物も非常に希薄であった。

b 基本層序

A 区の土層図は第 5 図である。第 1 層から第 4 層までは近現代以降の整地と考えられ、特に旧校舎建設時およびそれ以降、運動場として利用するに際して造成および補修を行っているようである。第 1 遺構面を形成する土は第 7 層の灰黄色シルトである。第 7 層直上には第 5 層が薄く堆積しており、遺構面に掘り込まれた遺構の年代の遺物を包含している場合が多い。第 2 遺構面を形成する土は第 8 層の灰オリーブ色系の砂で、基本的に第 7 層を掘り下げるところ確認できる。この第 2 遺構面を形成する砂堆は東に向かうにつれ、高くなっている、この砂堆の微地形を示すものと考えられる。

c 遺構と遺物

i) 第 1 遺構面（第 4 図）

建物遺構（第 6 図）

ASB

調査時より、いくつかの柱列を認識することができ、建物を想定できる空間が広がっていることから、現場での柱穴の柱筋と遺構埋土等から同時存在の柱穴の検出を試みたが、軸となる柱列を確認したものの、第 6 図のように柱筋のとおりが悪く、建物の明確な規模と構造は現場では判断できなかった。後述するが、敷地の西側に道路が想定でき、さらに絵図の屋敷地割から東西方向に建物が想定できる。一方、絵図などからはあまり複雑な構造をもつ建物は想定できない。以上の想定を考慮した結果が第 6 図のような復元となった。床東などがあり、単純に柱配列から構造を復元することはできないが、柱が総柱のように配列される箇所は床を想定でき、そうではない箇所は土間等が想定される。いずれにしても、明確な建物遺構の復元には至らなかった。また、多数の瓦が出土していることからある段階で瓦葺き建物になったことが想定される。その際には礎石への変化も想定されるが、今回の調査範囲ではそのような遺構は確認できなかつた。

ただし、SP 002, SP003, SP051, SP052 は同じ建物遺構もしくは横列を構成するピット群で、長方形の柱材がかろうじて残存していたが、掘り込みは 2 ~ 3 cm と非常に浅く、掘り方が存在するため、本来は第 1 遺構面よりも高い位置から掘削され設置されたと考えられる。

時期は出土遺物が認められないため判断できない。

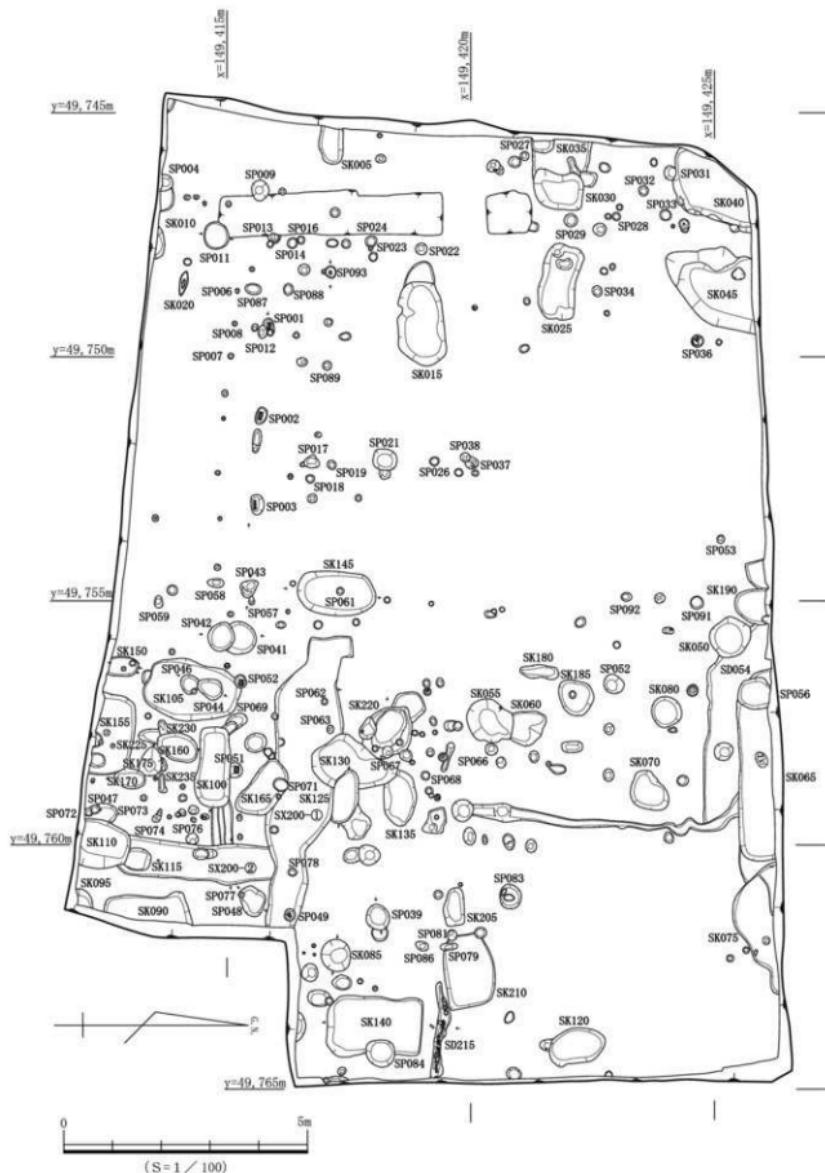
土坑

ASK005

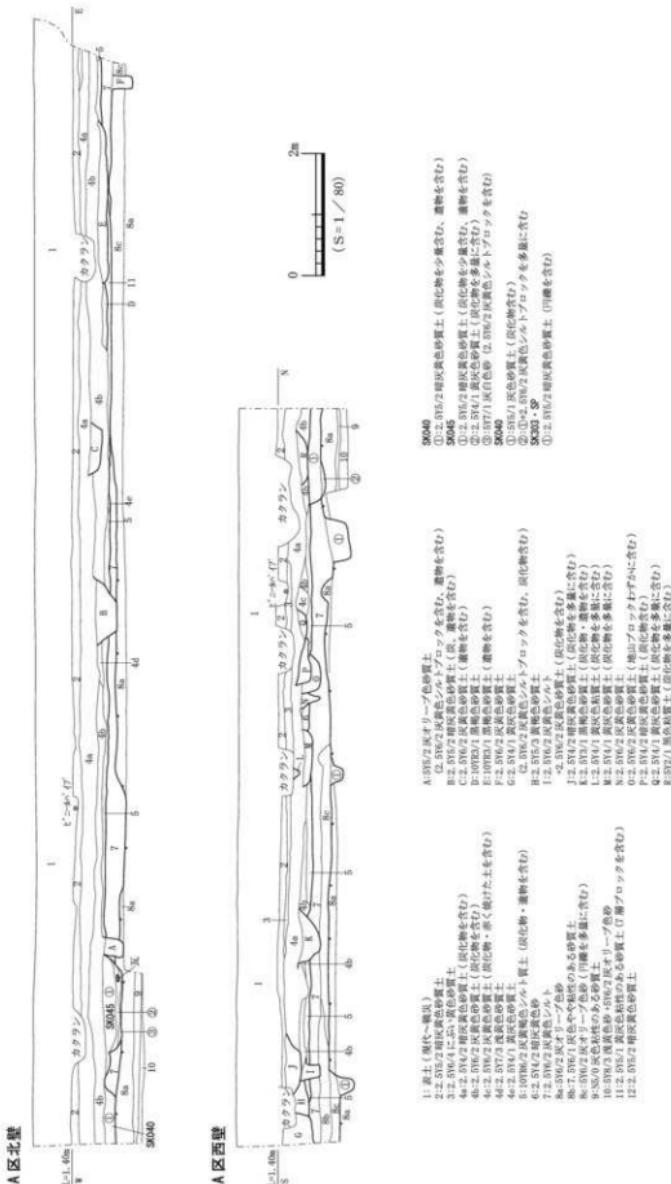
調査区南西に位置する土坑で、調査区西側へとさらに伸びる。現存で、長さ 0.8m、幅 0.45m の隅丸方形を呈する。深度は 0.38m で、埋土は炭化物および遺物を含む黒褐色砂質土である。出土遺物 (84 ~ 86) は肥前系陶器、瀬戸美濃系陶器で、時期は 17 世紀後半である。

ASK010

調査区南西部に位置し、その大部分が調査区外側へとびており、形状は不明である。現存で、長さ 0.7m、幅

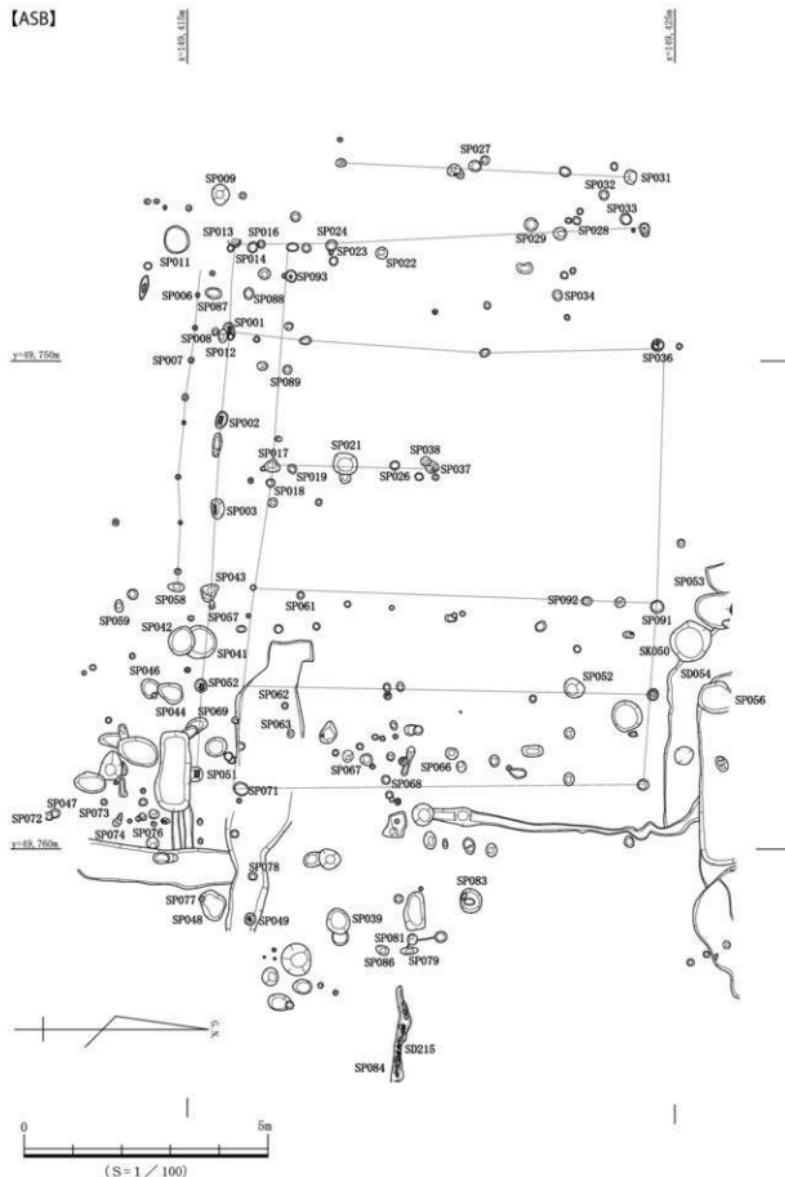


第4図 A区第1遺構面遺構配置図

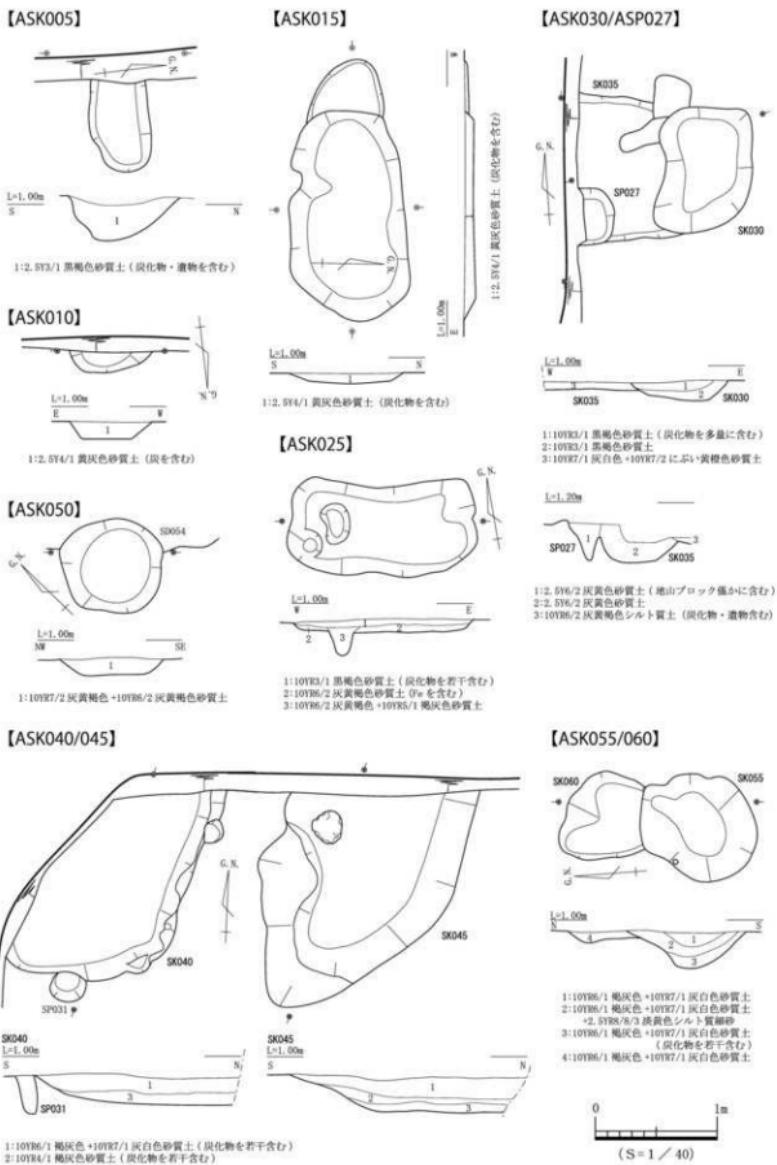


第5圖 A區土層斷面圖

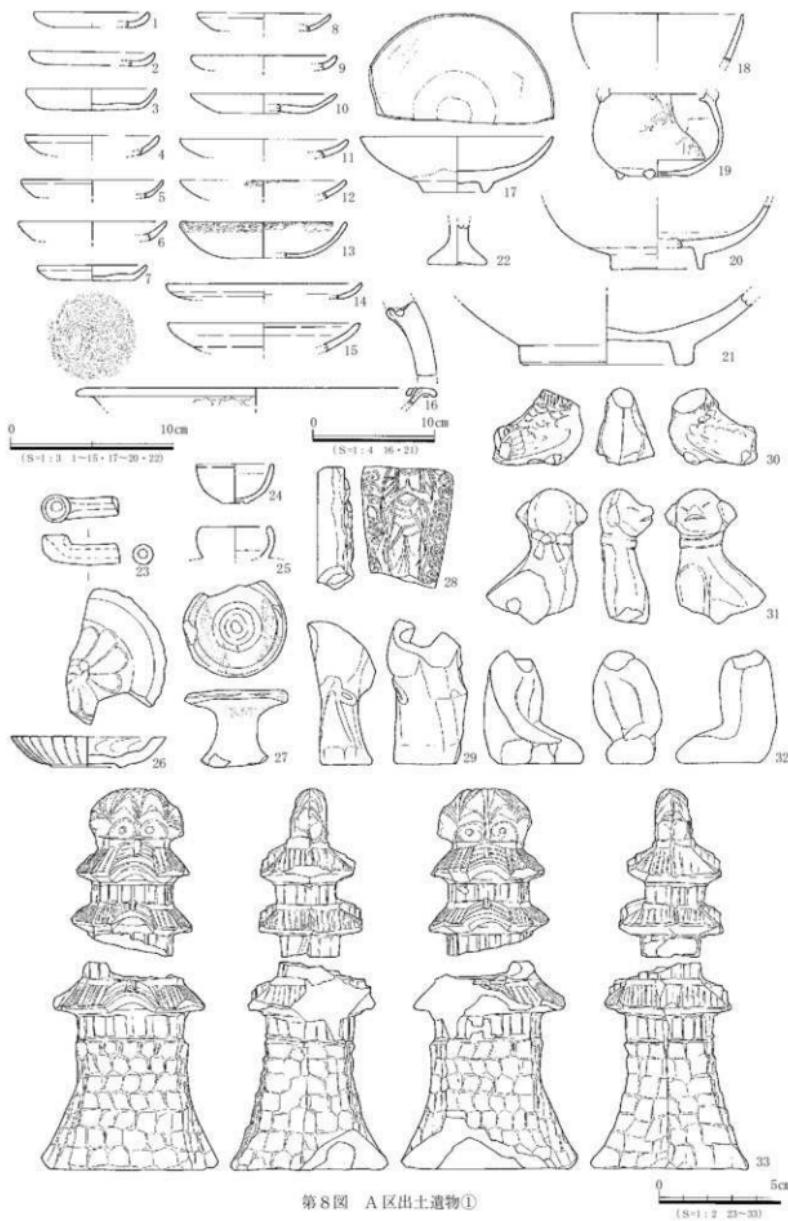
【ASB】



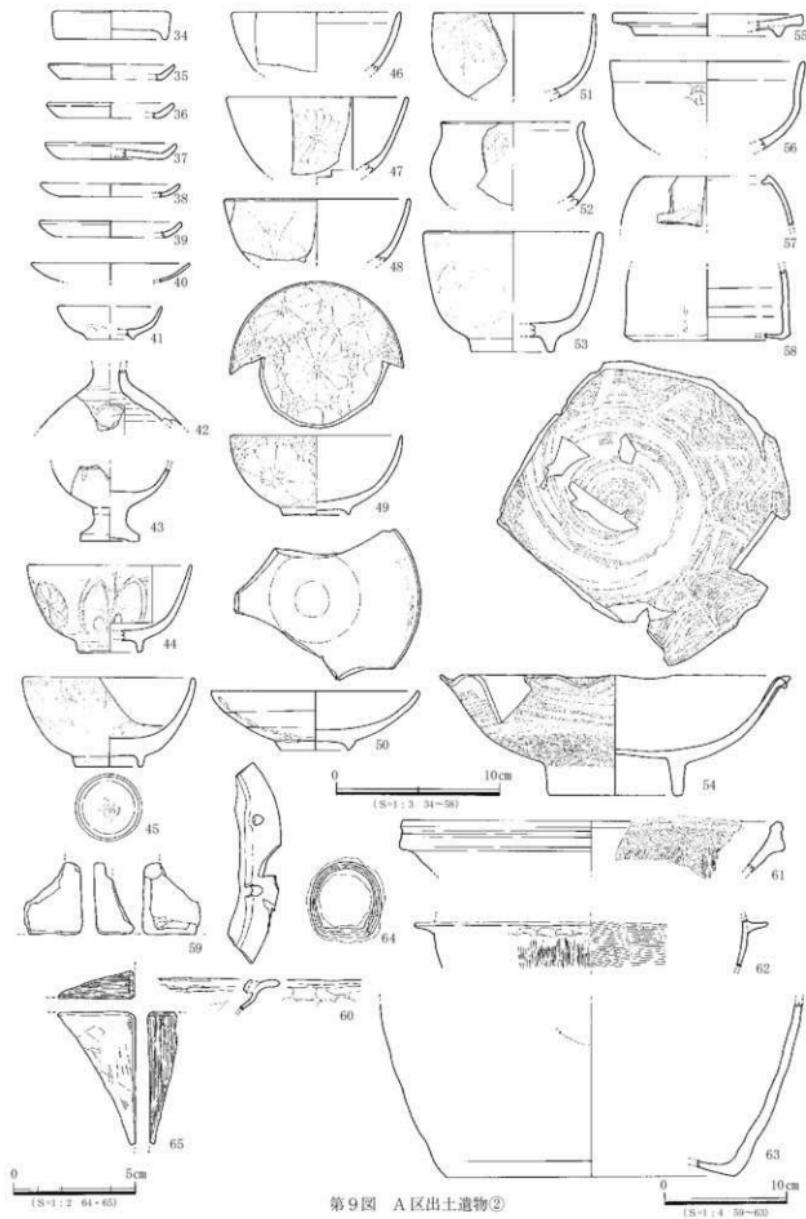
第6図 A区建物遺構関連構



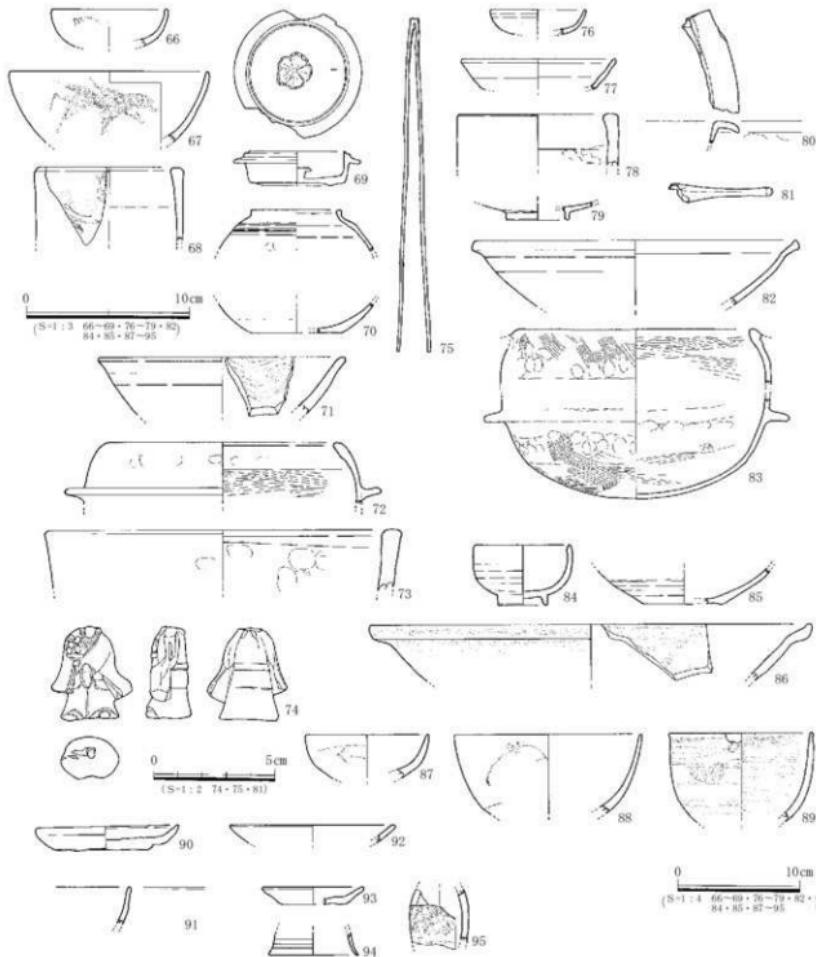
第7圖 A区土壤剖面断面圖(1)



第8図 A区出土遺物①



第9図 A区出土遺物②



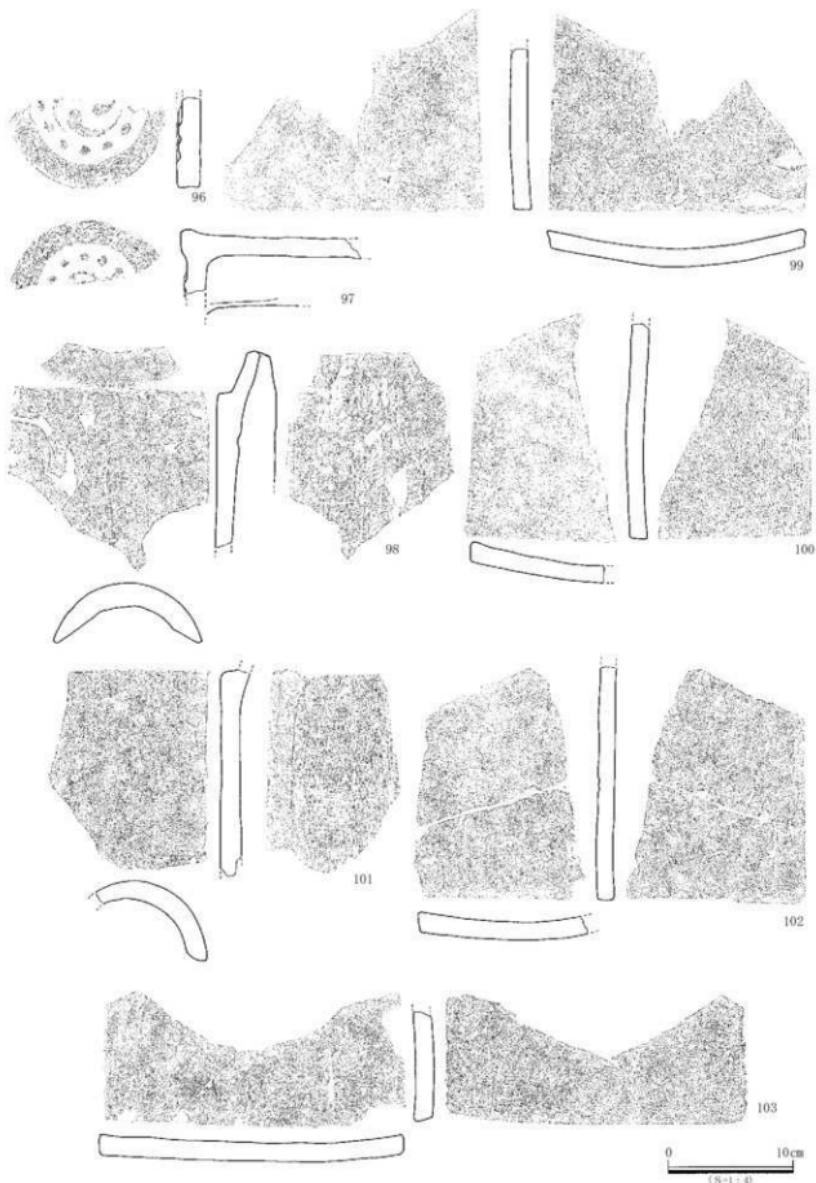
第10図 A区出土遺物③

0.16mである。埋土は黄灰色砂質土である。出土遺物(91)は土師質器で、時期は限定できない。

ASK015

調査区西側中央部に位置し、長さ1.25m、幅0.94mの

東西方向に長い楕円形を呈する。深度は0.08mで、掘り込みが非常に浅く、上層の遺構面(近代以降)からの掘り込んだものか、窯地状の遺構の可能性も想定できる。埋土は黄灰色砂質土である。出土遺物(87~89)は肥前系陶磁器で、時期は17世紀後半である。



第11図 A区出土遺物④

ASK025

調査区の北西部に位置する土坑である。長さ 1.55m、幅 0.68m を測り、やや弧状を呈し、東西方向に長い隅丸方形を呈する。深度は 0.1m で、SK015 と同様に非常に掘り込みが浅い。埋土は上層が炭化物を含む黒褐色砂質土、下層が灰黄褐色砂質土である。出土遺物（76～83）は土師質土器、肥前系陶器、瀬戸美濃系陶器、青銅製の煙管の吸い口で、時期は限定できない。

ASK030

調査区の北西部に位置する土坑で、長さ 10.5m、幅 0.7m の不整の方形を呈する。深度は 0.17m で、埋土は黒褐色砂質土で、上層が炭化物を多量に含む。SK035 を切る。出土遺物（66～75）は土師質土器、肥前系陶磁器、瀬戸美濃系陶器、京焼系陶器、土製玩具、銅製品で、時期は 19 世紀である。

ASP027

調査区の北西部に位置し、隅丸方形を呈するピットである。現存で一辺 0.46m である。深度は 0.3m で、埋土は炭化物および遺物を含む灰黄褐色シルト質土である。SK035 に切られている。出土遺物（95）は肥前系磁器で、時期は限定できない。

ASK040

調査区の北西隅に位置し、長方形を呈すると考えられるが、大部分は調査区外へと伸びる。現存で、長さ 1.5m、幅 1.35m を測る。東側に段がある。深度は 0.2m で、埋土上層は炭化物を含む褐灰色砂質土をベースとして灰白色砂質土を含み、下層は灰白色砂質土である。出土遺物（1～22）は土師質土器、肥前系陶器、京信楽系陶器、備前系陶器で、時期は 17 世紀末から 18 世紀後半である。

ASK045

調査区の北西隅に位置し、南側が突出し、おむすび形を呈する土坑で、その一部は調査区外へと伸びる。現存で長さは 1.8m、幅 1.55m を測る。西側にテラスがある。深度は 0.3m で、埋土は 3 層に区分でき、上層から、炭化物を含む褐灰色砂質土をベースとして灰白色砂質土を含む層、炭化物を少し含む褐灰色砂質土、灰白色砂質土である。出土遺物（23～65、96～100、737、741）は土師質土器、肥前系磁器、瀬戸美濃系陶器、京焼系陶器、

備前系陶器、軒平瓦、平丸瓦、土製玩具、鉄製品、砥石で、時期は 18 世紀後半である。

ASK050

調査区の北側のほぼ中央部に位置し、一辺 0.76m の不整形土坑である。深度は 0.12m で、断面逆台形を呈し、埋土は灰黄褐色砂質土である。出土遺物（90）は土師質土器で、時期は限定できない。

ASK055

調査区の中央部ほぼ東側に位置し、不整形の土坑である。長さで 0.96m、幅で 0.56m を測る。深度は 0.3m で、中央部が大きく窪む。SK060 を切る。出土遺物（92）は土師質土器で、時期は限定できない。

ASK060

調査区の中央部ほぼ東側に位置し、不整形土坑で、SK055 に切られており、全形は不明である。現存で、長さで 0.76m、幅 0.6m を測る。深度は 0.08m と浅く、埋土は褐灰色と灰白色の砂質土である。出土遺物（93～94）は土師質土器、肥前系磁器で、時期は限定できない。

ASK065

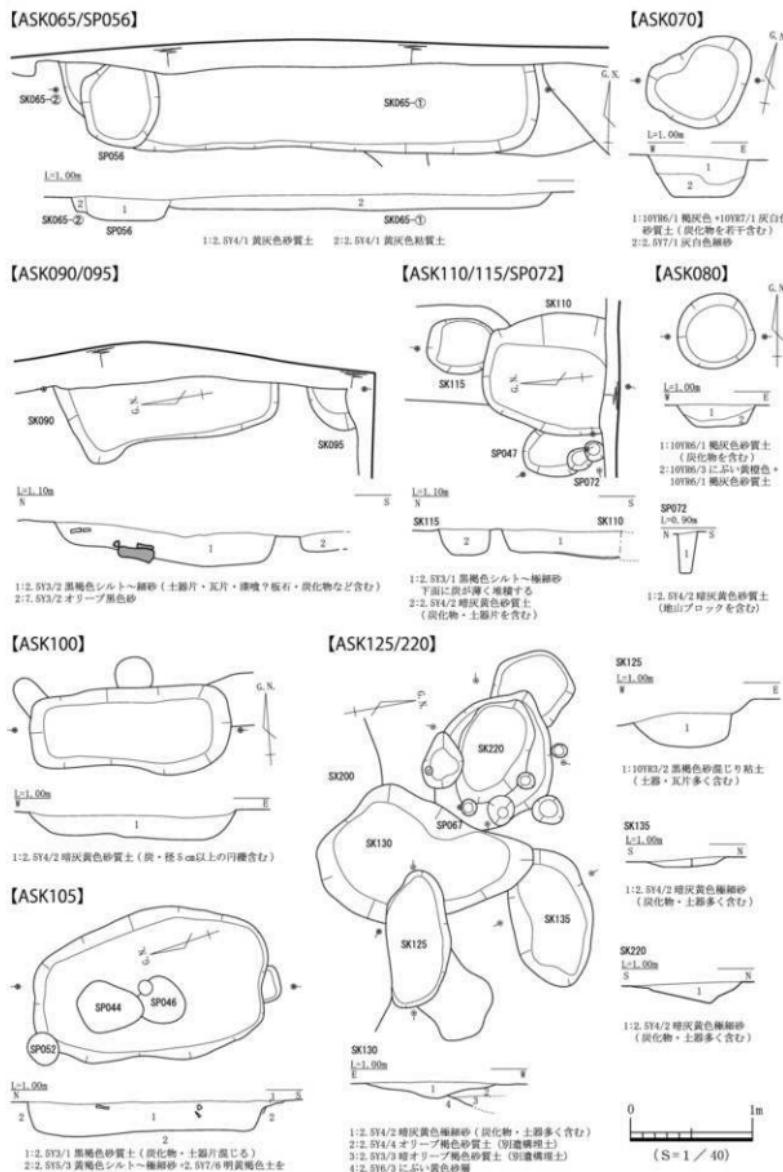
調査区の北側やや中央部より東側に位置する土坑である。さらに調査区北側へと伸びるため全形は不明であるが、長さ 3.9m、幅 0.7m と東西に長く、隅丸方形を呈する。西側の一部を SP056 に切られている。深度は 0.12m と浅く、埋土は黄灰色砂質土である。出土遺物（205～207）は土師質土器、肥前系磁器で、時期は限定できない。

ASP056

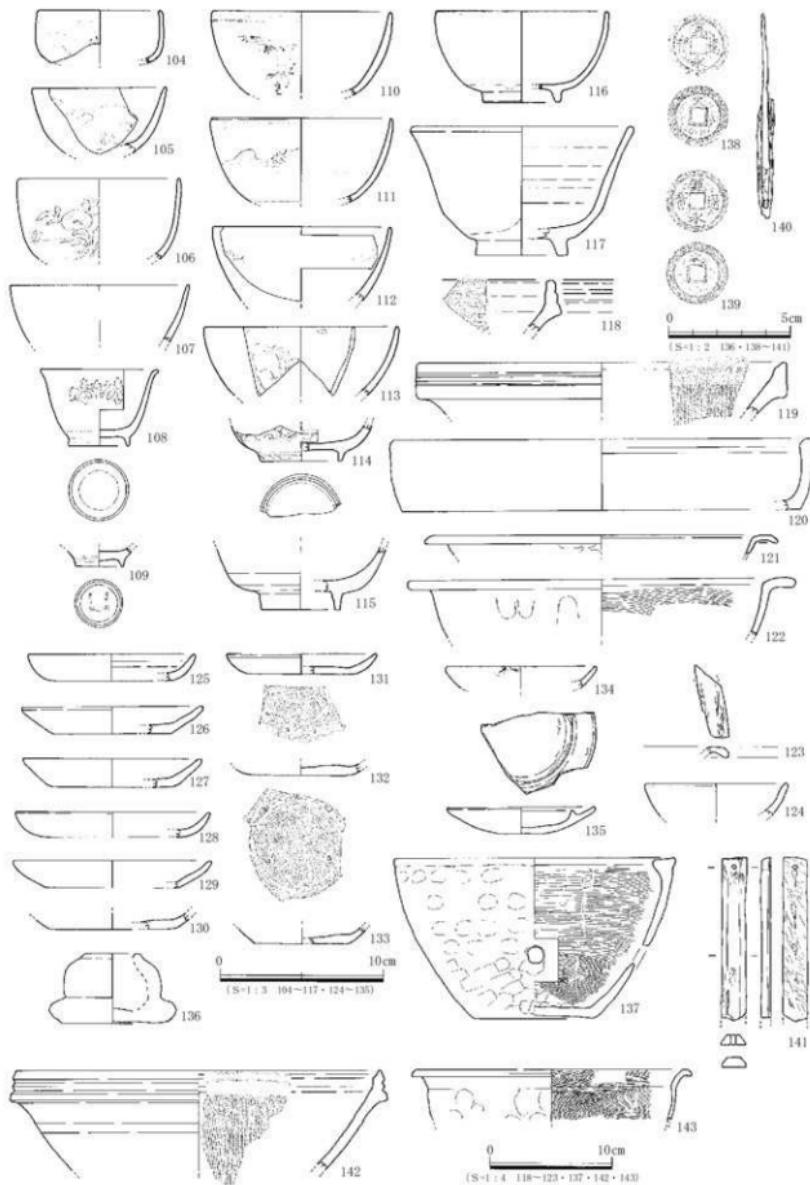
調査区の北側やや中央部より東側に位置する柱穴である。さらに調査区北側へと伸びるため全形は不明であるが、現存で長さ 0.64m、幅 0.64m とやや南北に長い、不整形な円形を呈する。SK065 を切っている。深度は 0.2m と浅く、埋土は黄灰色砂質土である。出土遺物がなく時期は判断できない。

ASK070

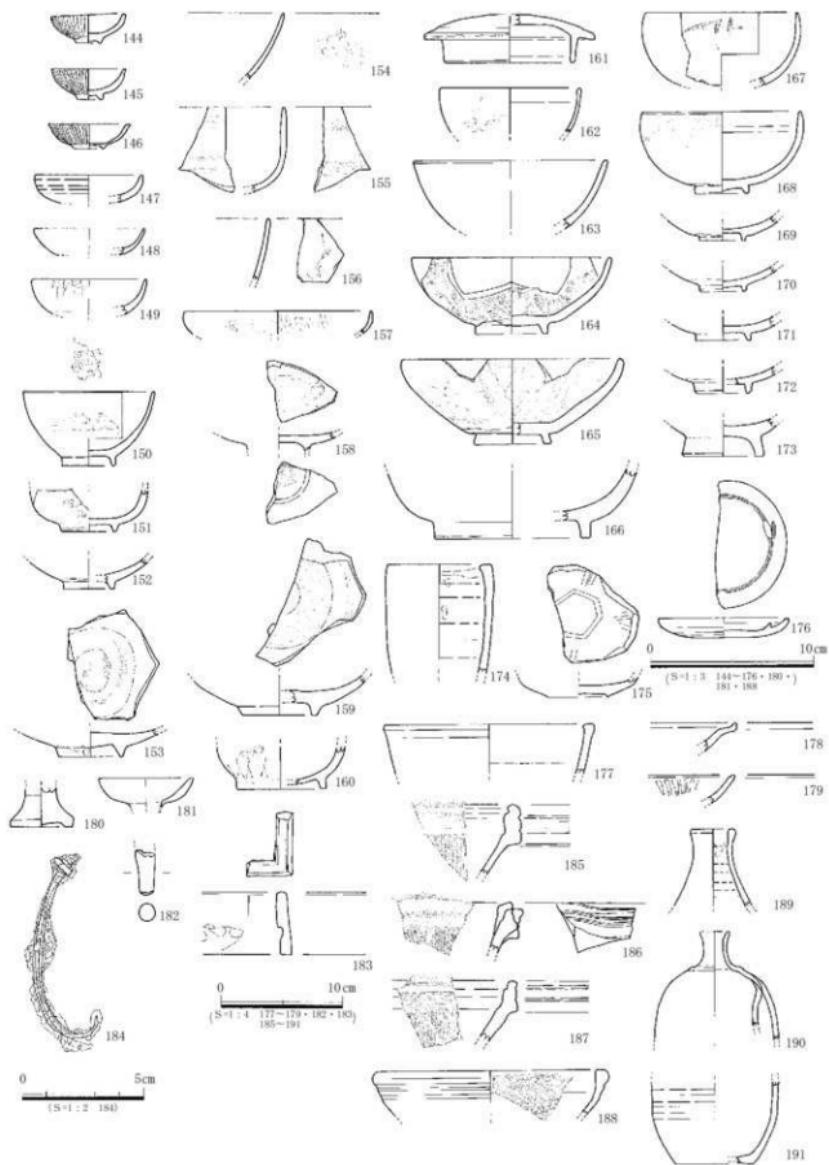
調査区北側の中央やや東よりに位置する土坑である。やや歪な隅丸三角形を呈し、底辺 0.93m、高さ 0.64m を測る。深さは 0.33m で、埋土は 2 層に区分できる。上層



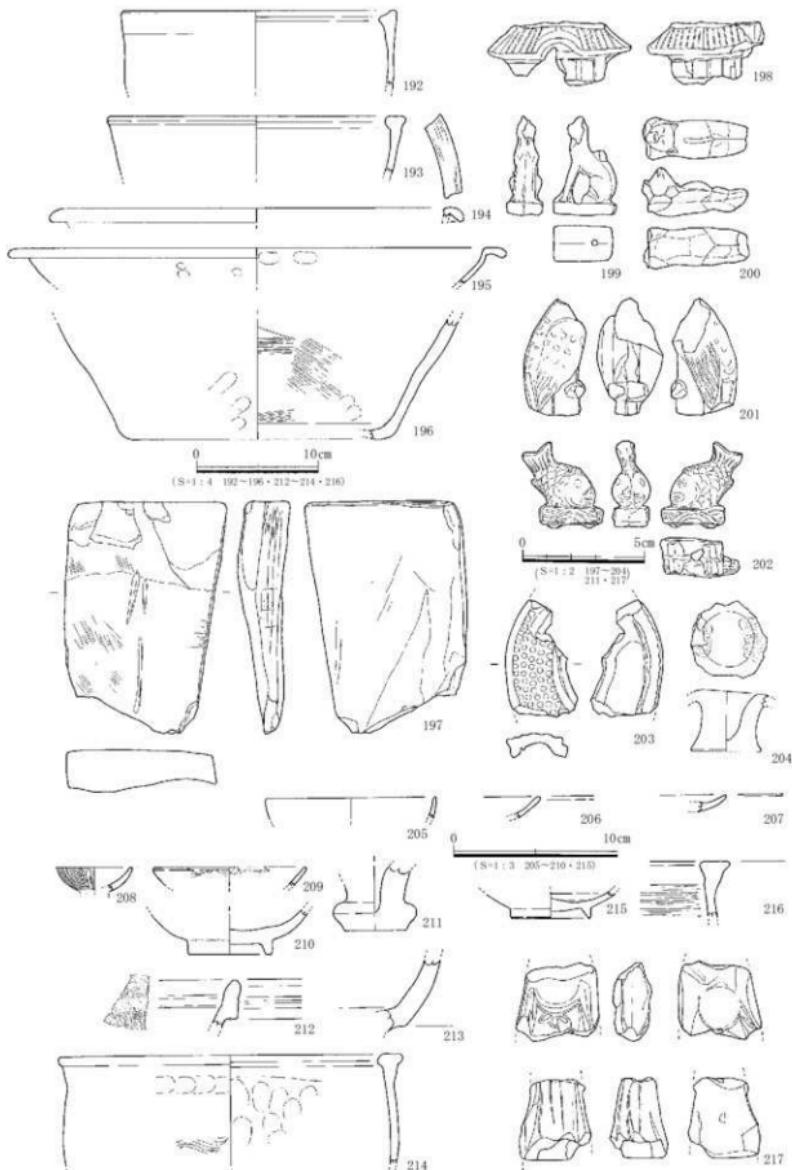
第12圖 A區土壤剖面斷面圖②



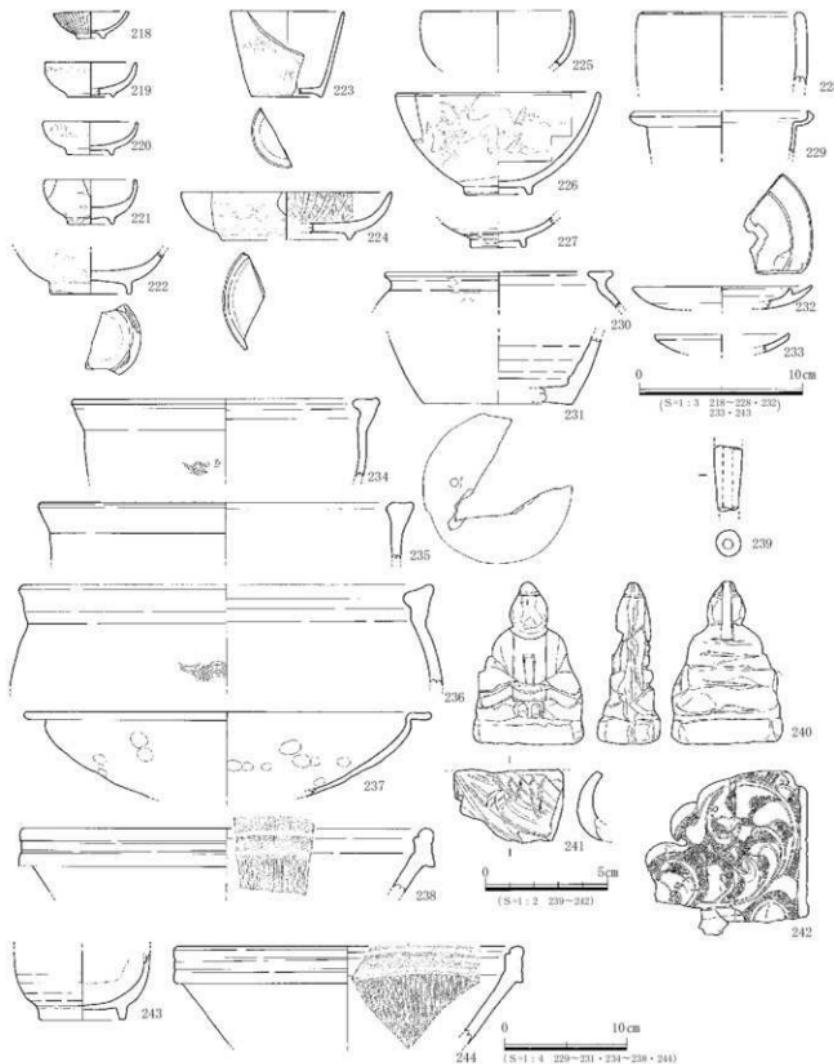
第13図 A区出土遺物⑤



第14図 A区出土遺物⑥

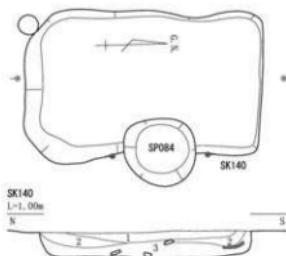


第15図 A区出土遺物⑦

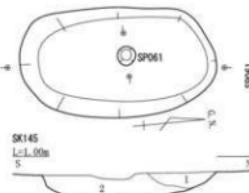


第16図 A区出土遺物⑧

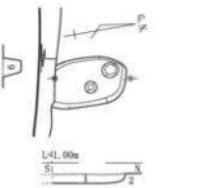
【ASK140/ASP084】



【ASK145】



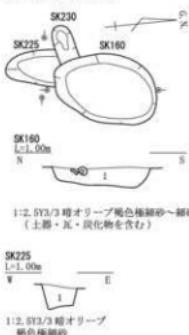
【ASK150】



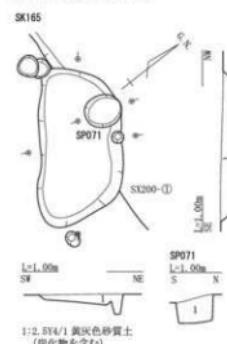
【ASK155】



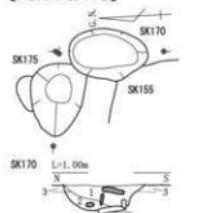
【ASK160/225】



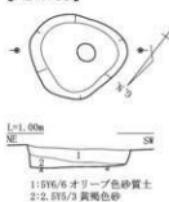
【ASK165/ASP071】



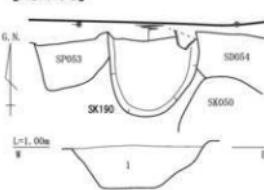
【ASK170/175】



【ASK185】



【ASK190】

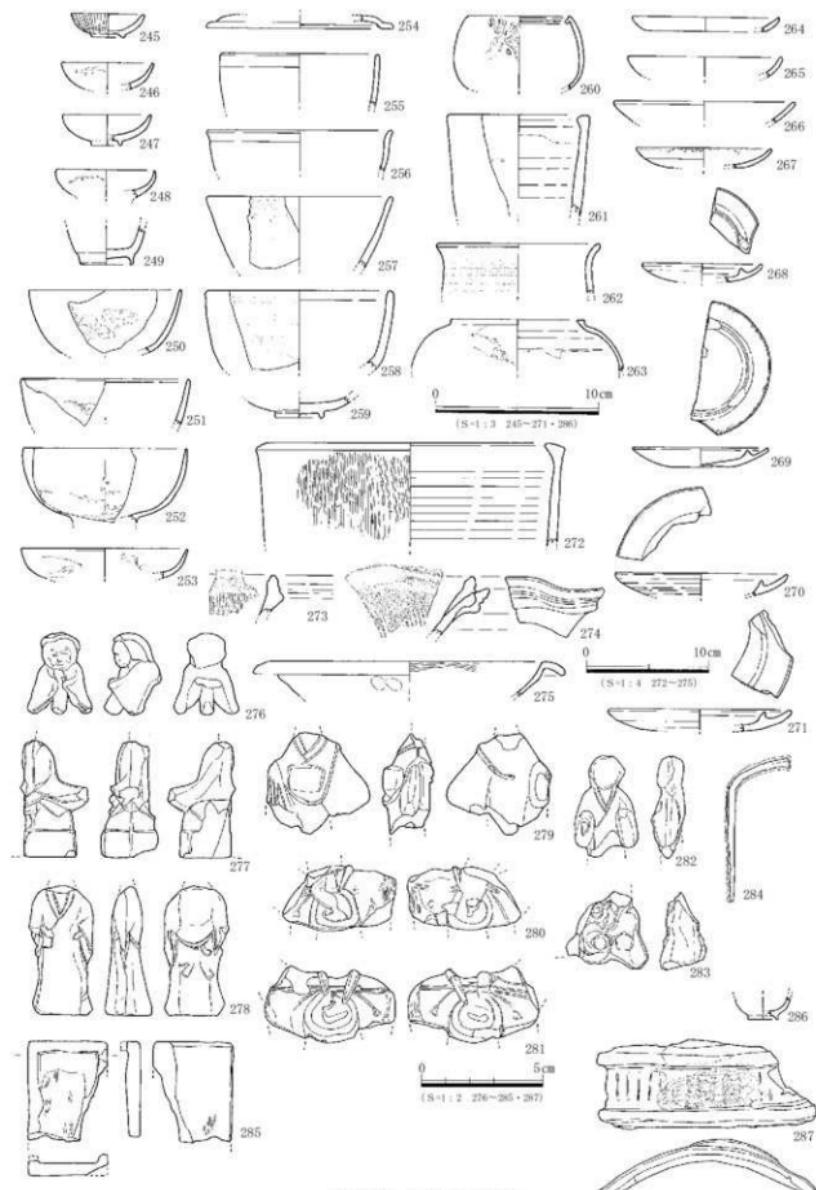


【ASK205】

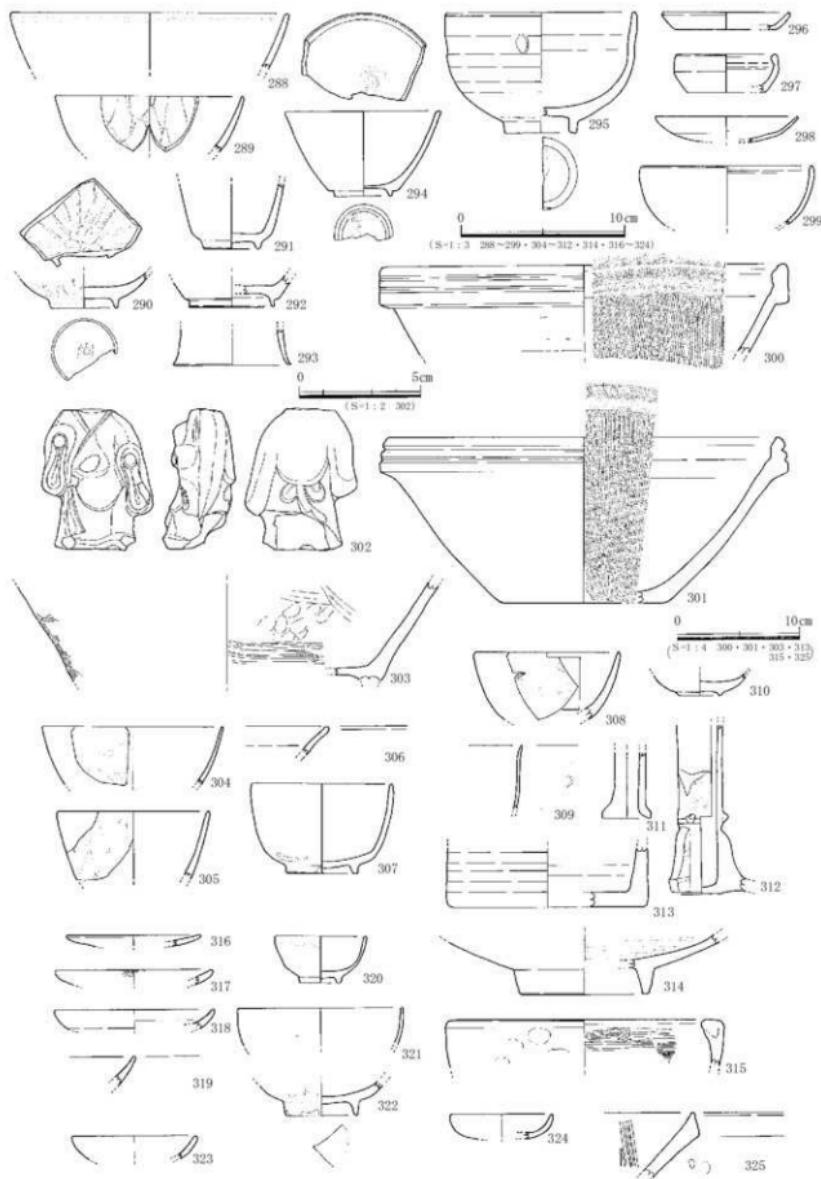


0
1m
(S = 1 / 40)

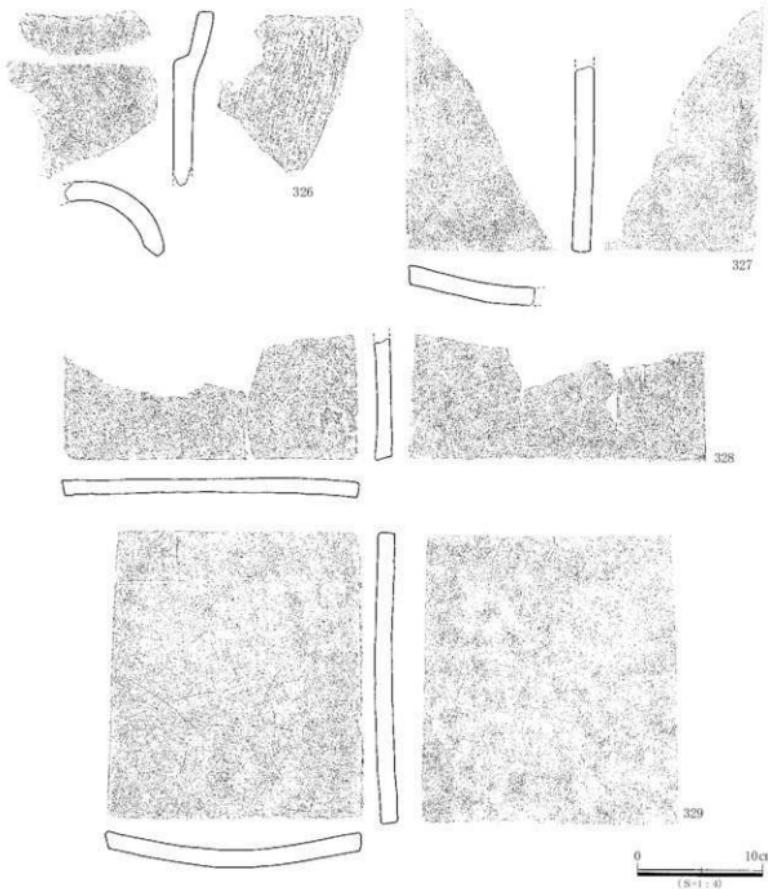
第 17 図 A 区土坑平・断面図③



第18図 A区出土遺物⑨



第19図 A区出土遺物⑩



第20図 A区出土遺物①

は炭化物を含む褐灰色と灰白色の砂質土で、下層は灰白色細砂である。出土遺物がなく時期は判断できない。

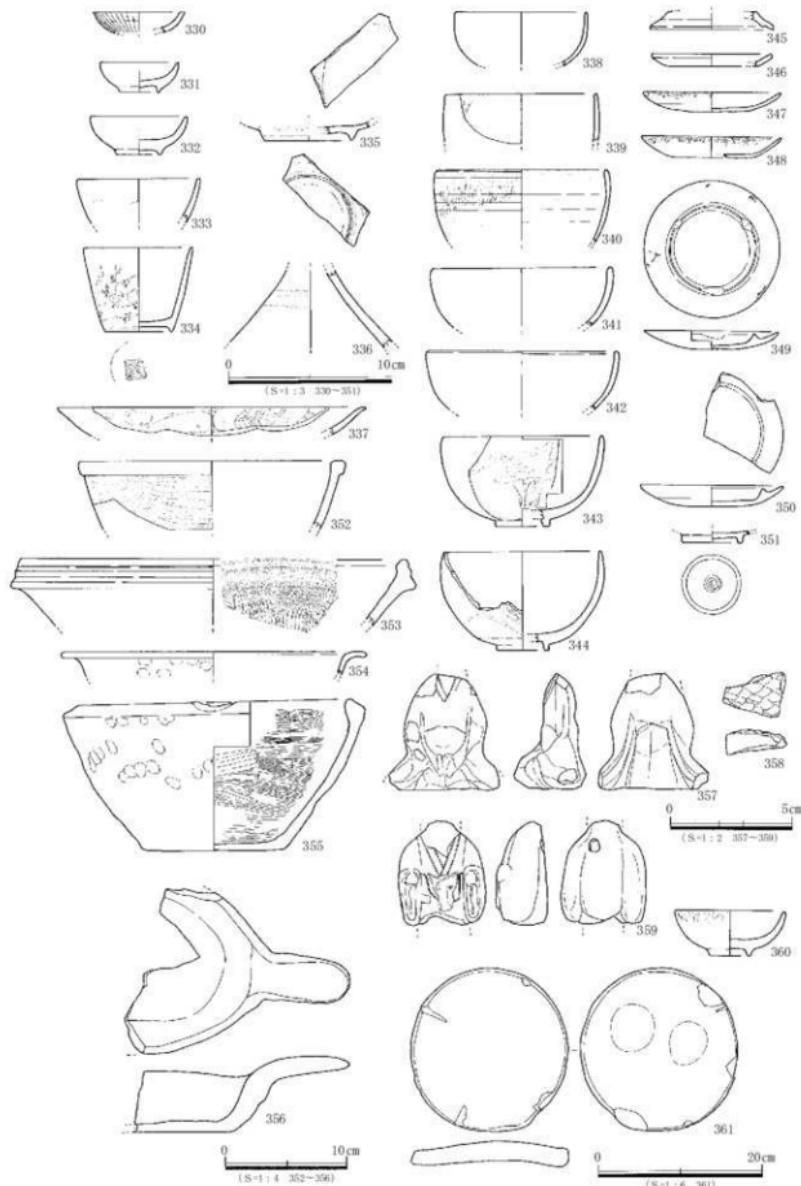
ASK080

調査区の北側やや中央部より東側に位置する土坑である。直径 0.62m のやや不整形の円形を呈する。西側の一部を SP056 に切られている。深度は 0.2m で、埋土は上層が炭化物を含む褐灰色砂質土で、下層はにぶい黄褐色

色砂質土に褐灰色砂質土を含む。出土遺物（142～143）は土師質土器、備前系陶器で、時期は 18 世紀前半である。

ASK090・095

調査区の南東隅部に位置する土坑である。検出当初は同一遺構と認識して掘削を行ったものの、上層に薄く堆積土が堆積していた状況が南側の土層で明らかとなつた。そのため、遺構としては別の遺構として報告するも



第21図 A区出土遺物⑫



第22図 A区区画施設・溝 平・断面図

の、遺物は取り上げが区分できていないため、一括して報告せざるを得ないが、包含状況および土層の観察からSK090に基本的に帰属するものと考えられる。

いずれも調査区の外側へのびるため、全形は不明であるが、現存でSK090は長さ1.7m、幅0.63mの隅丸方形。SK095は計測不能であるが円形状を呈すると考えられる。SK090の深度は0.25mで埋土が土器片などを多量に含む黒褐色シルトもしくは細砂である。SK095は深度0.16mで埋土はオリーブ黒色砂である。出土遺物(218~242, 735, 742)は土師質土器、肥前系陶器、京焼系陶器、瀬戸美濃系陶器、備前系陶器、軒平瓦、針金で、時期は19世紀である。

ASK100

調査区の南東隅に位置する土坑である。長さ1.16m、幅0.65mの東西方向に長い隅丸方形を呈する。北西隅をSP052によって切られている。深度は0.2mで、埋土は暗灰黄色砂質土である。出土遺物(245~285)は土師質土器、肥前系陶器、瀬戸美濃系陶器、京信楽系陶器、京焼系陶器、備前系陶器、土製玩具、硯、鉄釘で、時期は19世紀である。

ASK105

調査区の南東部に位置する土坑である。長さ2m、幅1.28mのやや不整形な隅丸方形を呈する。深度は0.26m

で、埋土は炭化物を含む黒褐色土である。出土遺物(144~204, 738, 740)は土師質土器、肥前系陶器、瀬戸美濃系陶器、京焼系陶器、京信楽系陶器、備前系陶器、土製玩具、硯石、軒丸瓦、鐵津で、時期は18世紀後半である。

ASK110

調査区南東隅に位置する土坑である。SK115を切り、さらに調査区南側へのびるため、全形は不明であるが、中央部分が広がる隅丸方形を呈するものと考えられる。現存で長さ1m、幅0.96mを測る。深度は0.18mで、埋土は黒褐色シルトもしくは極細砂で、最下層に炭化物が薄く堆積している。出土遺物(215~217)は土師質土器、陶器、土製玩具で、時期は限定できない。

ASK115

調査区南東隅に位置する土坑である。南側をSK110に切られ、全形は不明であるが隅丸方形を呈すると考えられる。現存で長さ0.5m、幅0.45mを測る。深度は0.2mで、埋土は炭化物を多量に含む暗灰黄色砂質土である。出土遺物(208~214)は土師質土器、瀬戸美濃系陶器、備前系陶器で、時期は限定できない。

ASP072

調査区南東隅のSK110西側に位置し、直径0.18mの



第23図 A区ピット平・断面図

円形を呈するピットである。深度0.34mで、埋土は暗灰黄色砂質土である。出土遺物がなく時期は判断できない。

ASK125

調査区中央部や東側に位置し、楕円形を呈する土坑である。SK130と切りあっており、検出状況ではその切り合関係がやや不明瞭であったが、一段下げるときSK125がSK130を切っていることが判明した。多量の瓦が出土しており、瓦の廃棄土坑と考えられる。南側をSX200に切られているが、ほぼ全形をとどめており、長さ1.13m、幅0.53mの楕円形を呈する土坑である。深度は0.28mで、埋土は遺物を多量に含む黒褐色の砂混じり粘土である。出土遺物(101, 102, 105, 106, 111, 113~117, 120, 123~130, 133, 135, 138, 139, 141)は土師質土器、肥前系陶磁器、京信楽系陶器、備前系陶器、銭、骨角器、平丸瓦等である。時期は17世紀後半から18世紀前半である。

なお、104, 107~110, 112, 118~122, 128, 131~132, 134, 136~137, 140は切り合関係を確認する際に一段下げを行った際に出土した遺物である。

ASK220

調査区南西に位置する土坑で、長さ0.96m、幅0.57m

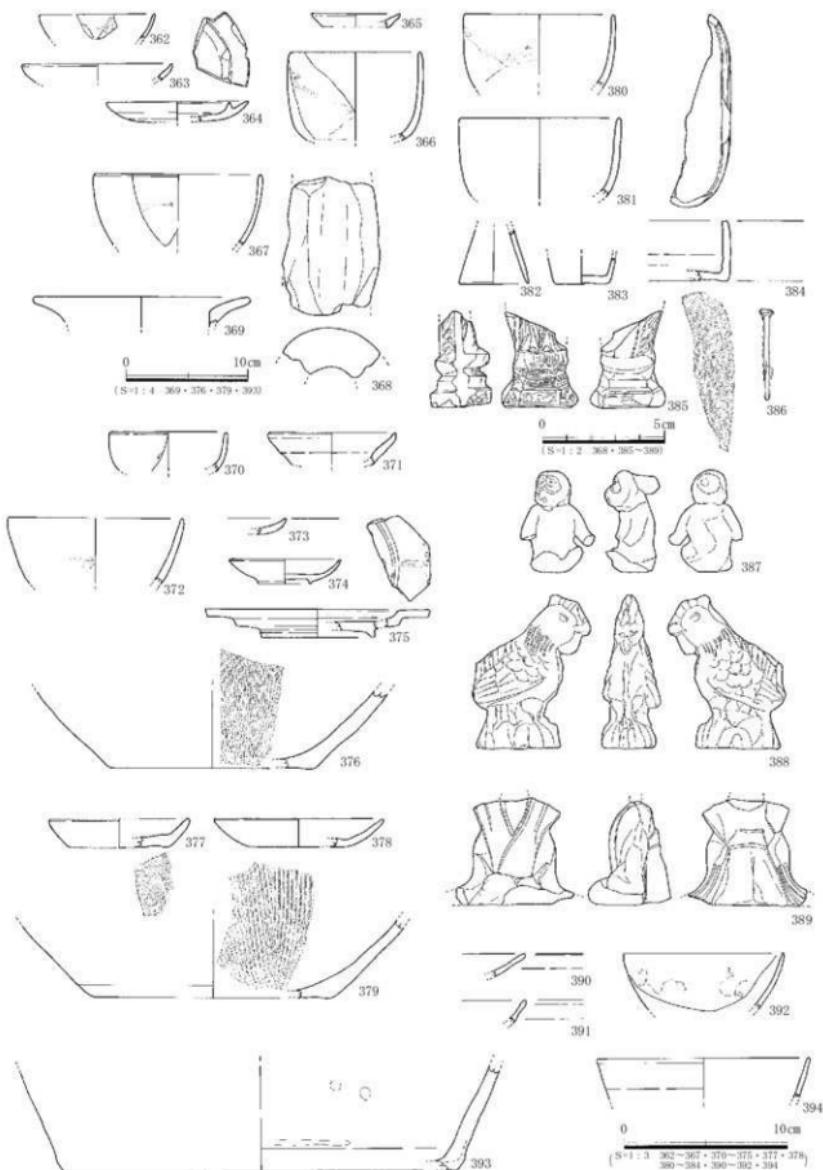
のややいびつな楕円形を呈する。深度は0.18mで、埋土は炭化物および遺物を多量に含む暗灰黄色極細砂である。出土遺物(286, 287)は肥前系磁器、土製玩具で、時期は限定できない。

ASK140

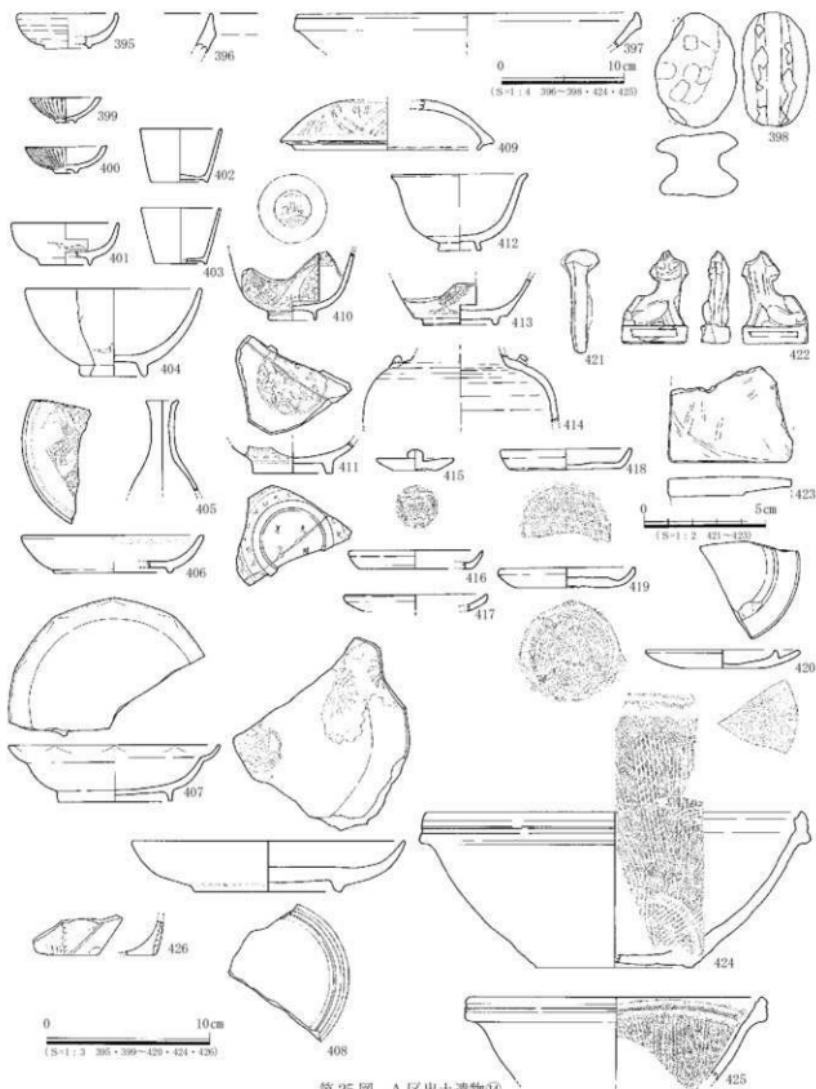
調査区東側ほぼ中央に位置する土坑で、長さ1.94m、幅1.16mの隅丸方形を呈する。深度は0.22mで、埋土は3層に区分でき、上から炭化物および遺物を含む暗灰黄色極細砂/細砂、黄褐色極細砂/砂の中にオリーブ褐色極細砂/砂も含む、炭化物および遺物を多量に含む黄灰色シルトである。SP084に切られている。出土遺物(329~359, 743)は土師質土器、肥前系陶磁器、京焼系陶器、京信楽系陶器、備前系陶器、土製玩具、軒平瓦、平瓦等で、時期は19世紀である。

ASP084

調査区東側ほぼ中央に位置するSK140の東側中央部を切っているピットである。直径0.55mの隅丸方形に近い円形を呈する。深度は0.2mで、埋土は炭化物を含む黒褐色砂質土である。出土遺物(387~388)は土製玩具で、時期は限定できない。



第24図 A区出土遺物⑬



第25図 A区出土遺物④

ASK145

調査区中央やや南よりに位置する土坑である。長さ1.62m、幅0.91mの楕円形を呈する。深度は0.26mで、

埋土は南北でやや異なり、北側が黄褐色シルト、南側が暗オリーブ褐色極細砂である。出土遺物(368)は輪の羽口で、時期は判断できない。

SK150

調査区南側の中央よりやや東側に位置する土坑である。さらに調査区南側へとのびるため、全形は不明であるが隅丸方形と考えられる。現存で長さ0.6m、幅0.4mである。深度は0.08mで、埋土は炭化物を多く含む黒褐色砂質土である。出土遺物(323)は土師質土器で、時期は限定できない。

ASK155

調査区南東隅部に位置する土坑である。SK170に北東隅部を切られ、さらに調査区南側へとのびるため、全形は不明であるが隅丸方形を呈するものと考えられる。現存で長さ1.7m、幅0.8mである。深度は0.15mで、埋土は東西で異なり、西側は暗灰黄色砂で、東側が炭化物を含む灰黄褐色シルト質土である。出土遺物(304～307)は土師質土器、肥前系陶器、京信楽系陶器で時期は17世紀後半から末である。

ASK160

調査区南東隅部に位置する土坑である。長さ0.88m、幅0.64mの楕円形を呈する。深度は0.26mで、埋土は炭化物および遺物を含む暗オリーブ褐色極細砂である。SK225、SK230を切っている。出土遺物(316～322、326)は土師質土器、肥前系磁器、丸瓦、時期は限定できない。

ASK225

調査区南東隅部に位置する土坑である。一部をSK160に切られており、全形を知ることはできないが楕円形を呈すると考えられる。現存で長さ0.47m、幅0.3mを測る。深度は0.2mで、埋土は暗オリーブ褐色極細砂である。出土遺物(380～386、731、733)は土師質土器、肥前系磁器、瀬戸美濃系陶器、備前系陶器、土製玩具、鉄釘で時期は19世紀である。

ASK165

調査区南東隅部に位置する土坑である。一部SP071に切られているが、長さ1.3m、幅0.68mの隅丸台形を呈する。深度は0.08mで、埋土は炭化物を含む黄灰色砂質土である。出土遺物(362～364)は土師質土器、肥前系磁器、備前系陶器で、時期は限定できない。

ASP071

調査区南東隅部に位置するピットで、SK165を切っている。長さ0.3m、幅0.25mの楕円形を呈する。深度は0.22mで、埋土は炭化物を含む黄灰色砂質土である。出土遺物(324)は肥前系磁器で、時期は限定できない。

ASK170

調査区南東隅部に位置する土坑で、SK155、SK175を切っている。長さ0.65m、幅0.4mの楕円形を呈する。深度は0.22mで、埋土は円礫および遺物を含む黄褐色砂質土である。出土遺物(360～361)は肥前系磁器、備前系陶器で、時期は17世紀後半から18世紀前半である。

ASK175

調査区南東隅部に位置する土坑である。一部をSK170に切られているが、長さ0.6m、幅0.45mの隅丸三角形を呈する。深度は0.12mで、埋土は炭化物および遺物を多量に含む暗オリーブ褐色極細砂である。出土遺物(367～368)は肥前系磁器、弥生土器で、時期は限定できない。

ASK185

調査区南西に位置する土坑で、一辺が大よそ0.74mの隅丸三角形状を呈する。深度は0.1mで、埋土はオリーブ色砂質土である。出土遺物(288～303、327)は肥前系磁器、京信楽系陶器、備前系陶器、土製玩具、平瓦で、時期は18世紀前半である。

ASK190

調査区北側中央に位置する土坑である。調査区北側にさらにのびるため全形は不明であるが、現存で長さ0.62m、幅0.74mの楕円形を呈すると考えられる。深度は0.35mで、埋土は炭化物および遺物を含む暗灰黄色砂質土である。出土遺物(365～366)は土師質土器、肥前系磁器で、時期は限定できない。

ASK205

調査区東側中央部に位置する土坑で、長さ0.78m、幅0.43mの不整形な隅丸方形を呈する。深度は0.18mで、埋土は炭化物を含む黄灰色砂質土である。出土遺物(308～315、328)は土師質土器、肥前系磁器、京信楽系陶器、備前系陶器、平瓦で、時期は17世紀末から18世紀後半である。

溝

ASD215

調査区東側中央部に位置する溝で、確認できる範囲で2m、幅0.15～0.2mを測る。深度0.2mで、溝の中央部には花崗岩の端材を縦方向に敷き詰めている。埋土は炭化物を含む黄灰色砂質土である。排水施設と考えられるが、近接するSK210との切り合い関係ではなく、この溝自身も調査区外へのびているため、具体的な構造の詳細は不明である。出土遺物（370）は肥前系磁器で、時期は限定できない。

ASX200

調査区南東隅に位置する溝状遺構で、切り合い関係が認められたが、埋土や掘り方などから関連するものと考え、東西に伸びるもの1、南北に伸びるもの2とした。前者はSK125、130、165によって切られている。全長3m、幅0.3～0.7mの両側が細くなる形態である。後者は北側を前者に、南側をSK110、115に切られている。全長15m、幅0.35mで、埋土は灰黄色および明黄褐色極細砂である。機能については不明であるが、区画施設の可能性が想定できる。出土遺物（371）は土師質土器で、時期は限定できない。

ASP063

調査区南東部に位置し、SX200の中にあるピットで、直径約0.15mのやや不整形な円形を呈する。深度は0.14mで、埋土は炭化物を含む黄灰色砂質土である。時期は出土遺物がなく判断できない。

その他の柱穴

ASP011

調査区南西部に位置するピットで、直径約0.5mのやや不整形な円形を呈する。深度は0.25mで、埋土は炭化物を含むオリーブ褐色砂質土である。出土遺物（393）は土師質土器で、時期は限定できない。

ASP014

調査区南西部に位置するピットで、SP011の北側に位置する。直径約0.25mのやや不整形な円形を呈する。深度は0.25mで、埋土は黒褐色砂質土である。出土遺物

(392)は肥前系磁器で、時期は限定できない。

ASP023

調査区西部の中央に位置するピットで、直径約0.12mの稍円形を呈する。深度は0.15mで、埋土は黒褐色砂質土である。SP024を切る。出土遺物（396）は土師質土器で、時期は限定できない。

ASP029

調査区北西部に位置するピットで、直径約0.12mのやや不整形な円形を呈する。深度は0.1mで、埋土は炭化物を含む黒褐色砂質土である。出土遺物（390、391）は土師質土器で、時期は限定できない。

ASP033

調査区北西部に位置するピットで、直径約0.23mのやや不整形な円形を呈する。深度は0.25mで、埋土は炭化物を含む黒褐色砂質土である。出土遺物（389）は土製玩具で、時期は限定できない。

ASP039

調査区東側ほぼ中央部に位置するピットで、直径約0.5mのやや不整形な円形を呈する。深度は0.17mで、埋土は灰黄褐色シルトもしくは粘土と灰白色シルトを縞状に含む明黄褐色シルトである。時期は出土遺物がなく、判断できない。

ASP041

調査区南部の中央よりやや東側に位置するピットで、直径約0.68mのやや不整形な円形を呈する。深度は0.3mで、埋土は炭化物を含むオリーブ褐色砂質土である。SP012を切っている。出土遺物（377～379）は土師質土器、備前系陶器で、時期は限定できない。

ASP042

調査区南部の中央よりやや東側に位置するピットで、直径約0.55mのやや不整形な円形を呈する。深度は0.23mで、埋土は炭化物を含むオリーブ褐色砂質土である。SP041を切る。出土遺物（372～376）は土師質土器、肥前系磁器、瀬戸美濃系陶器、備前系陶器で、時期は18世紀前半である。



第26図 A区第2遺構面遺構配置図

ASP077

調査区南東部に位置するピットで、直径約0.1mの円形を呈する。深度は0.06mで、埋土は炭化物を含む黒褐色砂質土である。SP048を切る。時期は出土遺物がなく判断できない。

ASP079

調査区東部の中央に位置するピットで、直軸0.36m、幅0.14mの南北に長い楕円形を呈する。深度は0.24mで、埋土は炭化物を含むオリーブ褐色砂である。SK210を切る。出土遺物（394）は京信楽系陶器で、時期は限定できない。

ASP083

調査区東部の中央部に位置するピットで、直径約0.5mのやや不整形な円形を呈する。深度は0.12mで、埋土は炭化物を含む黄灰色砂質土である。出土遺物（398）は土鍤で、時期は限定できない。

ASP088

調査区南西部に位置するピットで、直軸約0.23m、幅0.18mの東西方向に長い楕円形を呈する。深度は0.24mで、埋土は黒褐色砂質土である。出土遺物（395）は肥前系磁器で、時期は18世紀後半から19世紀初頭である。

ii) 第2遺構面（第26図）

第2遺構面では、不定形な土坑、ピットが散在し、規則的な配置は認められない。下記では遺物が出土した遺構のみ報告する。

土坑（第27図）**ASK306**

調査区南西部に位置する土坑で、長さ0.7m、幅0.6mの隅丸方形を呈する。深度は0.4mで、埋土は暗灰黄色砂質土で円礫を含む。出土遺物（430）は弥生土器で、時期は弥生時代後期である。

ASK307

調査区南西部に位置する土坑で、長さ0.6m、幅0.5mの隅丸三角形を呈する。深度は0.35mで、埋土は暗灰黄色砂質土で円礫を含む。出土遺物（429）は黒色土器で、時期は10世紀後半から末である。

柱穴（第27図）**ASP318**

調査区中央部に位置する直径0.4mの円形のピットで、深度は0.35mで、埋土は上層が灰色砂、下層が灰オリーブ色砂である。内部には木製の曲げ物が残存していたが、個のみで底板状のものは認められなかった。また、この曲げ物は腐敗が著しく取り上げることができなかつた。曲げ物の内部には、土師器の小皿が第2層中に埋置されるような状況であった。機能は明らかではないが、廃絶時の祭祀行為と推定される。出土遺物（427）は土師質土器で、時期は判断できない。

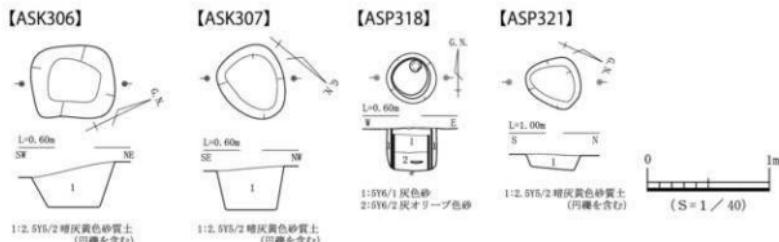
ASP321

調査区南東部に位置するピットで、長さ0.44m、幅0.4mの隅丸三角形を呈する。深度は0.6mで、埋土は暗灰黄色砂質土で円礫を含む。出土遺物（428）は弥生土器高杯で、時期は弥生時代後期である。

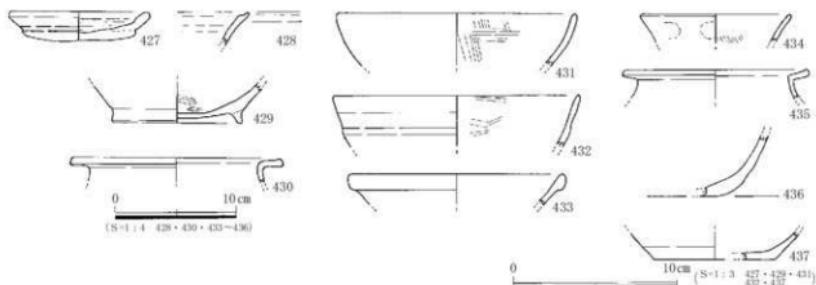
d 小結

第1遺構面は比較的安定した基盤層に遺構が掘り込まれているが、掘り込み深度が浅く、本来はもう少し高い位置から掘り込まれたことが想定される。基本層序、特に直上層の状況から、第1遺構面が造成等に伴い削平を受け、それらの堆積層が遺構面直上層を形成しているため、遺構も本来の姿をとどめていないと考えた方がよさそうである。

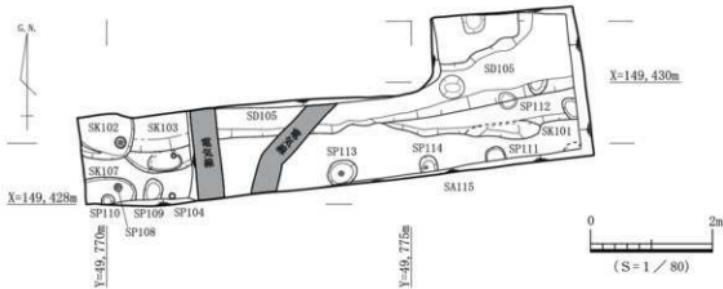
また、廃棄土坑が多く集中する範囲が認められた。具体的な建物配置の復元はできなかつたが、建物配置との関係で屋敷地内の機能分割が行われている可能性が想定される。第2遺構面では遺物も希薄で、時期を特定できる遺構は非常に少数であった。以上の成果から生活の痕跡は希薄で、居住域としての土地利用は濃密ではなかつたものと考えられる。



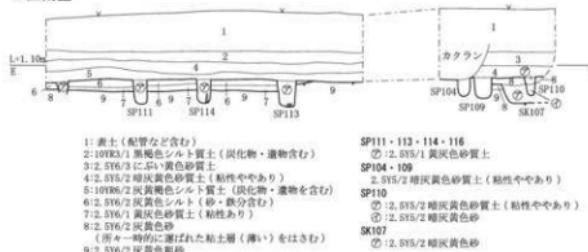
第27図 A区第2遺構面土坑およびピット平・断面図



第28図 A区第2遺構面土坑およびピット出土遺物

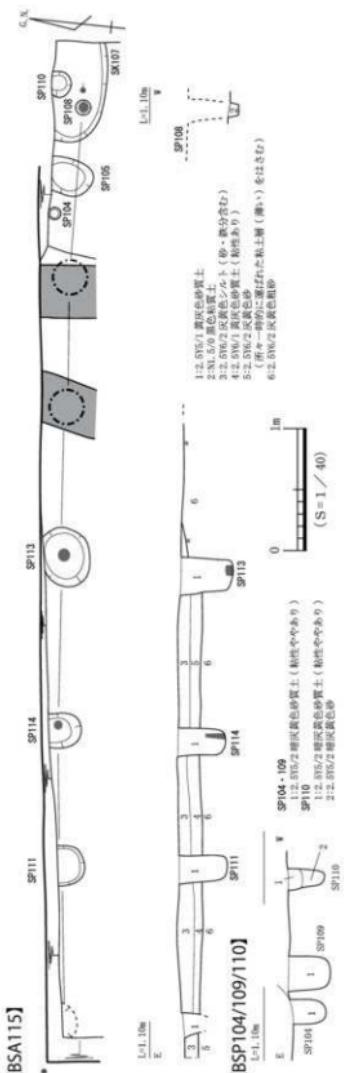


B区南壁



第29図 B区遺構配置図および土層断面図

第2節 B区の調査成果



第30図 B区構造構造・断面図

a 調査概要

B区(第29図)は東西8.4m、南北1.4mで東側がL字を呈する調査区である。水道管、電気線などによって、当初予定していた範囲より大幅に調査区を減らさせざるを得なかった。調査区の北側に東西に走る溝を確認し、それに並行する柱列を確認した。

b 基本層序

第1～3層は近現代以降の整地で、旧校舎建設時およびそれ以降、運動場として利用するに際して行われた造成および補修を行っているようである。第1造構面を形成する土は第6層の灰黄色シルトで、A区の第7層に相当する。ただし、B区の多くの遺構の状況から、近世に遡る造構面は第4層以下と考えられる。第2造構面を形成する土は第9層の灰黄色粗砂である。調査区は狭小であったため、A区のようなピットなどの遺構は僅かしか確認できなかったが、後述するように屋敷地を区画する施設と考えられる遺構を確認した。

c 遺構と遺物

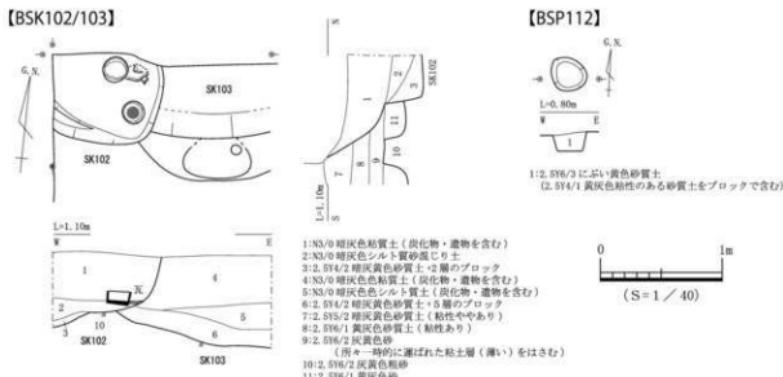
柱列および柱穴

BSA115 (SP108, 111, 113, 114)

調査区南側に位置し、東西方向に列状をなすピット群である。建物を構成する可能性も十分想定されるが、現状では建物と想定することができないため、横列として報告しておく。12mの柱間隔からすると、SP108, 111, 113, 114のはかに電気線の下に柱穴が想定でき、調査区中では7つの柱穴が想定できる。柱穴の直径は0.3~0.5m、深度0.35~0.48mである。SP108, 113, 114については柱材が残存していた。SD105と平行している点から、敷地の区画施設となる可能性が高い。時期は出土遺物がなく判断できない。

BSP104

調査区西側南壁に接するピットで、掘り込み面は搅乱によって上層が壊されているため不明である。土層から直径 0.2m、深度 0.24m である。埋土は暗灰黄色砂質土である。時期は出土遺物がなく判断できない。



第31図 B区土坑・ピット平・断面図

BSP109

調査区西側に位置し、調査区南側へと伸びる南北方向に楕円形を呈するピットである。長幅0.32m、短幅0.28mを測り、深度は0.32mである。埋土は暗灰黄色砂質土である。時期は出土遺物がなく判断できない。

BSP110

調査区西側に位置し、調査区南壁へと伸びる直径0.2mの円形ピットである。深度は0.3mで、埋土は暗灰黄色砂で、上層はやや粘性がある。時期は出土遺物がなく判断できない。

土坑

BSK102/BSK103

SK102とSK103は東端に位置する土坑である。面的に切り合いを確認することが困難で、少しずつ掘削を行ったが、最終的には調査区北壁土層にてその判断を行った。そのため、帰属遺構を区分できなかった遺物がある。SK103についてはSD105の一部の可能性が想定できるが、掘り込み面が異なること、遺物を多量に包含していたこと、SK102との切り合い関係を重視して、SK103として報告している。SK102およびSK103ともに深さ0.44mが残存している。

SK102の出土遺物(438～499、594、732、734、747、748)は土師質土器、瓦質土器、肥前系陶磁器、瀬戸美

濃系陶器、京信楽系陶磁器、備前系陶器、土製玩具、軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、鉄釘、等で、時期は19世紀である。SK103の出土遺物(500～533、569～582、588～589)は土師質土器、肥前系磁器、瀬戸美濃系陶器、京信楽系陶器、土製玩具、軒丸瓦、丸瓦、鉄製品、砥石で、時期は19世紀である。

この他に534～561、584～585、745はSK102／103の切り合い確認のために一段下げを行った際に出土した遺物である。

BSP112

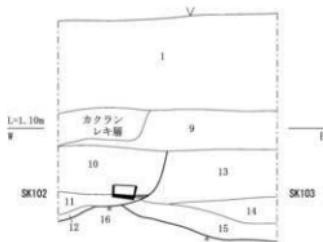
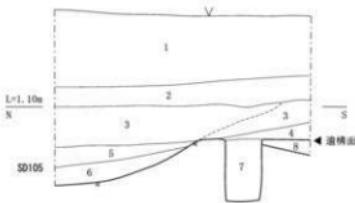
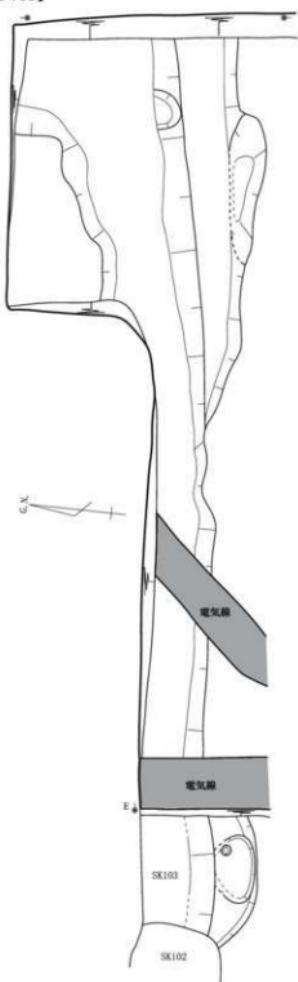
SD105下層で検出したピットで、第2遺構面に伴うものと考えられる。隅丸三角形状を呈し、長幅0.3m、短幅0.25mを測る。深度は0.13mで、埋土はにぶい黄色砂質土である。出土遺物(583)は土師質土器で、時期は限定できない。

溝

BSD105

これは東西に走る溝で、C区では確認できなかったことから、B区の東隅で北へと屈曲しており、調査区外へ伸びていくものと考えられる。埋土は暗灰色粘土質土である。先にも述べたようにSK103との関係についてはSK102で報告したように、SD105と同一遺構である可能性があるが、既述のとおり違いも認められ、電気線など

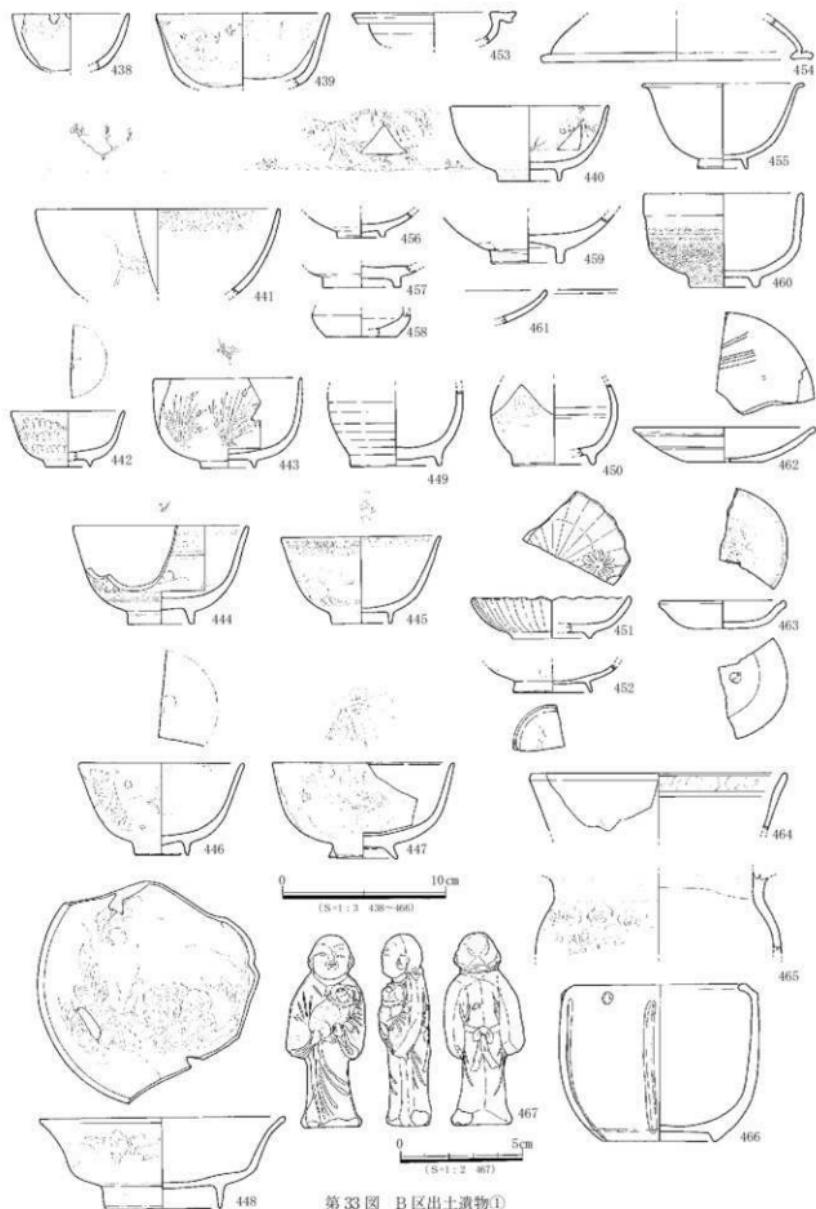
【BSD105】



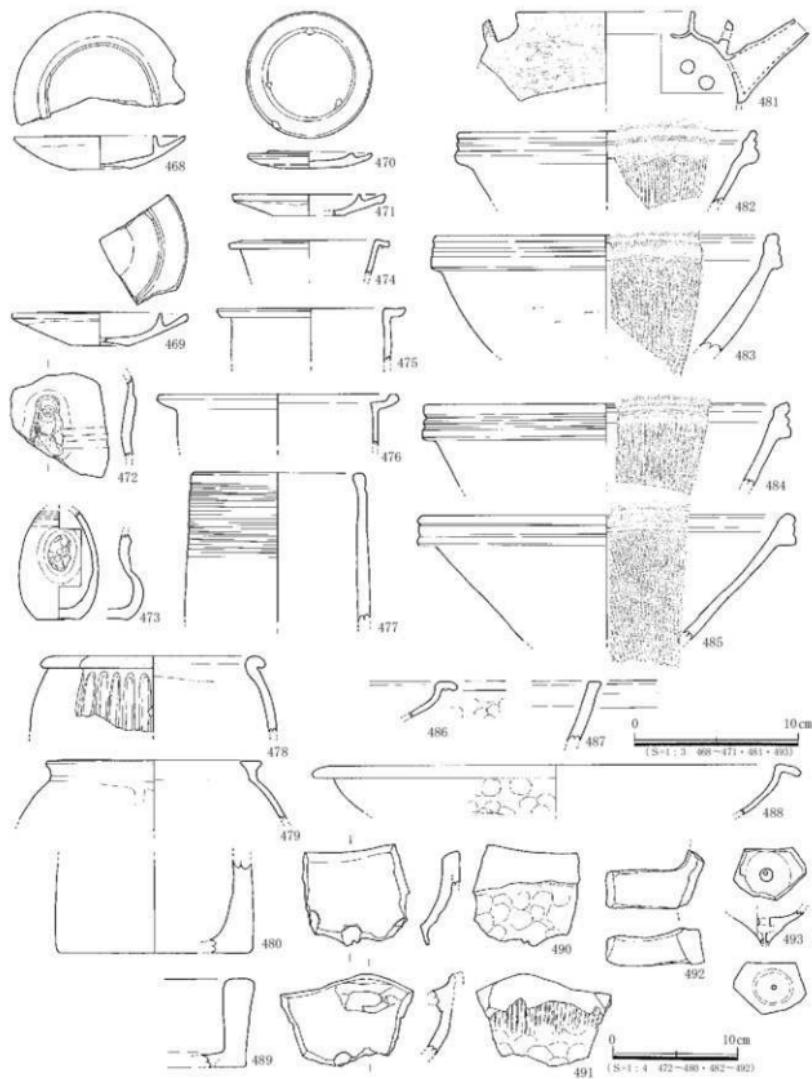
- 1: 表土 (配管など含む)
 2: 10YR3/1 黒褐色シルト質土 (炭化物・遺物)
 3: 2. 5YR5/2 深褐色砂質土 (粘性やあり)
 4: 10YR6/2 灰褐色シルト質土 (炭化物・遺物含む)
 5: 10YR5/0 暗褐色砂質土+(2. 5YR6/2 灰褐色砂ブロックを含む)
 6: 10YR5/0 暗褐色砂質土 (炭化物・小円窓を含む)
 7: 2. 5YR1/1 黄褐色砂質土
 8: 2. 5YR2/2 灰褐色シルト (砂・鉄分含む)
 9: 2. 5YR3/3 に点状黄色の質土
 10: N3/0 暗灰色粘質土 (炭化物・遺物を含む)
 11: N3/0 暗灰色シルト質砂質土
 12: 2. 5YR4/2 暗灰褐色砂質土+(11層のブロック
 13: N3/0 暗灰色粘質土 (炭化物・遺物を含む)
 14: N3/0 暗灰色シルト質土 (炭化物・遺物を含む)
 15: 2. 5YR4/2 暗灰褐色砂質土+14層のブロック
 16: 2. 5YR6/2 灰褐色細砂

0 1m
(S = 1 / 40)

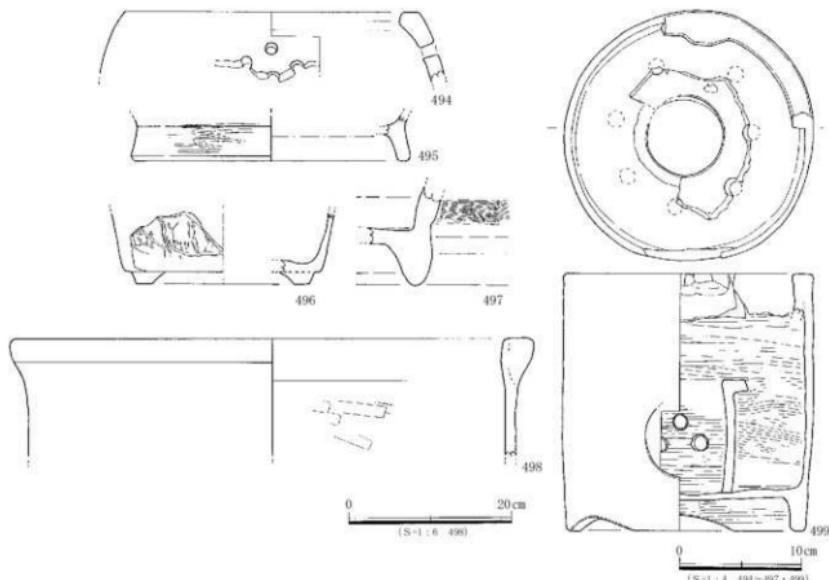
第32図 B区溝平・断面図



第33図 B区出土遺物①



第34図 B区出土遺物②



第35図 B区出土遺物③

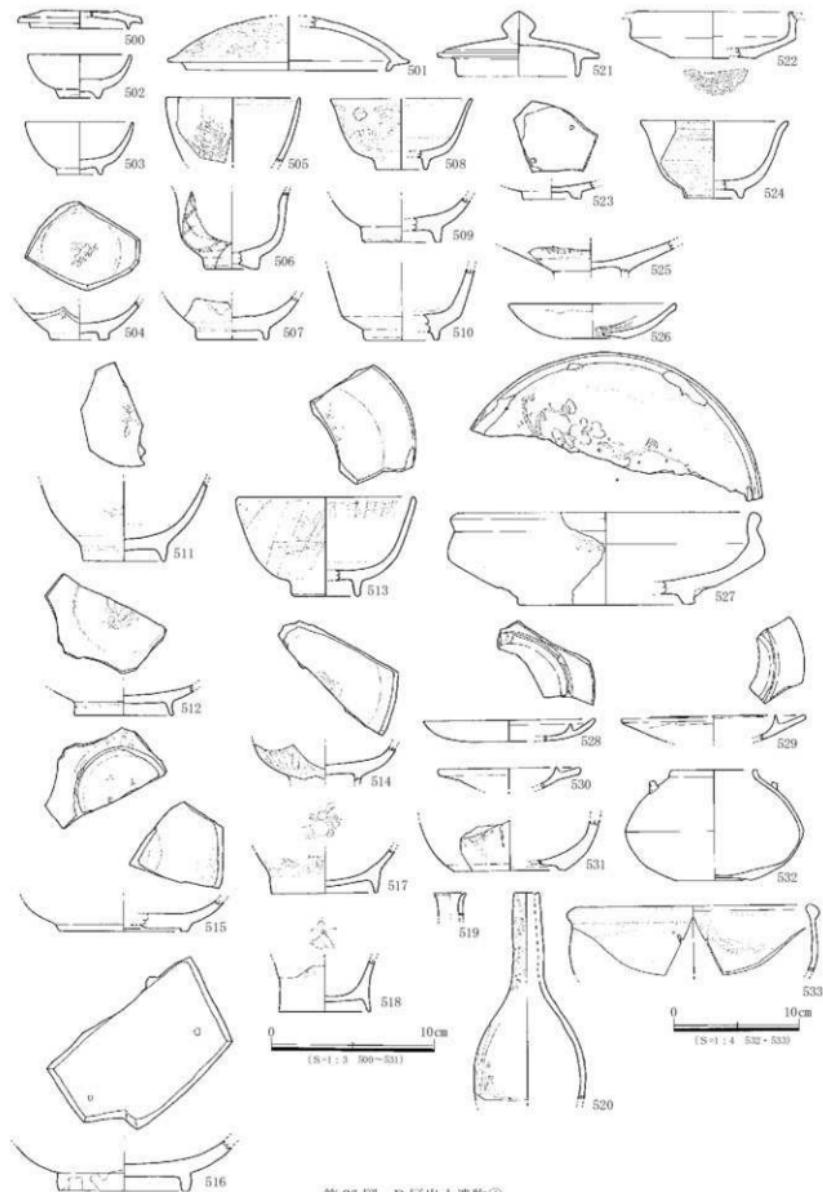
の状況から調査ができなかったことから明確に述べること
ができない。いずれにしてもこの溝はさらに西側へと
伸びていくものと考えられる。この溝に平行して、先の
SA115が確認されていることを考慮すると、区画施設
としての機能が想定される。なお、遺物取り上げ時に黒
灰色粘土層、中央掘削時とした遺物はいずれも、この
SD105の埋土から出土したものである。

土層図からも明らかなように、これらの遺構の掘り
込みは遺構面と認識した部分よりも高い面からのもの
で、基本層序で述べたように、4層以下が近世に関連す
るものと考えられる。出土遺物（565～568、587、590
～592、596～617、862）は土師質土器、肥前系陶磁器、
瀬戸美濃系磁器、京信楽系陶器、軒丸瓦、平瓦、土製玩
具で、時期は19世紀である。

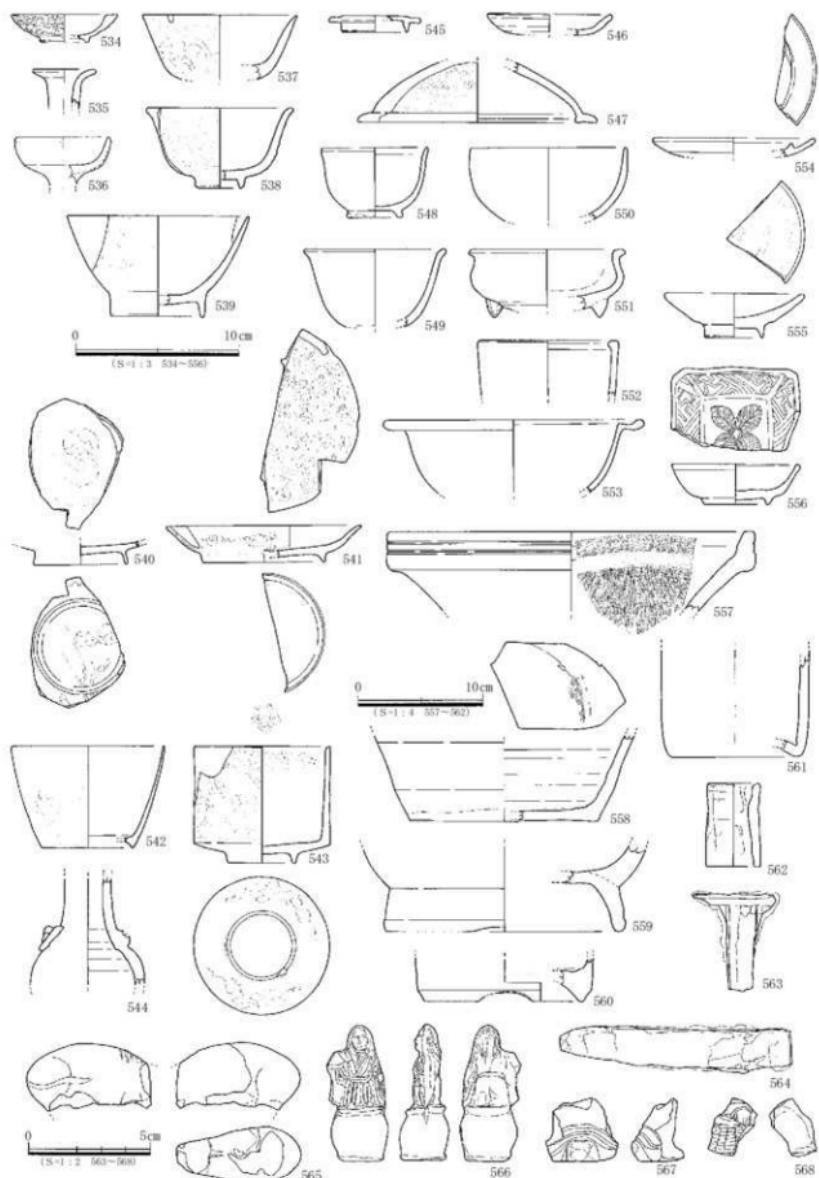
上記の他に第2遺構面に掘り込まれた遺構も僅かに確
認したが、近世以降の遺構などに大規模に擾乱され、遺
物もほとんどないことから、時期等が明らかにすること
はできなかった。

d 小結

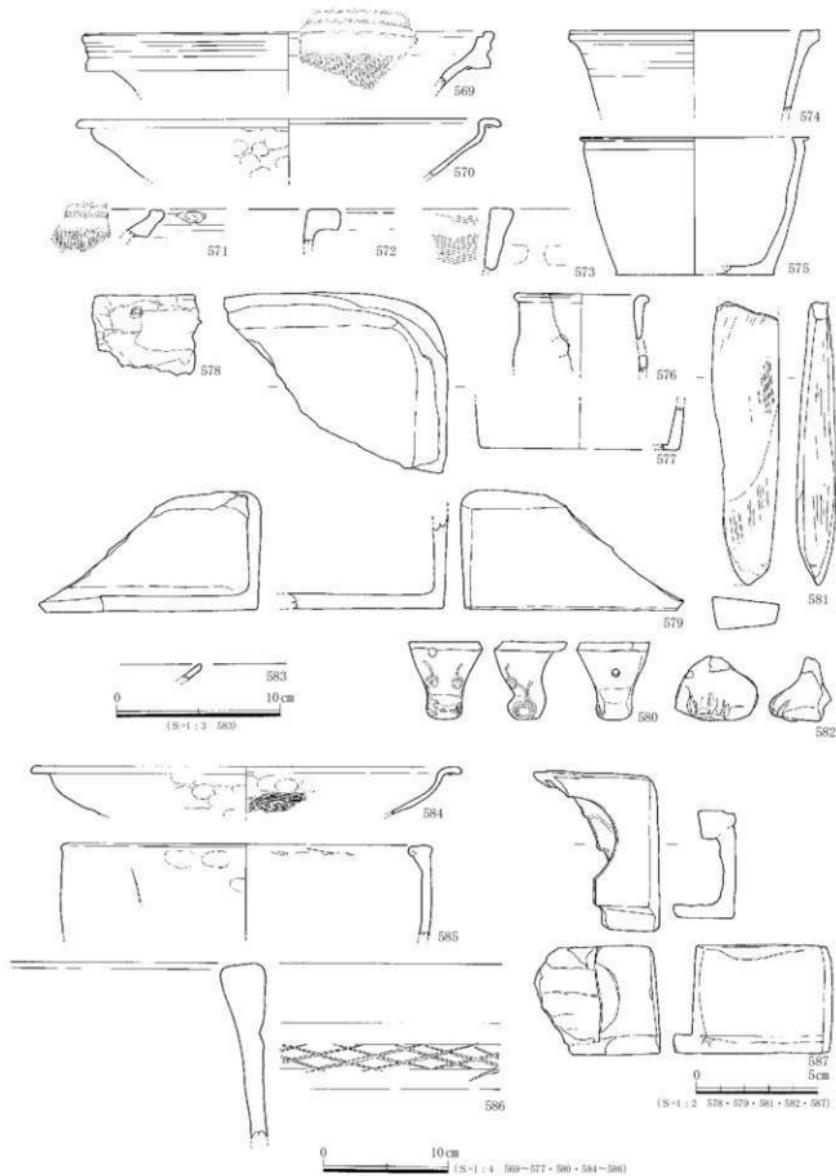
以上のようにB区では区画施設と推定される遺構が確
認することができた。いずれも他の調査区では認められ
ないため、これらの区画施設はB区を境に南北を隔てる
役割のものと考えられる。既述したように、SD105がC
区へとのびないことから、B区東端では東西を区画する
役割があったと考えられる。



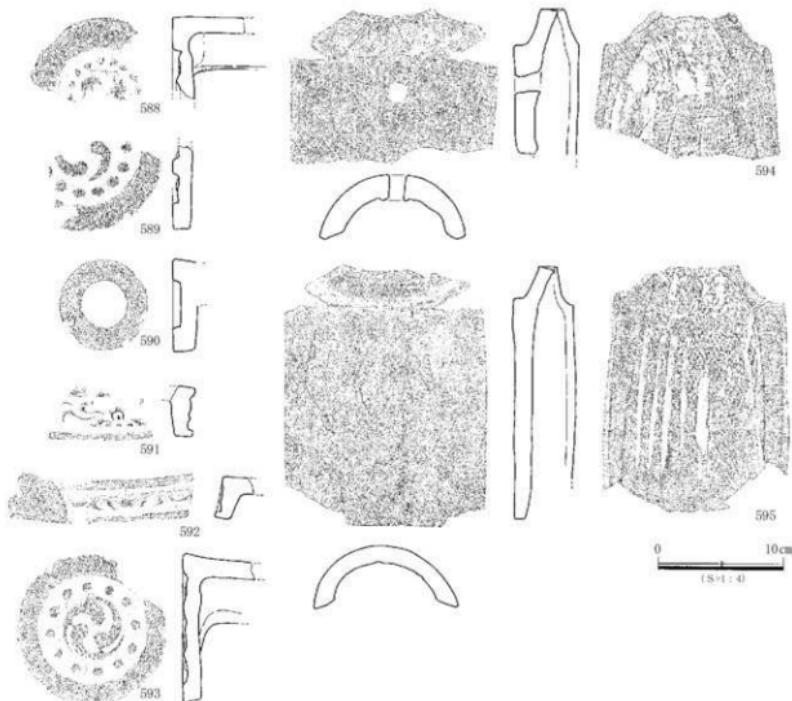
第36図 B区出土遺物④



第37図 B区出土遺物⑤



第38図 B区出土遺物⑥



第39図 B区出土遺物⑦

第3節 C区の調査成果

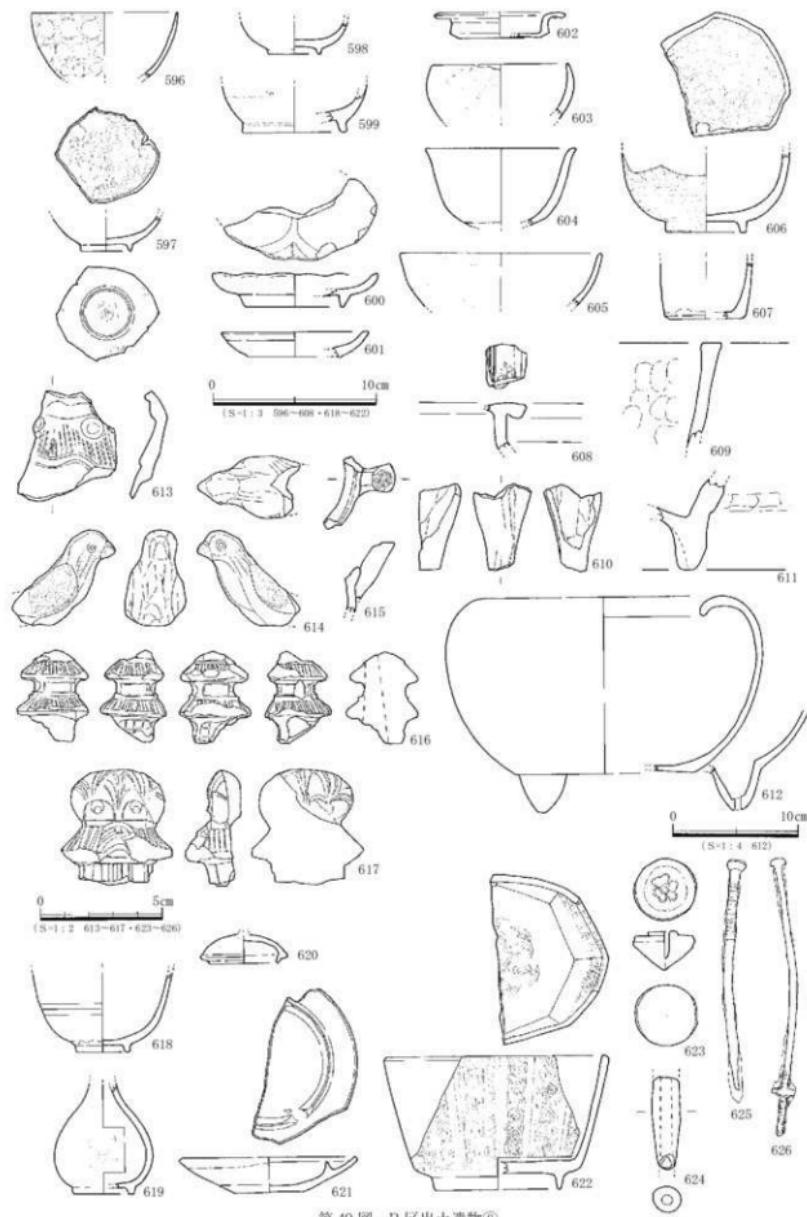
a 調査概要

C区は東西約20m、幅2mの調査区である。ガス管、電気線等によって、大幅に調査区を減らさせざるを得なかつた。西側の調査区は近世の基盤層が認められず、第2造構面上に近世の造構が僅かに残っていた程度であったが、東側の大部分は第1造構面が認められた。第2造構面と考えられる面では、近世の大型土坑等に搅乱を受け、明確な造構は確認することができなかつた。

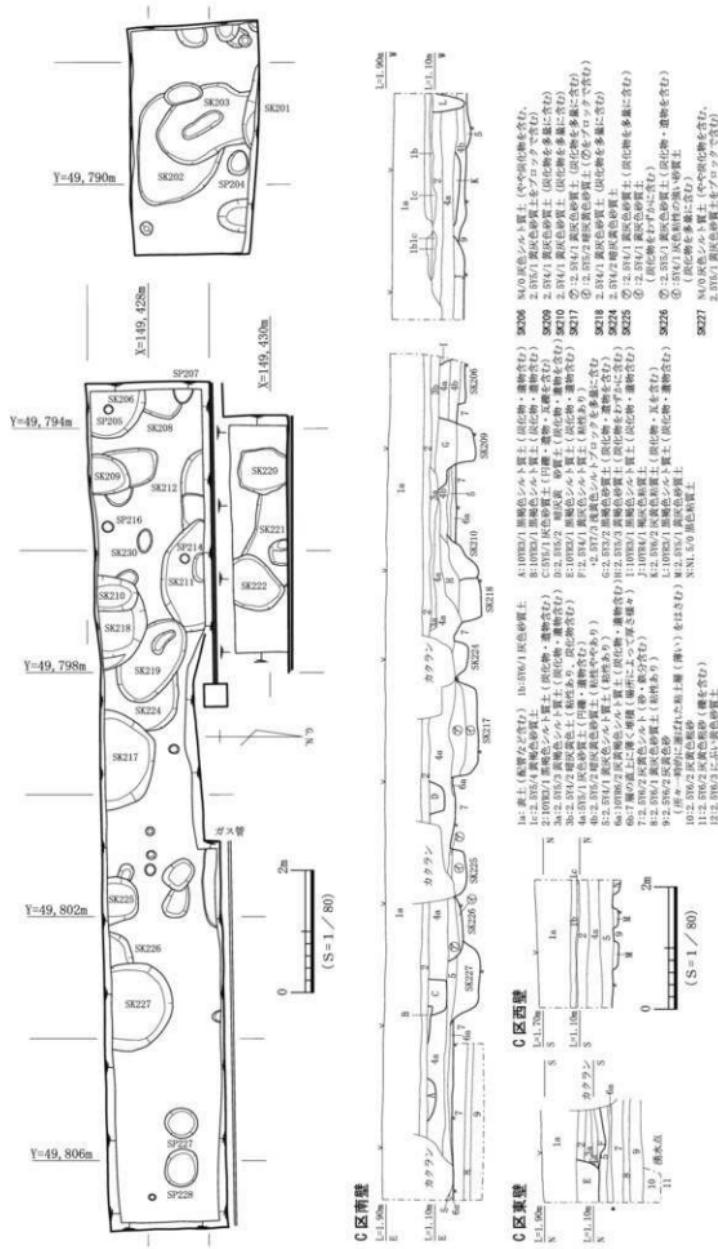
れ、特に旧校舎建設時およびそれ以降、運動場として利用するに際して造成および補修を行っているようである。第1造構面を形成する土は第7層の灰黄色シルトである。第7層直上には第6a層が薄く堆積しており、造構面に掘り込まれた遺構の年代の遺物を包含している場合が多く認められた。第2造構面を形成する土は第9層の灰黄色砂で、基本的に第7層を掘り下げるに確認できるが、調査区西側が若干高いレベルで検出された。

b 基本層序

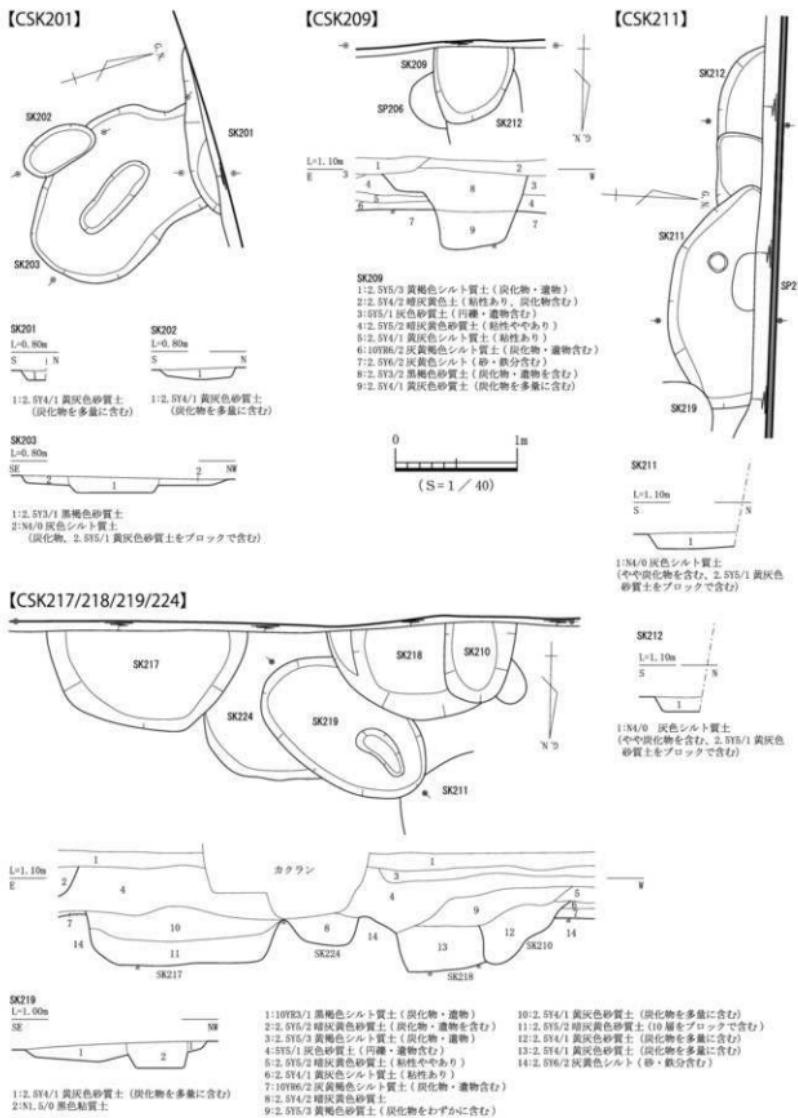
第1層から第4層までは近現代以降の整地と考えら



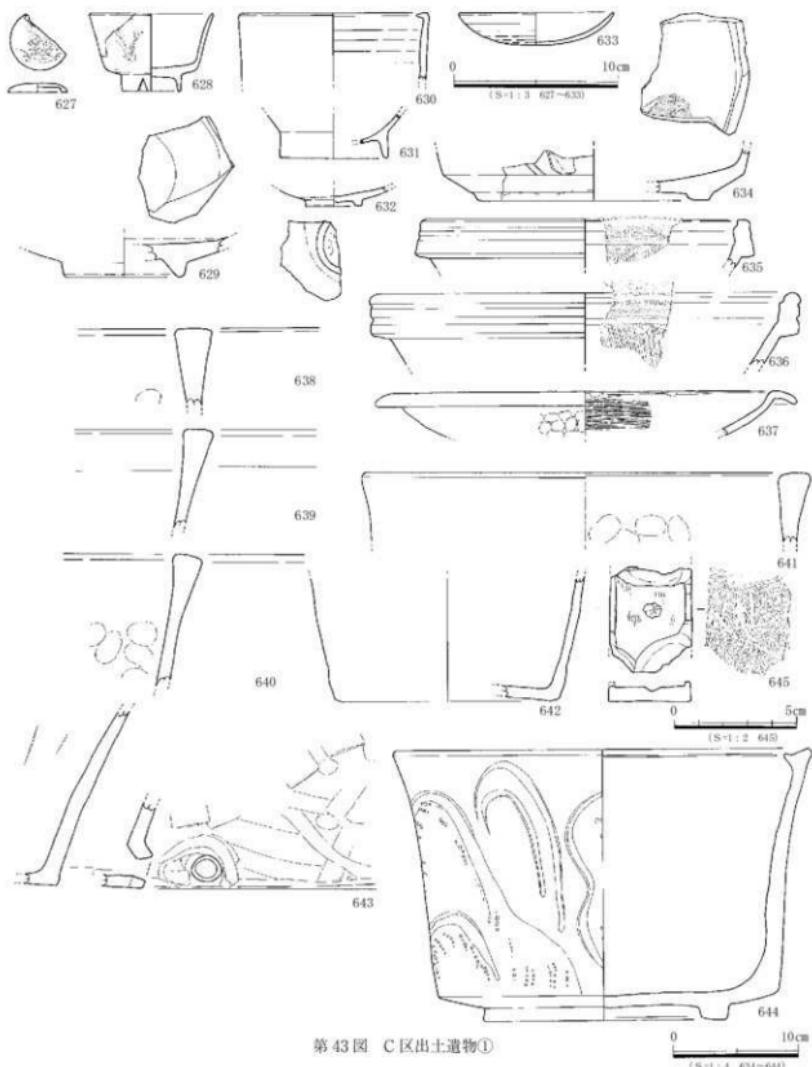
第40図 B区出土遺物⑧



第41図 C区構造配置図・土層断面図



第42圖 C区十坑平・断面図



第43図 C区出土遺物①

0 10 cm
(S-1:2 645)

c 造構と遺物

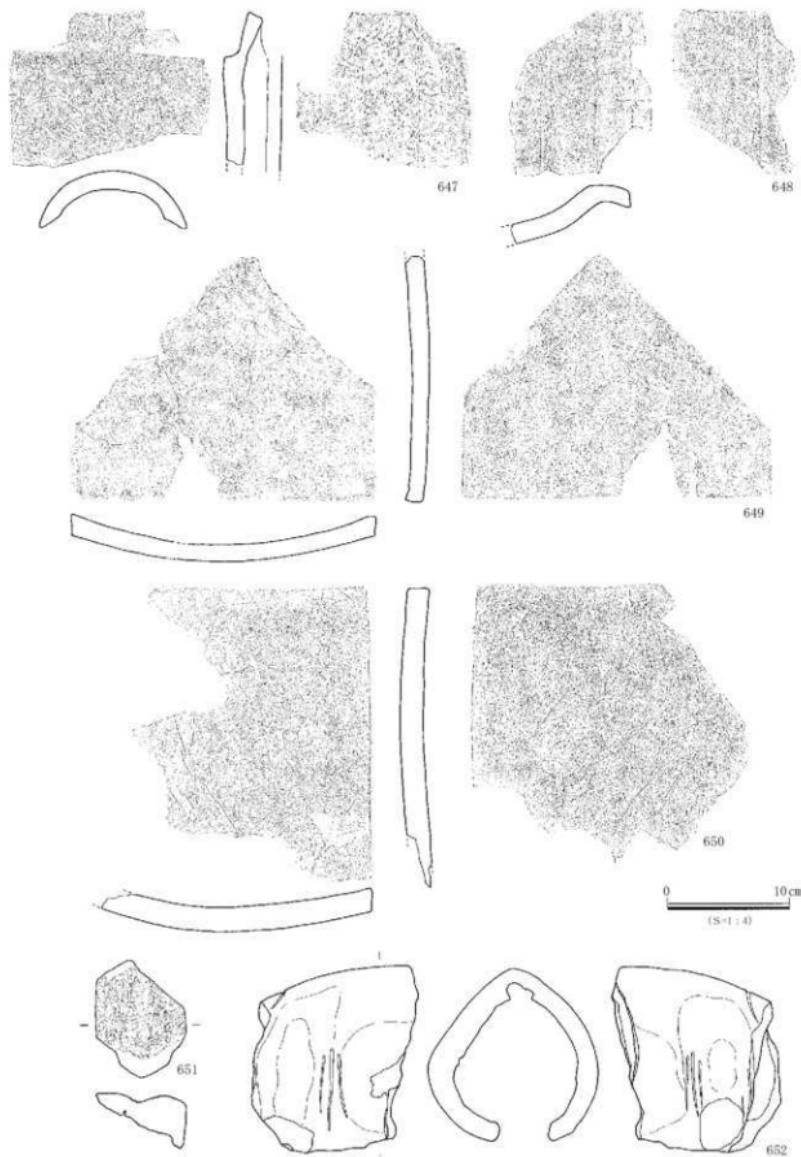
CSK201

西側調査区の北壁の外側へと伸びる土坑で、長さ0.8m、幅0.45mの東西方向に長い楕円形を呈する。深度は0.38mで、埋土は炭化物および遺物を含む黄灰色砂質土である。

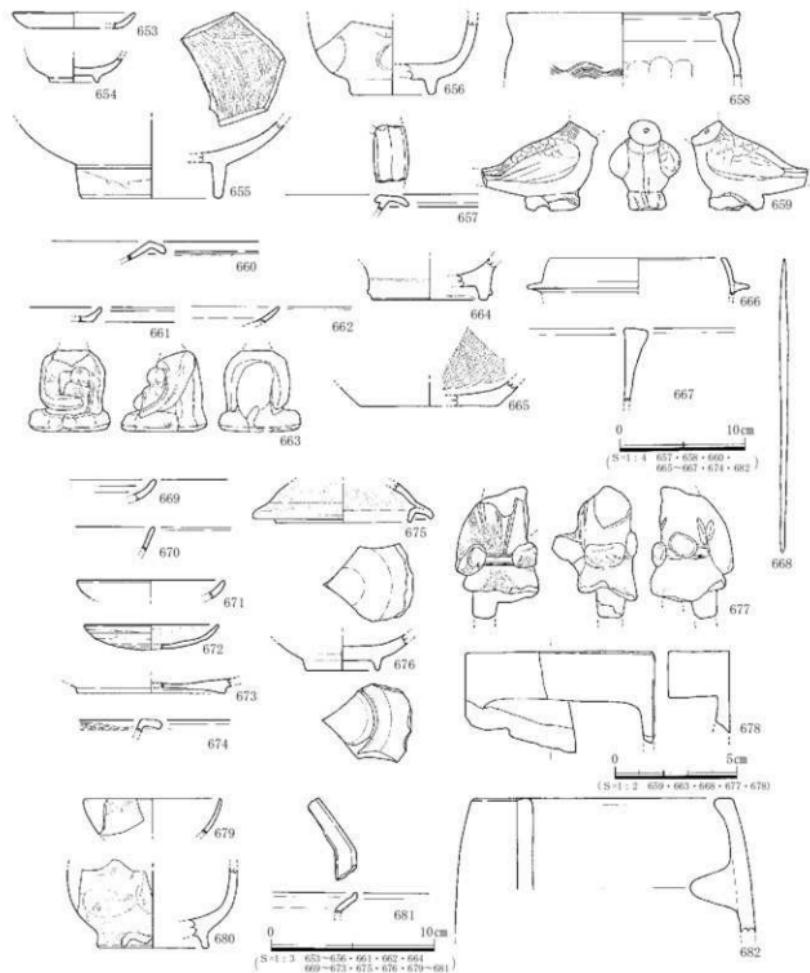
SK203を切っている。出土遺物(660)は土師質土器で、時期は限定できない。

CSK209

西側調査区の南西に位置する土坑で、さらに南壁の外



第44図 C区出土遺物②



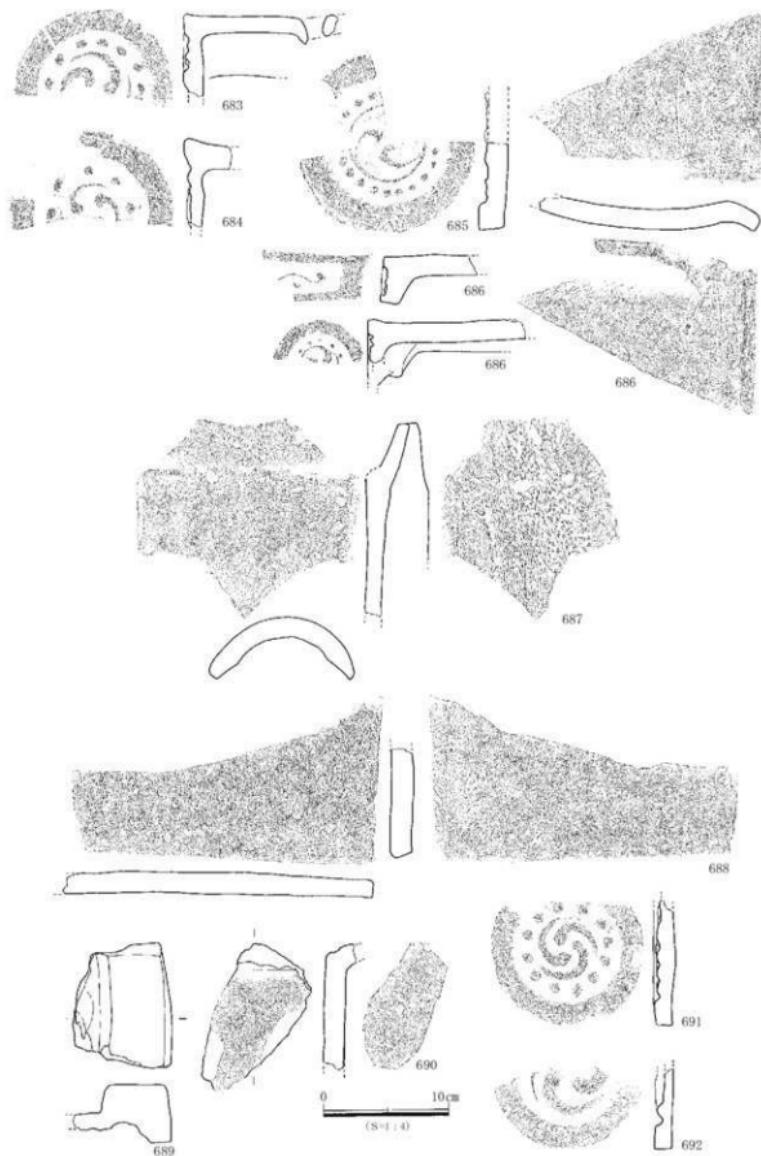
第45図 C区出土遺物(③)

へと伸びる。南北方向に長い楕円形を呈すると考えられ、長さ0.65m、幅0.65mを測る。深度は0.65mで、埋土は上下2分でき、上層が炭化物および遺物を含む黒褐色砂質土で、下層が黄灰色砂質土である。検出面は下層直上である。SK212、SP216を切っている。出土遺物(653

～659)は土師質土器、肥前系陶磁器、土製玩具、軒丸瓦で、時期は17世紀後半から末である。

CSK210

東側調査区の西中央部分に位置する土坑で、長さ



第46図 C区出土遺物④



第47図 C区土坑・ピット平・断面図

0.68m、幅0.6mの南北方向に長い楕円形を呈する。深度は0.54mで、埋土は炭化物を多量に含む黄灰色砂質土である。SK218を切っている。出土遺物(664～667, 684～688, 751)は土師質土器、肥前系磁器、備前系陶器、軒丸瓦、平丸瓦で、時期は限定できない。

CSK211

東側調査区の西中央部分に位置する土坑で、長さ185m、幅0.7mの東西に長い楕円形を呈する。深度は0.13mで、埋土は炭化物や黄灰色砂質土を含む灰色シルト質土である。SK212を切り、SK219に切られる。出土遺物(661～663)は土師質土器、土製玩具で、時期は限定できない。

CSK217

東側調査区のほぼ中央に位置する土坑で、さらに南側へとのびる。長さ165m、幅0.8mの不整形の円形を呈する。深度は0.5mで、埋土は上下2分でき、上層が炭化物を多量に含む黄灰色砂質土、下層が暗灰黄色砂質土で上層土をブロック状に含む。SK224を切る。出土遺物(627～644, 646～652, 749)は土師質土器、瓦質土器、肥前系磁器、瀬戸美濃系陶器、京信楽系陶器、備前系陶器、軒平瓦、平丸瓦、棟瓦、特殊瓦、硯で、時期は18世紀後半である。

CSK218

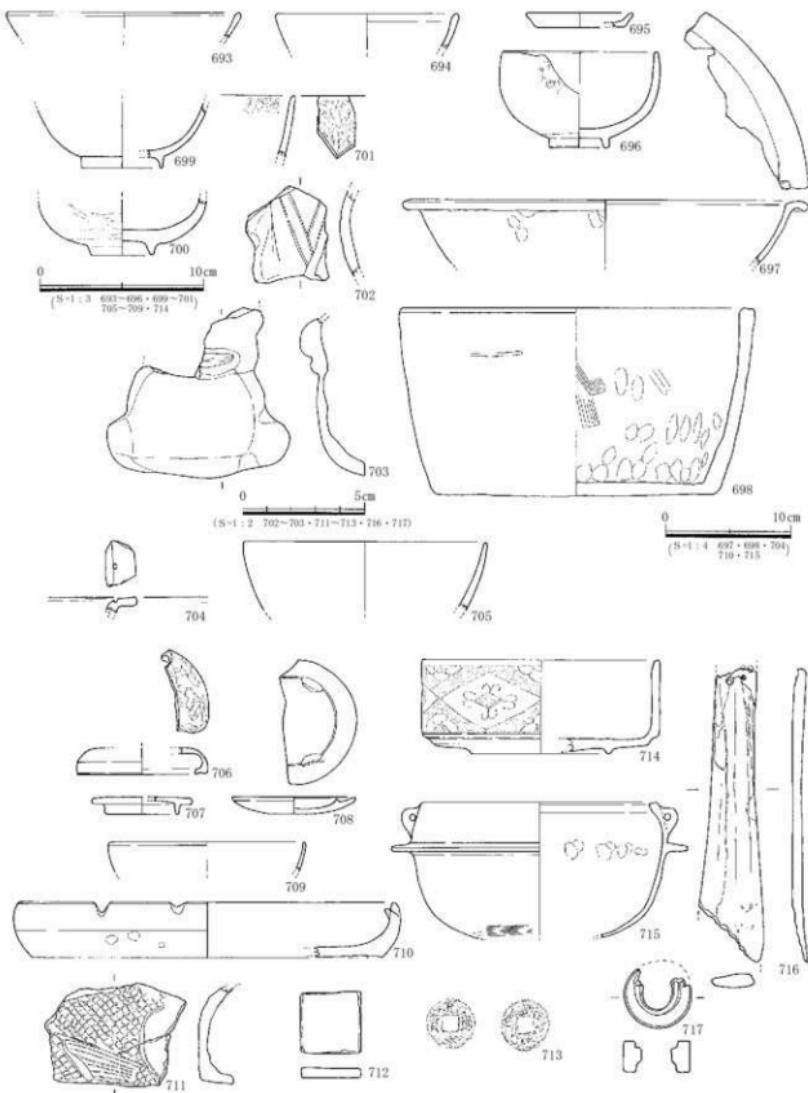
東側調査区のほぼ中央に位置する土坑で、さらに南側へとのびる。長さ1.3m、幅0.75mの円形に近い楕円形を呈する。東側にテラス状の平坦地がある。深度は0.38mで、埋土は炭化物を多量に含む黄灰色砂質土である。SK210に切られ、SK219を切っている。出土遺物(668～676)は土師質土器、肥前系磁器、備前陶器、青銅製品、土製玩具、硯で、18世紀中頃から後半である。SK219との切り合い関係と矛盾しており、18世紀後半にと考えられる。

CSK219

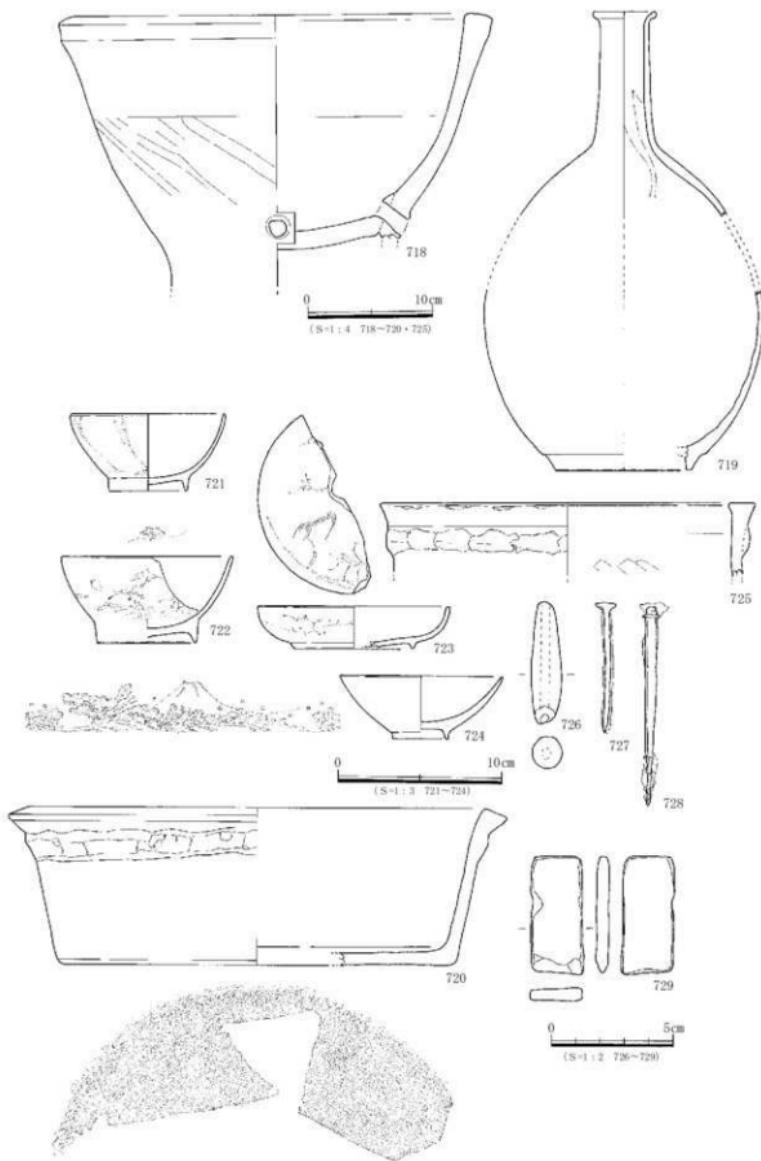
東側調査区のほぼ中央に位置する土坑で、長さ1.55m、幅約0.9mの楕円形を呈する。深度は0.14mで、埋土は炭化物および遺物を含む。SK218に切られ、SK211、224を切っている。出土遺物(679～681)は肥前系磁器で、時期は18世紀後半である。

CSK224

東側調査区のほぼ中央に位置する土坑で、さらに南側へとのびる。両側がSK217, 219, 218に切られており、原形をとどめていない。深度は0.26mで、埋土は暗灰黄色砂質土である。出土遺物(682～683)は土師質土器、軒丸瓦で、時期は限定できない。



第48図 C区出土遺物⑤



第49図 C区出土遺物⑥

CSK220

東側調査区西部の北側に位置する土坑で、長さ0.8m、幅0.6mの不整形を呈する。深度は0.1mで、埋土は炭化物および黄灰色砂質土をブロック状に含む灰色シルト質土である。SK221を切る。出土遺物(693)は土師質土器で、時期は限定できない。

d 小結

本調査区は、廃棄土坑が集中する区画であり、建物に関連する造構は認められなかった。このような状況はA区の建物造構の周辺に類似しており、屋敷地内でも屋敷の縁辺部に相当する可能性が高い。

CSK221

東側調査区西部の北側に位置する土坑で、長さ1.5m、幅0.9mを測るが、SK220、222によって切られるとともに、ガス管などによって本来の形状は明らかでない。深度は0.1mで、埋土は炭化物および黄灰色砂質土をブロック状に含む灰色シルト質土である。出土遺物(694)は土師質土器で、時期は限定できない。

CSK222

東側調査区西部の北側に位置する土坑で、さらに調査区北側へと伸びる。長さ0.9m、幅0.8mの不整形を呈する。深度は0.1mで、埋土は炭化物を多量に含む黄灰色砂質土である。SK221を切る。出土遺物(695～697)は土師質土器、瓦質土器、京信楽系陶器で、時期は17世紀後半から末である。

CSK225

東側調査区西部の北側に位置する土坑で、長さ0.8m、幅0.5mの隅丸方形を呈する。深度は0.3mで、埋土は黄灰色砂質土をベースとして上層は炭化物を多量に含む。出土遺物(698～703)は土師質土器、肥前系陶磁器、土製玩具で、時期は17世紀後半から末である。

CSP205

東側調査区西部のSK206の中に位置するピットで、直径0.08mの円形を呈する。深度は0.12mで、埋土は黒色粘質土である。出土遺物(304)は瓦質土器で、時期は限定できない。

CSP228

東側調査区東部に位置するピットで、長さ0.6m、幅0.54mのやや東西方向に長い円形を呈する。深度は0.18mで、埋土は炭化物を多量に含む黄灰色砂質土である。出土遺物(705)は肥前系磁器で、時期は限定できない。

第IV章　まとめ

(I) 遺構から読み取ることのできる情報 中世以前

出土遺物も非常に少なく、生活の痕跡を示すような状況は確認できなかった。砂堆という微高地に立地していたものの、生活空間として利用するにはいたらなかったようだ。近接する浜ノ町遺跡と比較すると大きな差がある。このことは、中世港湾集落の選地の問題と関係しているものと考えられる。ただし、希薄ではあるものの、土地利用はなされており、非常に簡易な施設が展開していた可能性は非常に高い。周辺での調査成果が期待されるところである。

近世以降

各調査区で整理したように、区画施設、建物遺構、その周辺の廐棄土坑を確認することができた。また、多量の瓦も廐棄土坑から出土しており、調査地周辺の建物も瓦葺き建物であったことが明らかである。文献資料によって高松城下町周辺では多くの火災が起こっていたことも分かっており、防災を目的にしたものと考えられる。

調査区は狭小であったものの、建物と区画施設の配置の状況から、ある程度、武家屋敷における空間利用のあり方や建物構造などの一端を推測できそうである。

これらの遺構の年代のすべてが明らかなわけではないが、17世紀後半が初現で、18世紀から19世紀にかけての遺構が中心となる。年代別の遺構形成のあり方も、上記の年代幅の中で大きな変化ではなく、調査区周辺は、同様な土地利用が続いたと予想される。ただし、どの段階

のものかという点を解明することは困難であるが、区画が大きく変化していない可能性を考えると、発掘調査で確認できた遺構は土地利用のあり方を推測する十分な資料といえるであろう。

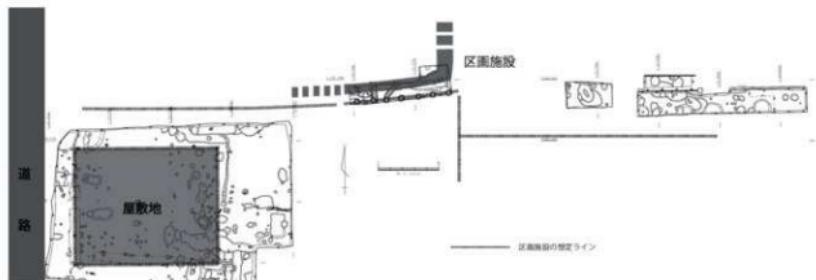
(II) 絵図からの整理

高松城下図屏風によれば、当調査地周辺では町屋は描かれていない。18世紀前半の享保年間高松城下図によれば高松から西へ抜ける道路沿いに、町屋が形成されており、調査区周辺は西通町の延長上の鉄砲町の南側に位置する。また、旧校舎の中央部分、調査区西端周辺にあたる箇所、東側には南北道路があったことが分かる。この周辺の道路によって囲まれた大きな地割（街区）の中に小区画を設けて武家屋敷が配置されている状況である。

このような調査区周辺の地割はそれ以後の絵図を見て大きく変化している状況は認められず、この街区や道路の状況は現在も変わっていない箇所があり、当時の街区の状況をある程度推測することができる。第52図のように調査地に関連する区画をあーえと呼称することとする。

各区画の居住者の状況をみると、同絵図では、おおよそ調査地ではあ区が今泉氏、い区が大石氏、う区が津田氏、え区が浜江氏が居住している。絵図等に基づき、調査地周辺のその後の居住者をまとめるとあ区、い区には大きな変化はないが、う区は津田氏から宝暦年間以降漸尾氏、さらに文化年間以降細谷氏へ、え区は浜江氏から文化年間以降大河原氏へ変化していたことが分かる。

各居住者の主な役職等の変遷は次のようになる。



第50図　遺構配置図

今泉氏：高松御入部三百石奉行⇒馬廻頭⇒中寄合、所御役知行⇒門番頭⇒馬廻番組

大石氏：槍奉行⇒大番組⇒庭奉行⇒大番組⇒三十俵五人扶持大番組

津田氏：不明

瀬尾氏：百俵四人扶持勘定奉行⇒大番組⇒普請奉行、勘定奉行

細谷氏：砲術師役（荻野流火技）

渋江氏：徒士⇒門番頭⇒大番組⇒五人扶持

大河原氏：徒士⇒百俵四人扶持親量院様付き⇒百五十俵横目⇒大番組



第51図 享保年間高松城下図（高松市歴史資料館蔵）

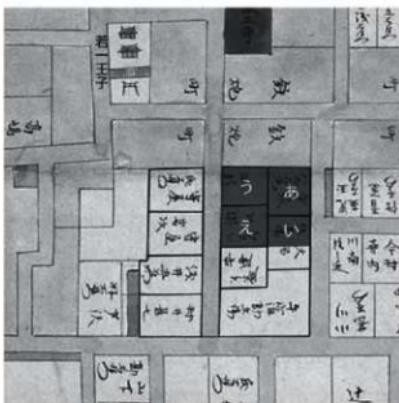
以上のような居住者の職務の変遷状況から、これまでの指摘のとおり、この周辺は高松藩の行政機構である奉行などの役職についている者のかなに、藩の役職についていない家臣を統轄する藩兵組織を取りまとめる役職やその組織自体に属しているような家臣の屋敷地として土地利用がなされており、絵図によれば少なくとも18世紀始めには高松藩に仕える家臣の屋敷地として開け、それ以後、展開していたことを確認することができた。

(III) 調査区と絵図との対比

これまでの検討の結果を居住者と調査区との対比から最後に整理しておきたい。

上記の居住者区画（あ～え）と今回の各調査区との対比を行うとB区に認められた溝や柵は区画施設と考えられ、北側へと折れる位置であるこからも、B区の状況はう区とえ区を区画する箇所にあたると考えられる。これを手がかりに推察すると、A区はえ区、B区はう区とえ区を区画する箇所となる。B区の区画施設がそのまま東に延びない点は絵図とも一致することであり、この点をたよりにすれば、C区はあ区内の可能性が高い。建物周辺に展開する廐棄土坑の特徴からすると、C区の遺構配置の状況は上記の可能性を高めるものである。

以上のような調査区と屋敷地の区割りの状況を対比することができたが、屋敷地内における建物変遷、居住者の変更に伴う土地利用の変化などについては今回の調査では残念ながら明確にすることはできなかった。しかし、既述したように、調査地でも大きな区画などの変化は認められず、これらの絵図との対応はおおむね、江戸期に



第52図 享保年間高松城下図の調査地周辺の状況

においては大きな変更はなかったと考えられる。

（渡邊 誠）

(IV) 出土遺物について

a) 第1遺構面

第1遺構面からは17世紀後半を初現に18世紀から19世紀にかけての遺物が出土している。肥前系・瀬戸美濃系の磁器や陶器、京信楽系・備前系の陶器、在地産の陶器や土師器が確認でき、器種は碗や皿を中心にその他日

常雜器などである。遺構による器種や產地の偏重が確認できないことから、出土遺物は日常生活で廃棄されたものと考えられる。中には茶道具と考えられる大ぶりの碗(117)や鉢(527)もあり、茶道をたしなむ上級武士の生活の一端がうかがえる。また機械振削や包含層からの出土ではあるが、補修を行った磁器(411・622)も確認できる。補修痕がある磁器はいずれも肥前産のもので、他の磁器と比較すると施釉も丁寧で、絵柄も精巧に描かれている。日常雜器が破損すると廃棄されているのに対し、これらの土器は補修を行ってなお大切に使用していたことがうかがえる。

ここで、土人形について詳しく見ていく。土人形について全国各地の近世遺跡から出土例が報告されている。今回出土した土人形は淡黄橙・淡橙・にぶい黄橙・にぶい橙色、淡黄色、にぶい褐・灰黃褐色、灰・灰白・明褐灰色系の胎土があり、橙系と灰色系、褐色系の3種類に大別することができる。灰色系と褐色系は粒度の細かい精製土を使用する傾向があり、橙色系は前2者に対してやや粗い粒度の粘土を使用していることが多い。胎土の状況から複数の產地があるものと考えられる。

製作技法は型作り、手づくね成形(27・32・276・387・663)、型作りと手づくね(359・677)のパターンが存在している。型作りのものには、一枚の型から型抜きするもの(241・613・711)、二枚の型を合わせるもの(28~31・33・198~202・217・240・280~283・357・385・388・422・467・565~568・614・616・617・659)、頭部と身体部分の合計4枚の型から作り出して貼付けるもの(74・277~279・302・389)がある。型作りのものには、型枠から粘土をはずしやすくするために用いられたと考えられる金雲母が付着していることが多い。

また28・385のように、非常に精巧な作りのものもあり、型作りで人形の形を取り出したのち、さらに線刻を加えたと考えられる。これらの土人形は仏像であることから、玩具としての用途よりも信仰の対象として用いられ、そのため精巧に作られたと考えられる。467は、狛を抱いた人をモチーフにした人形である。灰色系の胎土で、一部に彩色や施釉が施されている。もともとは伏見人形の型で「嘗(なめ)人形」といわれるもので、子供が嘗めるおしゃぶりの役目をした人形である。今回出土している遺物と同じ意匠で同じ面書きの入形が江戸や博多で出土していることが明らかになっている。精製度の高い灰

色系の土を利用していることから、搬入品の可能性も考えられる。

このほか天守閣をかたちどった土人形が4固体(33・198・616・617)出土した。いずれも箱庭細工用の玩具と考えられる。胎土はいずれも橙色系である。このうち全体の形状がわかるSK045から出土した土製品(33)を高松城天守閣の古絵図や写真と比較すると、土製品の天守閣は屋根の長辺側の面に3重ともに唐破風をもつが、高松城天守閣は入母屋造りの屋根の長辺側の1重と3重、破風側の2重に唐破風が認められることから、相違点が認められる。天守閣の屋根を飾る鶴が非常に大きく表現されていることから(33・617)、型の製作者は天守閣を正確に写し取ることよりも、天守閣をデフォルメして製作した可能性が考えられる。

b) 第2遺構面

第2遺構面では、弥生時代と古代、中世の遺物が出土している。遺物量は少なく、いずれも破片での出土である。

弥生時代の遺物は、ASK306(430)とASP321(428)から出土している。摩滅が著しいが、いずれも角閃石を多く含む胎土で、弥生時代後期の遺物と考えられる。

古代の遺物はASK307から出土した黒色土器A類の碗(429)で、時期は10世紀後~末と考えられる。

またSP318から埋納土器と考えられる土師皿(427)出土した。円盤状の底部を作成したのち、粘土を貼付けて口縁部を作っている。器壁・底部とも厚みがあり、ぱつたりとした印象が強い。外面接合部は完全にナデ消していないため、底部と口縁部の間に段差が認められる。胎土の状況から在地産と考えられるが、時期は不明である。

このほか、包含層内から和泉型の瓦器碗が出土しており、希薄ではあるが周辺に中世の遺構の存在が想定できる。

【参考文献】

- 安芸佳子 2000 「掘り出された人形」『江戸文化の考古学』江戸文化研究会
- 北原直喜 2000 「今戸土人形論」『江戸文化の考古学』江戸文化研究会
- 九州近世陶磁学会 2000 「九州陶磁の歴年」

(船築紀子)

第2表 遺物觀察表

(1) 土器

二番丁小学校遺跡発掘調査報告

番号	地区	出土遺物名	種別	器種名	用途	法面 (cm)		船上	色調1 (赤土)	色調2 (表面、内外色調)	色調3 (灰土、上部)	調査	備考
						寸法	最高						
10 A	30045	陶器	壺	瓦・瓦蓋	7.3			直	灰土 100cm/2	内外面：透明釉 内面：青白釉 外側：白	縁付：透明釉 内面：青白釉 外側：白	内面：透明ナガ	貢入あり
11 A	30046	陶器	瓶?	瓦・瓦蓋				直	15.2	食 15.2cm 内面：白 外側：白	内面：白 外側：白	内面：透明ナガ	
12 A	30047	土師器	不明	在地	壁 1.7	高さ 2.3		直	灰土 100cm/2	内面：灰土 外側：白 内面：白 外側：白	内面：白 外側：白	内面：ナガ・工具の匂い灰 内面：ナゲ	
13 A	30048	土師器	不明	在地				直	12.5	灰土 100cm/2	内面：灰土 外側：白 内面：白 外側：白	内面：透明ナガ・ナゲ	内面2箇所
14 A	30049	土師器	不明	在地				直	34.0	灰土 100cm/1	内面：白 外側：白 内面：白 外側：白	内面：透明ナゲ 外側：透明ナゲ	
15 A	30050	土師器	不明	在地				直	12.0	灰土 100cm/1	内面：白 外側：白 内面：白 外側：白	内面：透明ナゲ 外側：透明ナゲ	
16 A	30051	土師器	不明	在地				直	12.0	灰土 100cm/1	内面：白 外側：白 内面：白 外側：白	内面：ナゲ 外側：透明ナゲ・押附き去	
17 A	30052	土師器	不明	在地				直	21.0	灰土 100cm/6	内面：白 外側：白 内面：透明ナゲ	内面：ナゲ 外側：透明ナゲ・ナゲ	外側：施文あり
18 A	30053	陶器	壺	瓦蓋	7.0			横	灰土 100cm/1	内面：透明釉	縁付：縁付		
19 A	30054	陶器	壺	瓦蓋	12.1			横	灰土 100cm/1	内面：白 外側：白	上沿：縁・脚		貢入あり
20 A	30055	陶器	壺	瓦蓋	8.5			横	灰土 100cm/2	内面：透明釉	上沿：縁 縁付：瓦蓋（施文）	内面：透明ナガ	
21 A	30056	陶器	壺	瓦蓋	5.9	2.15	4.1	直	12.0 100cm/3	内面：白 外側：白 内面：透明釉	内面：白 外側：白 内面：透明	内面：透明ナゲ・白輪・フラゲリ	埴輪用 瓦蓋用物あり
22 A	30057	陶器	壺	瓦蓋	7.0			横	灰土 100cm/1	内面：白 外側：白	内面：透明	外側面部：透明ナゲ	埴輪用
23 A	30058	陶器	壺	瓦蓋	15.1			横	灰土 100cm/2	内面：白 外側：白	内面：白 外側：白	内面：透明ナゲ・ナゲ・ヘラ 内面：ナゲ・押附き去 内面：ナゲ	西に十手斧番
24 A	30059	土師器	不明	在地	18.7			直	12.0 100cm/1	内面：白 外側：白 内面：白 外側：白	内面：白 外側：白 内面：白 外側：白	内面：透明ナゲ・ナゲ・ヘラ 内面：ナゲ・押附き去 内面：ナゲ	
25 A	30060	土師器	不明	在地	29.4			直	12.0 100cm/2	内面：白 外側：白	内面：白 外側：白	内面：ナゲ・瓦蓋	
26 A	30061	破壊	平	瓦蓋	5.8			横	灰土 100cm/1	内面：白 外側：白	内面：白 外側：白	内面：透明ナゲ・ナゲ・ヘラ 内面：ナゲ・押附き去 内面：ナゲ	
27 A	30062	土師器	不明	在地	9.4			横	灰土 100cm/1	内面：白 外側：白	内面：白 外側：白	内面：透明ナゲ	
28 A	30063	陶器	壺	瓦蓋	9.6			横	灰土 100cm/1	内面：白 外側：白	内面：白 外側：白	内面：透明ナゲ	
29 A	30064	陶器	壺	瓦蓋				横	灰土 100cm/1	内面：白 外側：白	内面：白 外側：白	内面：ナゲ 内面：ナゲ・押附き去	貢入あり
30 A	30065	瓦質	瓦	瓦蓋	10.0			直	灰土 100cm/2	内面：白 外側：白	内面：白 外側：白	内面：ナゲ 内面：ナゲ・押附き去	貢入あり
31 A	30066	瓦質	瓦	瓦蓋	19.6			直	灰土 100cm/2	内面：白 外側：白	内面：白 外側：白	内面：透明ナゲ	貢入一箇あり
32 A	30067	土師器	不明	在地	18.2	12.0	直	12.0 100cm/4	内面：白 外側：白 内面：白 外側：白	内面：白 外側：白 内面：白 外側：白	内面：透明ナゲ		
33 A	30068	陶器	壺	瓦蓋	5.8	2.7	3.0	横	灰土 100cm/1	内面：白 外側：白	内面：白 外側：白	内面：透明ナゲ	貢入あり
34 A	30069	陶器	壺	瓦蓋	35.1			横	灰土 100cm/1	内面：白 外側：白	内面：白 外側：白	内面：透明ナゲ	瓦底あり
35 A	30070	陶器	土器	瓦蓋	9.0			横	灰土 100cm/2	内面：白 外側：白	内面：白 外側：白	内面：透明ナゲ	貢入・混入あり 落葉発見
36 A	30071	陶器	土器	瓦蓋	7.5			横	灰土 100cm/2	内面：白 外側：白	内面：白 外側：白	内面：透明ナゲ	貢入・混入あり 落葉発見
37 A	30072	陶器	土器	瓦蓋	11.4			横	灰土 100cm/2	内面：白 外側：白	内面：白 外側：白	内面：透明ナゲ	落葉発見
38 A	30073	陶器	土器	瓦蓋	8.8			横	灰土 100cm/2	内面：白 外側：白	内面：白 外側：白	内面：透明ナゲ	土糞・瓦底
39 A	30074	土師器	不明	在地	8.65	1.5	3.5	直	灰土 100cm/2	内面：白 外側：白	内面：白 外側：白	内面：透明ナゲ	内面：透明ナゲ 底付：透明ナゲ
40 A	30075	土師器	不明	在地	11.30			直	灰土 100cm/4	内面：白 外側：白	内面：白 外側：白	ナゲ	壁底差し
41 A	30076	土師器	不明	在地	15.6			直	灰土 100cm/5	内面：白 外側：白	内面：白 外側：白	内面：白 外側：白	内面：白
42 A	30077	土師器	不明	在地	6.1	1.00	4.1	横	灰土 100cm/3	内面：白 外側：白	内面：白 外側：白	内面：白 外側：白	内面：透明ナゲ 底付：透明ナゲ
43 A	30078	破壊	壺	瓦蓋	2.4			横	灰土 100cm/1	内面：白 外側：白	内面：白 外側：白	内面：透明ナゲ	神具・瓦底
44 A	30079	破壊	壺	瓦蓋	13.33			横	灰土 100cm/2	内面：白 外側：白	内面：白 外側：白	内面：透明ナゲ	
45 A	30080	土師器	不明	在地	2.4			横	灰土 100cm/1	内面：白 外側：白	内面：白 外側：白	内面：透明ナゲ	日輪形・輪形 貢入あり
46 A	30081	破壊	壺	瓦蓋	9.2			横	灰土 100cm/2	内面：白 外側：白	内面：白 外側：白	内面：透明ナゲ	
47 A	30082	破壊	壺	瓦蓋	10.9			横	灰土 100cm/2	内面：白 外側：白	内面：白 外側：白	内面：透明ナゲ	輪形 貢入あり
48 A	30083	破壊	壺	瓦蓋	7.2	4.7	3.7	横	灰土 100cm/2	内面：白 外側：白	内面：白 外側：白	内面：透明ナゲ	輪形
49 A	30084	破壊	壺	瓦蓋	10.9			横	灰土 100cm/2	内面：白 外側：白	内面：白 外側：白	内面：透明ナゲ	輪形
50 A	30085	破壊	壺	瓦蓋	11.2			横	灰土 100cm/2	内面：白 外側：白	内面：白 外側：白	内面：透明ナゲ	輪形 貢入あり
51 A	30086	破壊	壺	瓦蓋	10.9			横	灰土 100cm/2	内面：白 外側：白	内面：白 外側：白	内面：透明ナゲ	輪形 貢入あり
52 A	30087	破壊	壺	瓦蓋	11.2			横	灰土 100cm/2	内面：白 外側：白	内面：白 外側：白	内面：透明ナゲ	輪形 貢入あり

遺物觀察表

年 令	種 類	出土 遺物名	個数	表面 (cm)			色調1 (原土)	色調2 (被覆、内面色調)	色調3 (内包、LHS)	測定	備考
				10cm	20cm	直通					
112 A	SL125・130 +15・25下7	陶器	縦	黒灰系	16.8		暗青	灰白 58/ 内面青:透明感	暗青:透青		
113 A	SL125	陶器	縦	黒灰系	11.9		暗青	灰白 58/ 内面青:透明感	暗青:透青		
114 A	SL125	陶器	縦	黒灰系			4.9	暗青	灰白 58/ 内面青:透明感	暗青:透青	輪形
115 A	SL125	陶器	縦	黒灰系			4.9	暗青	灰白 58/ 内面青:透明感 (測定 1007/1)	暗青:透青	輪形
116 A	SL125	陶器	縦	灰・ 灰青系	16.6	3.6	4.9	灰白	灰白 58/ 内面青:灰青 (LHS: 黒・ 灰青系 12.5cm, 黒 2.0cm/0)	暗青:灰青	四人あり
117 A	SL125	陶器	縦	灰青	13.4	7.9	5.9	灰	灰白 107/ 内面青:灰青 31W/	暗青:灰青	輪の跡跡が見られる
118 A	SL125・130 +15・25下7	陶器	縦横	黒灰系		16.2	灰	灰白 58/ 内面青:灰青 2. 107/1	内面:輪形ナメ・輪目 外面:輪形ナメ		
119 A	SL125・130 +15・ 25下7	陶器	縦横	黒灰系	29.9		中や 灰	灰白 58/ 内面:灰青 2. 107/1/3 内面:灰青 2. 107/2/3	内面:輪形ナメ・輪目 外面:輪形ナメ	外面に輪部分:自然輪 付番	
120 A	SL125	土器質	大体	灰色	25.4	4.3	16.6	灰	灰白 58/ 内面:灰青 2. 107/1/3 内面:灰青 2. 107/2/3	内面:輪形ナメ 外面:輪形	他の幾つかの遺物あり
121 A	SL125・130 +15・ 25下7	土器質	堆積	灰色	28.6		灰	灰白 58/ 内面:灰青 2. 107/1/3 内面:灰青 2. 107/2/3	内面:輪形ナメ 外面:輪形		
122 A	SL125・130 +15・ 25下7	土器質	堆積	灰色	25.9		灰	灰白 58/ 内面:灰青 2. 107/1/3 内面:灰青 2. 107/2/3	内面:輪形ナメ 外面:輪形		
123 A	SL125	土器質	堆積	灰色	16.0		灰	灰白 58/ 内面:灰青 2. 107/1/3 内面:灰青 2. 107/2/3	内面:輪形ナメ 外面:輪形		
124 A	SL125	土器質	堆?	灰色	8.0		灰	灰白 58/ 内面:灰青 107/3/3	内面:輪形ナメ		
125 A	SL125	土器質	堆?	灰色	14.2		灰	灰白 58/ 内面:灰青 107/3/3	内面:輪形ナメ		
126 A	SL125	土器質	堆?	灰色	11.0	1.6	2.3	中や 灰	灰白 58/ 内面:灰青 107/3/2	内面:輪形ナメ 外面:輪形	
127 A	SL125	土器質	堆?	灰色	12.0	1.8	2.5	中や 灰	灰白 58/ 内面:灰青 107/3/2	内面:輪形ナメ	
128 A	SL125・130 +15・ 25下7	土器質	堆?	灰色	11.8	1.5	2.8	中や 灰	灰白 58/ 内面:灰青 107/3/1 内面:灰青 107/2/1	内面:輪形ナメ	
129 A	SL125	土器質	堆?	灰色	12.0	1.7	2.8	灰	灰白 58/ 内面:灰青 107/3/2	内面:輪形ナメ	
130 A	SL125	土器質	堆?	灰色			7.3	灰	灰白 58/ 内面:灰青 107/3/2	内面:輪形ナメ 外面:輪形	
131 A	SL125・130 +15・ 25下7	土器質	堆?	灰色	9.2	1.3	6.6	灰	灰白 58/ 内面:灰青 107/3/1 内面:灰青 107/2/1	内面:輪形ナメ 外面:輪形	
132 A	SL125	土器質	堆?	灰色			6.2	灰	灰白 58/ 内面:灰青 107/3/1 内面:灰青 107/2/1	内面:輪形ナメ 外面:輪形	
133 A	SL125	土器質	堆?	灰色	5.5		中や 灰	灰白 58/ 内面:灰青 107/3/1	内面:輪形ナメ 外面:輪形		
134 A	SL125・130 +15・ 25下7	土器質	堆?	灰色	9.2	1.6	2.5	灰	灰白 58/ 内面:灰青 107/3/1 内面:灰青 107/2/1	内面:輪形ナメ 外面:輪形	青面底 内面:付物柄あり
135 A	SL125	陶器	明 灰 變	圓的	9.2	1.6	2.5	灰	灰白 58/ 内面:灰青 107/3/1	内面:輪形ナメ	
136 A	SL125	土器質	堆?	灰色	8.0		灰	灰白 58/ 内面:灰青 107/3/1	内面:輪形ナメ	日焼緑:才子付	
137 A	SL125・130 +15・ 25下7	土器質	林?	在地	22.8	13.0	9.3	灰	灰白 58/ 内面:灰青 107/3/1	内面:輪形ナメ 外面:輪形	輪形変
138 A	SL125	土器質	林?	在地	26.6		灰	灰白 58/ 内面:灰青 107/3/1 内面:灰青 107/2/1	内面:輪形ナメ 外面:輪形		
139 A	SL125	陶器	紅葉	黒灰系	4.5	1.9	1.5	灰	灰白 58/ 内面:透明感	外面:聖押し (輪)	
140 A	SL125	陶器	紅葉	黒灰系	4.6	1.9	1.6	灰	灰白 58/ 内面:透明感	外面:聖押し (輪)	
141 A	SL125	陶器	紅葉	黒灰系	5.0	1.5	2.0	灰	灰白 58/ 内面:透明感	外面:聖押し (輪)	
142 A	SL125	陶器	紅葉	黒灰系	6.5			暗青	灰白 58/ 内面:透明感	外面:聖押し (輪)	
143 A	SL125	陶器	紅葉	黒灰系	6.5			暗青	灰白 58/ 内面:透明感	外面:聖押し (輪)	
144 A	SL125	陶器	紅葉	黒灰系	6.5			暗青	灰白 58/ 内面:透明感	外面:聖押し (輪)	
145 A	SL125	陶器	紅葉	黒灰系	7.0			暗青	灰白 58/ 内面:透明感	外面:聖押し (輪)	
146 A	SL125	陶器	紅葉	黒灰系	8.1	4.9	3.2	暗青	灰白 58/ 内面:透明感	外面:聖押し (輪)	高古費社遺物あり 輪形
147 A	SL125	陶器	紅葉	黒灰系			3.1	灰	灰白 58/ 内面:透明感	外面:聖押し (輪)	入あり
148 A	SL125	陶器	紅葉	黒灰系			3.1	灰	灰白 58/ 内面:透明感	外面:聖押し (輪)	入あり
149 A	SL125	陶器	紅葉	黒灰系			4.0	暗青	灰白 58/ 内面:透明感	外面:聖押し (輪)	見込み:龍・日月の神紋 神紋付
150 A	SL125	陶器	紅葉	黒灰系			4.0	暗青	灰白 58/ 内面:透明感	外面:聖押し (輪)	輪形
151 A	SL125	陶器	紅葉	黒灰系			4.0	暗青	灰白 58/ 内面:透明感	外面:聖押し (輪)	「とさ」 入あり
152 A	SL125	陶器	紅葉	黒灰系			4.0	暗青	灰白 58/ 内面:透明感	外面:聖押し (輪)	輪形
153 A	SL125	陶器	紅葉	黒灰系			4.0	暗青	灰白 58/ 内面:透明感	外面:聖押し (輪)	輪形

遺物觀察表

二番丁小学校遺跡発掘調査報告

番号	施設名	編別	器種名	表面	法面 (cm)			土色	色調1 (底面、内外色調)	色調2 (底面、上部)	調査	備考
					右端	中央	左端					
202 A	38308	陶器	瓶	瓶身・ 先端部	15.8			小砂 質	灰白 1010/1	内面：透明感 DCR 7.00/23 外面：透明白 DCR 7.01/2	DCR : 4 条	買入あり
203 A	38308	陶器	瓶	瓶身・ 先端部	11.0			白	灰白 1010/2	内外面：透明白	絞付：供給	買入あり
204 A	38309	土師質	瓶	在地	9.0	0.9	0.2	白	浅灰 1010/2	内面：浅灰 DCR 7.00/2	内外面：同様ナダ	
205 A	38310	土師質	瓶	在地	9.4			白	浅灰 1010/2	内面：浅灰 DCR 7.00/2	内外面：暗減	
206 A	38310	土師質	瓶	在地	11.0			白	浅灰 1010/4	内外面：透明白 DCR 7.00/4	内外面：同様ナダ	
207 A	38310	陶器	灯明器	透明白	6.2			白	灰白 1010/2	内面：透明白 DCR 7.00/40 外面：透明白 DCR 7.00/40	内面：同様ナダ 外面：同様ナダ・同様ナラケズリ	口絞部：十字目
208 A	38310	陶器	灯明器	透明白	7.2			白	灰白 1010/2	内外面：透明白 DCR 7.00/2	口絞部：同様ナダ	内面：同様ナダ・同様ナラケズリ
209 A	38310	陶器	灯明器	透明白	8.2	1.2	1.0	透明白	灰白 1010/2	内外面：透明白 DCR 7.00/2	内外面：同様ナダ	口絞部：十字目
210 A	38310	陶器	灯明器	透明白	11.0			透明白	灰白 1010/4	内面：透明白 DCR 7.00/4	内面：同様ナダ 外面：同様ナダ・同様ナラケズリ	
211 A	38310	陶器	灯明器	透明白	10.4			透明白	灰白 1010/4	内面：透明白 DCR 7.00/4	内面：同様ナダ 外面：同様ナダ・同様ナラケズリ	口絞部：十字目
212 A	38310	陶器	瓶	在地	24.0			白	灰白 1010/2	内面：透明白 DCR 7.00/4	内面：同様ナダ 外面：同様ナダ	絞付：同様ナダ
213 A	38310	陶器	罐	透明白	13.0			小砂 質	灰白 1010/2	内面：透明白 DCR 7.00/2	内面：同様ナダ・同様ナダ	
214 A	38310	陶器	罐	透明白	9.0			白	灰白 1010/2	内面：透明白 DCR 7.00/2	内面：同様ナダ・同様ナダ	
215 A	38310	土師質	瓶	在地	22.2			白	灰白 1010/4	内面：透明白 DCR 7.00/4	内面：同様ナダ・ハガ 外面：同様ナダ・指揮さえ	
216 A	38320	陶器	罐	透明白	11.2			透明白	灰白 1010/2	内面：透明白	内面：同様ナダ	
217 A	38310	陶器	罐	透明白	16.8			透明白	灰白 1010/2	内面：透明白	内面：透明白	
218 A	38310	陶器	罐	透明白	11.4			透明白	灰白 1010/2	内面：透明白	内面：透明白	
219 A	38310	陶器	罐	透明白	4.1			透明白	灰白 1010/2	内面：透明白 DCR 7.00/2	内面：同様ナダ・同様ナダ	
220 A	38310	陶器	罐	透明白	2.8			透明白	灰白 1010/2	内面：透明白	内面：同様ナダ	武合指付：同様ナダ
221 A	38310	陶器	不明	透明白	5.2			透明白	灰白 1010/2	内面：透明白	内面：透明白	
222 A	38310	陶器	高杯	透明白	7.2			透明白	灰白 1010/2	内面：透明白	内面：透明白	
223 A	38310	陶器	高杯	透明白	9.4	5.2	3.4	透明白	灰白 1010/2	内面：透明白 DCR 7.00/2	上縁：透・青	買入あり
224 A	38310	陶器	高杯	透明白	11.5	7.5	4.4	透明白	灰白 1010/2	内面：透明白 DCR 7.00/2	内面：同様ナダ	買入あり
225 A	38310	土師質	瓶	在地	7.7	1.1	0.0	白	灰白 1010/2	内面：透明白 DCR 7.00/2	内外面：同様ナダ	
226 A	38310	土師質	瓶	在地	6.9	2.3	4.8	白	灰白 1010/2	内面：透明白 DCR 7.00/2	内外面：同様ナダ	
227 A	38310	陶器	瓶	透明白	6.7			透明白	灰白 1010/2	内面：透明白 DCR 7.00/2	内面：同様ナダ・同様ナラケズリ	
228 A	38310	陶器	瓶	透明白	11.8			透明白	灰白 1010/2	内面：透明白	内面：同様ナダ	買入あり
229 A	38310	陶器	罐	透明白	30.0			白	灰白 1010/2	内面：透明白 DCR 7.00/2	内面：同様ナダ	
230 A	38310	陶器	罐	透明白	22.2	13.5	15.8	白	灰白 1010/2	内面：透明白 DCR 7.00/2	内面：同様ナダ	
231 A	38310	土師質	瓶	在地	18.0			小砂 質	灰白 1010/2	内面：透明白 DCR 7.00/2	内面：同様ナダ・サザ 内面：ハケ・ナダ	絞付：同様ナダ
232 A	38310	土師質	瓶	透明白	11.0			透明白	灰白 1010/2	内面：透明白	内面：同様ナダ	
233 A	38310	土師質	瓶	透明白	9.2			透明白	灰白 1010/2	内面：透明白	内面：透明白	
234 A	38310	土師質	瓶	在地	11.0			透明白	灰白 1010/2	内面：透明白	内面：同様ナダ	
235 A	38310	土師質	瓶	透明白	6.7			透明白	灰白 1010/2	内面：透明白	内面：透明白	
236 A	38310	土師質	瓶	在地	11.0			透明白	灰白 1010/2	内面：透明白 DCR 7.00/2	内外面：同様ナダ	
237 A	38310	陶器	瓶	透明白	8.7	5.5	4.4	透明白	灰白 1010/2	内面：透明白 DCR 7.00/2	内面：同様ナダ・同様ナダ	
238 A	38310	陶器	瓶	透明白	9.8			透明白	灰白 1010/2	内面：透明白	内面：透明白	
239 A	38310	陶器	瓶	透明白	12.9			透明白	灰白 1010/2	内面：透明白	内面：透明白	
240 A	38310	陶器	瓶	透明白	2.8			透明白	灰白 1010/2	内面：透明白	内面：透明白	絞付：同様ナダ
241 A	38310	陶器	瓶	透明白	2.5	白	灰白 1010/2	内面：透明白	内面：透明白	内面：透明白 内面：透明白	内面：同様ナダ	買入あり
242 A	38310	陶器	瓶	透明白	15.4			小砂 質	灰白 1010/2	内面：透明白 DCR 7.00/2	内面：同様ナダ	絞付：同様ナダ
243 A	38310	陶器	瓶	透明白	6.0	白	灰白 1010/2	内面：透明白 DCR 7.00/2	内面：透明白 DCR 7.00/2	内面：同様ナダ	内面：同様ナダ	見込み：瓶ノ首輪付
244 A	38310	土師質	瓶	在地	15.6			白	灰白 1010/2	内面：透明白 DCR 7.00/2	内面：透明白	
245 A	38310	土師質	瓶	在地	8.2			白	灰白 1010/2	内面：透明白 DCR 7.00/2	内面：透明白	
246 A	38310	土師質	灯明器	透明白	3.6			小砂 質	灰白 1010/2	内面：透明白 DCR 7.00/2	内面：透明白	口絞部：十字目
247 A	38310	土師質	灯明器	透明白	3.8			白	灰白 1010/2	内面：透明白 DCR 7.00/2	内面：透明白	
248 A	38310	土師質	瓶	在地	9.8			白	灰白 1010/2	内面：透明白 DCR 7.00/2	内面：透明白	
249 A	38310	土師質	瓶	在地	11.0			小砂 質	灰白 1010/2	内面：透明白 DCR 7.00/2	内面：透明白	
250 A	38310	土師質	瓶	在地	15.6			白	灰白 1010/2	内面：透明白 DCR 7.00/2	内面：透明白	

番号	地区	出土遺物名	種別	基準名	地層	法線 (rad)			上部1 (底面)	中間2 (側面、内側面)	下部3 (底面、上端)	測定	備考	
						上部	基準	下部						
321	A	SK308	縦器	瓶	肥前系	18.1			横曲	灰白 50°	内側面：透明様	倒置：灰青		
322	A	SK309	縦器	瓶	肥前系		4.4		横曲	灰白 50°	内側面：透明様	倒置：灰青×暗青		
323	A	SK310	土師器	瓶	在埋	7.6			横曲	灰 2.052.05	内側面：透 7.100.10		内外面：凹凸ナメ	
324	A	SP911	縦器	瓶	肥前系	6.2			横曲	灰白 50°	内側面：透明様			
325	A	SP912	縦器	瓶	肥前系	25.4			横曲	灰白 50°	内側面：灰 3.4/1 山根様：灰 2.102.10		内外面：凹凸ナメ	
326	A	SK313	陶器	瓶	肥前系	5.6			横曲	灰白 50°	内側面：透明様	外側：凹凸 (藍花)		
327	A	SK314	縦器	瓶	肥前系	4.9	1.9	2.4	横曲	灰白 50°	内側面：透明様			
328	A	SK315	縦器	杯	肥前系	4.6	2.3	2.8	横曲	灰白 50°	内側面：透明様		外側：財布柄あり 貫入あり	
329	A	SK316	縦器	瓶	肥前系	6.6			横曲	灰白 50°	内側面：透明様	倒置：灰青		
330	A	SK317	縦器	瓶	肥前系	6.7	5.1	6.1	横曲	灰白 50°	内側面：透明様	倒置：灰青×濃青	輪郭	
331	A	SK318	縦器	瓶	小野	肥前系	5.4		横曲	灰白 50°	内側面：透明様	倒置：灰青×淡青		
332	A	SK319	縦器	瓶	肥前系	14.0			横曲	灰白 50°	内側面：透 2.050.05 外側：透明様	倒置：灰青		
333	A	SK320	縦器	瓶	肥前系	18.9			横曲	灰白 50°	内側面：透明様	倒置：灰青×濃青	貫入あり	
334	A	SK321	陶器	瓶	灰・ 白系	9.9			横曲	灰白 50°	内側面：透明様		貫入あり	
335	A	SK322	縦器	瓶	灰・ 白系	9.2			横曲	灰白 50°	内側面：透明様		貫入あり	
336	A	SK323	縦器	瓶	灰・ 白系	18.8			横曲	灰白 50°	内側面：透明様	倒置：灰青×濃青	輪郭向顔	
337	A	SK324	縦器	瓶	灰・ 白系	18.9			横曲	灰白 50°	内側面：透明様		丸みち 既存痕	
338	A	SK325	縦器	瓶	灰・ 白系	11.6			横曲	灰白 50°	内側面：透明様		貫入あり 既存痕	
339	A	SK326	縦器	瓶	灰・ 白系	9.6	3.8	3.2	横曲	灰白 50°	内側面：透明様	上置：輪・青	貫入あり	
340	A	SK327	縦器	瓶	灰・ 白系	9.4	6.9	3.2	横曲	灰白 50°	内側面：透明様	上置：輪・青 → 黒	貫入あり	
341	A	SK328	土師器	瓶	灰・ 白系	7.6			直筒	内側：透 2.050.05 外側：既存痕 1000.10	倒置：既存痕 1000.10		内外面：凹凸ナメ	
342	A	SK329	縦器	瓶	灰・ 白系	18.9			横曲	灰白 50°	内側面：透明様			
343	A	SK330	縦器	瓶	灰・ 白系	11.6			横曲	灰白 50°	内側面：透明様			
344	A	SK331	縦器	瓶	灰・ 白系	9.6	3.8	3.2	横曲	灰白 50°	内側面：透明様	上置：輪・青	貫入あり	
345	A	SK332	土師器	瓶	灰・ 白系	7.6			直筒	内側：透 2.050.05 外側：既存痕 1000.10	倒置：既存痕 1000.10		内外面：凹凸ナメ	
346	A	SK333	土師器	瓶	灰・ 白系	7.4	0.8		直筒	内側：透 2.050.05 外側：既存痕 1000.10	倒置：既存痕 1000.10		内外面：凹凸ナメ	
347	A	SK334	陶器	罐	繩目系	8.4	1.2	2.8	直筒	灰 2.050.05	内側：黒 2.050.05 外側：既存痕 1000.10	内面～既存痕： 既存ナメ・倒置～ハラケナリ		
348	A	SK335	陶器	罐	繩目系	8.6	1.2	2.8	直筒	灰 2.050.05	内側：既存痕 2.050.05 外側：既存痕 1000.10	内面～既存痕： 既存ナメ・倒置～ハラケナリ	口縁通：すすけ通	
349	A	SK336	陶器	罐	繩目系	8.1	1.1	2.4	直筒	灰 2.050.05	内側：既存痕 2.050.05 外側：既存痕 1000.10	内面～既存痕：ナメ 外側：既存ナメ・倒置～ハラケナリ	口縁通：すすけ通	
350	A	SK337	陶器	罐	繩目系	8.8	1.2	2.4	横曲	灰白 50°	内側：既存痕 2.050.05 外側：既存痕 1000.10	内面～既存痕：ナメ 外側：既存ナメ・倒置～ハラケナリ	ナメ口縁通	
351	A	SK338	陶器	罐	繩目系	8.8	1.2	2.4	横曲	灰白 50°	内側：既存痕 2.050.05 外側：既存痕 1000.10	内面～既存痕：ナメ 外側：既存ナメ・倒置～ハラケナリ	ナメ口縁通	
352	A	SK339	陶器	瓶	在埋	21.6			直筒	白	内側：白	倒置：瓶	赤色斜材付	
353	A	SK340	陶器	瓶	繩目系	21.6			直筒	白	内側：白	倒置：瓶		
354	A	SK341	陶器	瓶	繩目系	21.6			直筒	白 50°	内側：既存痕 2.050.05 外側：既存痕 1000.10	内面～既存痕： 既存ナメ		
355	A	SK342	土師器	瓶	白系	24.8			直筒	灰 2.050.05	内側：既存痕 2.050.05 外側：既存痕 1000.10	内面～既存痕： 既存ナメ・瓶押さ		
356	A	SK343	土師器	瓶	白系	23.7	12.4	11.8	小口 直筒	灰 2.050.05	内側：既存痕 2.050.05 外側：既存痕 1000.10	内面～既存痕： 既存ナメ・瓶押さ	SK342～道鏡柄合	
357	A	SK344	土師器	十字	直筒	20.5	12.4	11.8	小口 直筒	灰 2.050.05	内側：既存痕 2.050.05 外側：既存痕 1000.10	内面～既存痕： 既存ナメ・瓶押さ		
358	A	SK379	縦器	瓶	肥前系	6.7	2.8	2.8	横曲	横曲	内側面：透明様	倒置：灰青		
359	A	SK380	縦器	瓶	肥前系	20.0	2.3	10.1	直筒	灰白 50°	内側面：既存痕 2.050.05 外側：既存痕 1000.10	内面～既存痕： 既存ナメ		
360	A	SK381	縦器	瓶	肥前系	7.1			横曲	横曲	内側面：透明様	倒置：灰青		
361	A	SK382	縦器	瓶	肥前系	9.2			直筒	灰 2.050.05	内側：既存痕 2.050.05 外側：既存痕 1000.10	内面～既存痕： 既存ナメ		
362	A	SK383	土師器	瓶	在埋	8.2			直筒	灰 2.050.05	内側：既存痕 2.050.05 外側：既存痕 1000.10	内面～既存痕： 既存ナメ		
363	A	SK384	土師器	瓶	繩目系	8.2	1.6		直筒	灰 2.050.05	内側：既存痕 2.050.05 外側：既存痕 1000.10	内面～既存痕： 既存ナメ・倒置～ハラケナリ		
364	A	SK385	土師器	瓶	繩目系	5.4	0.8	4.6	直筒	灰 2.050.05	内側：既存痕 2.050.05 外側：既存痕 1000.10	内面～既存痕： 既存ナメ		
365	A	SK386	縦器	瓶	肥前系	18.2			直筒	灰白 50°	内側面：透明様	倒置：灰青	貫入あり	
366	A	SK387	陶器	瓶	生土基	—	17.4		直筒	灰白 50°	内側面：透明様	倒置：灰青		
367	A	SK388	縦器	瓶	肥前系	6.9			直筒	灰白 50°	内側面：透明様	倒置：灰青		
368	A	SK389	縦器	瓶	肥前系	18.4			直筒	灰白 50°	内側面：透明様	倒置：灰青		
369	A	SK390	縦器	瓶	肥前系	18.4			直筒	灰白 50°	内側面：透明様	倒置：灰青		
370	A	SK391	縦器	瓶	肥前系	—	17.4		直筒	灰白 50°	内側面：透明様	倒置：灰青		
371	A	SK392	土師器	瓶	在埋	7.6			直筒	灰 2.050.05	内側面：既存痕 2.050.05 外側：既存痕 1000.10	内面～既存痕： 既存ナメ		
372	A	SP942	縦器	瓶	肥前系	18.4			横曲	横曲	内側面：透明様	倒置：灰青		
373	A	SP943	土師器	瓶	在埋	(1.8)			直筒	灰 2.050.05	内側面：既存痕 2.050.05 外側：既存痕 1000.10	内面～既存痕： 既存ナメ		
374	A	SP944	縦器	瓶	肥前系	8.9	1.6	2.3	横曲	横曲	内側面：透明様			

二番丁小学校遺跡発掘調査報告

順 号	場 所 名	面 積 m ²	被 削 部	基 礎 形	高 度 m	状 態 (cm)		地 上 部 材 料	地 下 部 材 料	地 上 部 特 徴 (断面、内外合計)	地 下 部 特 徴 (断面、上部)	測 定 部	考 察
						上 部 厚 さ	底 部 厚 さ						
275 A SP942	廻廊	屋	壁脚・ 瓦	壁脚	7.0	小空 7.00/4	内外面：透明軸 底面：灰土	柱付：透軸		内面：透明ナメ 底面：ケヤリ		八角形	
276 A SP942	廻廊	壁脚	壁脚		10.6	直 10.60/4	内外面：透明軸 底面：灰土		内外面：透明ナメ 底面：透明ナメ				
277 A SP941	土蔵貯	屋	在地	6.4	1.75	5.9	積丸 7.00/2	内外面：透明軸 底面：灰土	内外面：透明軸 底面：灰土	内外面：透明ナメ 底面：透明ナメ			
278 A SP941	土蔵貯	屋	在地	10.4	1.7	6.9	直 1.00/2	内外面：透明軸 底面：灰土	内外面：透明軸 底面：灰土	内外面：透明ナメ 底面：透明ナメ			
279 A SP941	廻廊	壁脚	壁脚		10.4	小空 10.70/2	内外面：透明軸 底面：灰土	柱付：透軸	内外面：透明ナメ 底面：透明ナメ・透軸・ヘタキナリ	内外面：透明ナメ 底面：透明ナメ			
280 A SP224	壁脚	直	壁脚系	9.2				積丸	内外面：透明軸	柱付：透軸・透青		買入あり	
281 A SP225	廻廊	直	壁脚系・ 支承系	8.7				直 10.60/3	内外面：透明軸 底面：灰土	内外面：透明ナメ 底面：灰土		買入あり	
282 A SP225	壁脚	直	壁脚系		4.2			積丸	内外面	内外面：透明軸		仲井尚所御部	
283 A SP228	土蔵貯	底子	在地		3.3			積丸 10.60/2	内外面：透明軸 底面：灰土	内外面：透明ナメ 底面：ヘタキナリのちナメ			
284 A SP228	廻廊	直	在地		3.7			直 10.60/4	内外面：透明軸 底面：灰土	内外面：ナメ			
285 A SP229	土蔵貯	屋	在地		11.0			積丸 10.70/1	内外面：透明軸 底面：灰土	内外面：透明ナメ			
286 A SP229	土蔵貯	屋	在地		11.0			小空 10.70/2	内外面：透明軸 底面：灰土	内外面：ナメ			
287 A SP229	壁脚	直	壁脚系	9.7				積丸	内外面：透明軸	柱付：透青		隣接?	
288 A SP231	土蔵貯	直	在地		30.2			直 30.20	内外面：透明軸 底面：灰土	内外面：ナメ			
289 A SP239	廻廊	直	壁脚系・ 柱脚系	13.0				直 10.70/2	内外面：透明軸 底面：灰土	内外面：透明軸			
290 A SP233	壁脚	直	壁脚系	6.6	2.3	2.3		積丸	内外面：透明軸	柱付：透青		無	
291 A SP233	土蔵貯	路	在地		13.3			小空 13.30	内外面：透明軸 底面：灰土	内外面：透明ナメ			
292 A SP237	壁脚	直	二輪脚	不明	25.6			直 25.60/2	内外面：透明軸 底面：灰土	内外面：透明ナメ		山林部分：自然林地	
293 A SP238	壁脚	直	壁脚系					積丸	内外面：透明軸	柱付：透青			
294 A SP238	壁脚	直	壁脚系	5.0	1.6	1.4		積丸	内外面：透明軸	柱付：透青			
295 A 墓塚復原	壁脚	直	壁脚系	6.5	2.8	3.2		積丸 10.60/1	内外面：透明軸	柱付：透青		無	
296 A 墓塚復原	壁脚	直	壁脚系	5.1	3.3	3.4		積丸	内外面：透明軸				
297 A 墓塚復原	壁脚	直	壁脚系	4.9	3.4	3.2		積丸	内外面：透明軸				
298 A 墓塚復原	直	壁脚系	10.6	2.4	3.8		積丸 10.60/1	内外面：透明軸	柱付：透青		買入あり		
299 A 墓塚復原	直	壁脚系	1.8				積丸 10.60/1	内外面：透明軸	柱付：透青		買入あり		
300 A 墓塚復原	直	壁脚系	11.0	2.3	1.2		積丸 10.60/1	内外面：透明軸	柱付：透青・木色		内面：透明ナメ		
301 A 墓塚復原	直	壁脚系	13.0	3.5	2.0		積丸 10.60/1	内外面：透明軸	柱付：透青		上部：透・木・木色		
302 A 墓塚復原	直	壁脚系	16.9	3.1	9.0		積丸 16.90/1	内外面：透明軸	柱付：透青		内面：透明ナメ		
303 A 墓塚復原	直	壁脚系	11.2				積丸 11.20/1	内外面：透明軸	柱付：透青		内面：透明ナメ		
304 A 墓塚復原	直	壁脚系	2.9				積丸 2.90/1	内外面：透明軸	柱付：透青		内面：透明ナメ		
305 A 墓塚復原	直	壁脚系	2.0				積丸 2.00/1	内外面：透明軸	柱付：透青		内面：透明ナメ		
306 A 墓塚復原	直	壁脚系	8.3	4.2	2.6		積丸 8.30/1	内外面：透明軸	柱付：透青		内面：透明ナメ		
307 A 墓塚復原	直	壁脚系	4.4				積丸 4.40/1	内外面：透明軸	柱付：透青		内面：透明ナメ		
308 A 墓塚復原	直	壁脚系	15.0				積丸 15.00/1	内外面：透明軸	柱付：透青		内面：透明ナメ		
309 A 墓塚復原	直	壁脚系	4.7	1.3	2.6		積丸 4.70/1	内外面：透明軸	柱付：透青		内面：透明ナメ		
310 A 墓塚復原	直	壁脚系	8.2	1.1	2.9		積丸 8.20/1	内外面：透明軸	柱付：透青		内面：透明ナメ		
311 A 墓塚復原	直	壁脚系	8.6				積丸 8.60/1	内外面：透明軸	柱付：透青		内面：透明ナメ		
312 A 墓塚復原	直	壁脚系	6.2	1.2	0.6		積丸 6.20/1	内外面：透明軸	柱付：透青		内面：透明ナメ		
313 A 墓塚復原	直	壁脚系	6.2	1.3	0.8		積丸 6.20/1	内外面：透明軸	柱付：透青		内面：透明ナメ		
314 A 墓塚復原	直	壁脚系	6.2	1.2	0.6		積丸 6.20/1	内外面：透明軸	柱付：透青		内面：透明ナメ		
315 A 墓塚復原	直	壁脚系	9.4	1.1	1.4		積丸 9.40/1	内外面：透明軸	柱付：透青		内面：透明ナメ		
316 A 墓塚復原	直	壁脚系	20.6	12.7	12.9		積丸 20.60/1	内外面：透明軸	柱付：透青		内面：透明ナメ		
317 A 墓塚復原	直	壁脚系	22.8				小空 22.80/2	内外面：透明軸	柱付：透青		内面：透明ナメ		
318 A 街道地区 墓塚復原	直	壁脚系	32.0				積丸 32.00/1	内外面：透明軸	柱付：透青		内面：透明ナメ		
319 A SP719	土蔵貯	屋	在地	8.3	1.8	6.5		直 1.00/2	内外面：透明軸	柱付：透青		内面：透明ナメ	
320 A SP921	御生土蔵	高松?	—	12.00	直	12.00		直 12.00/1	内外面：透明軸	柱付：透青		内面：透明ナメ	

遺物觀察表

番号	地区	出土遺物名	種別	基準年	被地	法長 (cm)		軸寸 口径	色調1 (赤土)	色調2 (漆器、内外色調)	色調3 (真漆、上漆)	測定	備考	
						直径	周長							
010	B	SA10	漆器	漆	肥前系		1.4		黒白 (S8)	内面：透明漆 外面：明治時代 1862(1)	真漆：漆青		高台復元に移動行者	
011	D	SD10	漆器	漆	肥前系		1.6		黒白 (S8)	内面：透明漆	真漆：漆青		高台復元に移動行者	
012	B	SD10	漆器	漆	伊万里		6.2		黒白 (S8) / S8	内面：透明漆	真漆：漆青		太陽半張	
013	B	SD10	漆器	漆	肥前系	18.7	6.6	4.6	黒白 (S8) / S8	内面：透明漆 2.30(8)	真漆：漆青者			
014	B	SD10	漆器	漆	肥前系	22.11			黒白 (S8)	内面：透明漆	真漆：暗青			
015	B	SD10	漆器	漆	肥前系	2.8	直	黒白 (S8) / S8	内面：透明漆	真漆：暗青		蛇 / 蛇目形高台		
016	D	SD10	漆器	漆	肥前系		3.0	直	黒白 (S8)	内面：透明漆 2.37(2)			見込み：ビン塗あり	
017	B	SD10	漆器	漆	肥前系		6.5		黒白 (S8)	内面：透明漆	真漆：漆青			
018	B	SD10	漆器	漆	肥前系		5.6		黒白 (S8) / S8	内面：透明漆	真漆：暗青			
019	B	SD10	漆器	漆	肥前系	1.9			黒白 (S8) / S8	内面：透明漆	真漆：暗青			
020	B	SD10	漆器	漆	肥前系	1.6			黒白 (S8) / S8	内面：透明漆 2.08(2)	真漆：漆青・明青		植物草叢	
021	B	SD10	漆器	漆	灰・ 白底系	9.9	3.9	2.1	直	黒白 (S8) / S8	内面：透明漆 2.31(2) 外面：シーラー漆 2.19(5)	イッサン葉：白		
022	B	SD10	漆器	漆	白地?	2.8	5.2		黒白 (S8)	内面：透明漆 2.08(2)		瓶群：20個各個		
023	B	SD10	漆器	漆	灰・ 白底系		3.6		黒白 (S8)	内面：透明漆 外面：黒白 2.37(2)			見込み：ビン塗あり	
024	B	SD10	漆器	漆	肥前系	9.6	4.7	3.6	直 / 立・横刷	内面：透明漆 外面：銀粉漆				
025	B	SD10	漆器	漆	肥前系		1.6		黒白 (S8)	内面：透明漆 2.08(2)	生土：にごり少無 2.34(2)	丹波：漆器		
026	B	SD10	漆器	漆	灰・ 白底系	18.2	2.1	1.6	黒白 (S8) / S8	内面：透明漆 外面：黒白 2.33(2)	内面：漆目 外面：20個ナフ			
027	B	SD10	漆器	漆	肥前・ 美濃系	18.1	5.6	11.6	直	黒白 (S8) / S8	内面：透明漆 外面：黒白 2.37(2)	漆器：黒漆 S8(2)		
028	B	SD10	漆器	漆	肥前・ 美濃系	10.6	1.3		黒白 (S8) / S8	内面：透明漆 2.08(2)	内面：同様ナフ・ナフ 外面：同様ナフ			
029	B	SD10	漆器	漆	灰・ 白底系	11.2			黒白 (S8) / S8	内面：透明漆 2.07(2) 外面：黒白 2.31(2)				
030	B	SD10	漆器	漆	灰・ 白底系	8.7			直	黒白 (S8) / S8	内面：透明漆 外面：黒白 2.35(2)	丹波：漆器ナフ	質入多い	
031	B	SD10	漆器	漆	灰・ 白底系		8.8		黒白 (S8) / S8	内面：透明漆 2.35(2) 外面：黒白 2.35(2)	漆器：セラーピアス(1)			
032	B	SD10	漆器	漆	灰・ 白底系	7.0	9.0	6.8	直	黒白 (S8) / S8	内面：同様ナフ・同様ナフ 外側：同様ナフ・同様ナフ	漆桶		
033	B	SD10	漆器	漆	灰・ 白底系	18.2			黒白 (S8) / S8	ガラリ葉 2.07(2)	漆材：白			
034	B	SD10/10	漆器	漆	肥前系	6.5	L.T.	2.8	黒白 (S8)	内面：透明漆 外面：銀粉漆 2.08(2)	丹波：空押し（漆器）			
035	B	SD10/10	漆器	漆	灰・ 白底系	2.9			黒白 (S8)	内面：透明漆				
036	B	SD10/10	漆器	漆	肥前系	1.6			黒白 (S8)	内面：透明漆 外面：銀粉漆				
037	B	SD10/10	漆器	漆	肥前系	9.6			黒白 (S8)	内面：透明漆	生土：水・水田水 鉄錆 100% 明青・ 黄緑・淡緑 口銘：口銘			
038	B	SD10/10	漆器	漆	肥前系	9.0	4.8	2.4	今今 直	黒白 (S8) / S8		質入あり		
039	B	SD10/10	漆器	漆	肥前系	11.2	6.1	5.9	黒白 (S8) / S8	内面：透明漆 外面：透明漆	漆器：漆青者	高台復元に移動行者		
040	B	SD10/10	漆器	漆	肥前系		1.7		黒白 (S8) / S8	内面：透明漆	真漆：暗青	鐵錆		
041	B	SD10/10	漆器	漆	肥前系	12.0	2.2	2.4	黒白 (S8) / S8	内面：透明漆	真漆：漆青者	高台復元 鐵錆		
042	B	SD10/10	漆器	漆	肥前系	9.4	6.2	5.6	黒白 (S8) / S8	内面：透明漆	真漆：漆青			
043	B	SD10/10	漆器	漆	肥前系	9.2	7.1	4.2	黒白 (S8) / S8	内面：透明漆	真漆：暗青	高台復元：漆相行者		
044	B	SD10/10	漆器	漆	灰・ 白底系	14.9			黒白 (S8) / S8	内面：透明漆 2.07(2)	イッサン葉 2.08(2) 内面：銀粉漆 2.08(2) (2.32・漆器 2.08(2))			
045	B	SD10/10	漆器	漆	灰・ 白底系	9.6	4.4	3.2	直	黒白 (S8) / S8	内面：透明漆 2.07(2)	質入あり		
046	B	SD10/10	漆器	漆	灰・ 白底系	9.6	1.9	3.9	直	黒白 (S8) / S8	内面：透明漆 2.07(2)	質入あり		
047	B	SD10/10	漆器	漆	肥前系	7.6	1.3		黒白 (S8) / S8	内面：透明漆 2.07(2)	内面：漆 1.08(2)			
048	B	SD10/10	漆器	漆	灰・ 白底系				黒白 (S8) / S8	内面：透明漆 2.07(2)	イッサン葉 2.08(2)	質相行者		
049	B	SD10/10	漆器	漆	灰・ 白底系	9.6			黒白 (S8) / S8	内面：透明漆 2.07(2)	内面：漆 1.08(2)	質入あり		
050	B	SD10/10	漆器	漆	灰・ 白底系	9.6			黒白 (S8) / S8	内面：透明漆	内面：漆 1.08(2)	質入あり		

二番丁小学校遺跡発掘調査報告

清物觀察表

遺物觀察表

(2) 土製品

番号	施設名	種別	詳細名	基準 (cm)		仕上	色調1 (反射)	色調2 (吸収、外色調)	色調3 (吸収、上位)	調整	参考		
				最大幅 寸法	最小幅 寸法								
22	A-0010	土蔵質	竹垣板 芯合板	0.6	2.4	一	白	鏡 7.0102/6	内表面：透明樹脂	透明化+ナゲ			
23	A-0015	土蔵質	玩具	1.1	3.2	1.2	白	鏡 2.5102/4	内表面：透明樹脂	透明化	セミ透明		
24	A-0015	土蔵質	玩具	3.1	1.0	1.0	白	鏡 2.5102/2	内表面：透明樹脂	透明化	白		
25	A-0015	土蔵質	玩具	0.77	11.2	一	白	鏡 2.5102/3	内表面：透明樹脂	内表面：反射ナゲ	ナゲ		
26	A-0015	土蔵質	玩具	6.1	1.2	3.1	中や 青	鏡 10.0102/3	内表面：浅黄鏡 10.0102/3	内表面：自然樹脂着け手	内表面：透視+ナゲ 内表面：行者物あり		
27	A-0015	土蔵質	玩具	4.25	3.1	2.8	白	鏡 2.5102/2	内表面：透明樹脂	上部け継：緑色	手づくね まことだ医美子		
28	A-0015	土蔵質	玩具	0.9	3.8	1.4	白	鏡 N/C	内表面：にぬい-黒鏡 10.0102/3	壁や他のもの 鏡面貼り	鏡面化		
29	A-0015	土蔵質	玩具	0.50	2.0	0.33	白	鏡 2.5102/4	内表面：にぬい-鏡 1.0102/4	内表面：にぬい-鏡 1.0102/3	キラ物	集合せ	人形
30	A-0015	土蔵質	玩具	0.10	2.0	0.37	白	鏡 1.0102/4	内表面：にぬい-黒鏡 10.0102/4	内表面：にぬい-鏡 1.0102/3	キラ物	集合せ	地
31	A-0015	土蔵質	玩具	0.50	14.0	2.2	白	鏡 2.5102/4	内表面：にぬい-鏡 1.0102/4	内表面：にぬい-鏡 1.0102/3	キラ物	集合せ	丸
32	A-0015	土蔵質	玩具	0.10	3.3	0.4	中や 青	鏡 10.0102/1	内表面：鏡 10.0102/1	手づくね		人形	
33	A-0015	土蔵質	玩具	0.05	1.0	0.5	中や 青	鏡 10.0102/3	内表面：浅黄鏡 10.0102/3	キラ物	集合せ	城	
71	A-0016	土蔵質	玩具	0.77	3.3	1.8	青白	鏡 2.5102/2	内表面：にぬい-黒鏡 10.0102/3	集合せ	紙吹		
34	A-0135 「一木子」	瓦質	玉掛	2.2	2.8	4.1	白	鏡 2.5102/2	内表面：鏡 2.5102/1 内表面：鏡 2.5102/4	内表面：反射ナゲ			
100	A-0016	土蔵質	玩具	0.8	0.8	2.0	中や 青	鏡 7.0102/6	内表面：鏡 7.0102/6	集合せ	鏡		
101	A-0016	土蔵質	玩具	0.0	2.6	1.5	白	鏡 2.5102/3	内表面：にぬい-黒鏡 10.0102/3	キラ物	集合せ	瓦	
102	A-0016	土蔵質	玩具	0.15	1.75	1.95	白	鏡 2.5102/4	内表面：にぬい-鏡 2.5102/4	キラ物	集合せ	鏡	
103	A-0016	土蔵質	玩具	0.75	2.7	2.7	白	鏡 2.5102/3	内表面：にぬい-鏡 7.0102/3	キラ物	集合せ	鏡	
104	A-0016	土蔵質	玩具	3.5	3.3	3.5	白	鏡 10.0102/1	内表面：鏡 10.0102/1	キラ物	集合せ	鏡	
105	A-0016	土蔵質	玩具	0.0	2.9	1.0	白	鏡 0.0102/6	内表面：鏡 0.0102/6	キラ物	集合せ	人形	
204	A-0015	土蔵質	板木ア	2.25	2.25	2.25	白	鏡 7.0102/3	内表面：透視樹脂	透明化	内表面：反射ナゲ 内表面：ナゲ		
211	A-0015	土蔵質	不明	0.1	2.65	2.25	白	鏡 2.5102/4	内表面：鏡 2.5102/4	集合せ			
217	A-0016	土蔵質	玩具	0.2	0.0	0.45	白	鏡 2.5102/2	内表面：鏡 2.5102/2	集合せ	人形		
240	A-0009-005	土蔵質	不明	4.0	4.0	2.55	白	鏡 10.0102/6	内表面：白 10.0102/6 内表面：透視 2.5102/2-4	集合せ	天井構造/内装板		
250	A-0009-005	土蔵質	土蔵	2.7	0.10	1.1	白	鏡 7.0102/6	鏡 2.5102/2-4	ナゲ	直角：GL 3 x		
241	A-0009-005	土蔵質	玩具	0.0	14.0	1.2	白	鏡 0.0102/4	内表面：洪鏡 0.0102/4	キラ物/内表面：押津光	集合せ	鳥	
256	A-0016	土蔵質	玩具	2.0	2.0	2.37	鏡	鏡 10.0102/2	内表面：透視	透明化	手づくね	人形	
277	A-0016	土蔵質	玩具	0.7	0.7	2.0	白	鏡 2.5102/3	内表面：にぬい-黒鏡 10.0102/3	キラ物	集合せ	人形	
278	A-0016	土蔵質	玩具	0.0	2.2	1.7	白	鏡 2.5102/2	内表面：にぬい-黒鏡 10.0102/2	キラ物	集合せ	人形	
279	A-0016	土蔵質	玩具	0.1	4.2	2.1	白	鏡 0.0102/6	内表面：鏡 0.0102/6	キラ物	集合せ	人形	
280	A-0016	土蔵質	玩具	0.0	4.0	0.33	白	鏡 0.0102/6	内表面：鏡 0.0102/6	キラ物	集合せ	輪郭の入り	
291	A-0016	土蔵質	玩具	0.1	0.4	1.1	白	鏡 2.5102/2	内表面：鏡 2.5102/2	キラ物	集合せ	鳥	
292	A-0016	土蔵質	玩具	0.15	2.6	1.1	鏡	鏡 10.0102/3	内表面：透視	透明化	手づくね	人形	
293	A-0016	土蔵質	玩具	0.0	0.4	1.9	鏡	鏡 10.0102/2	内表面：透視	透明化	手づくね	人形	
322	A-0028	土蔵質	玩具	3.0	9.0	2.2	白	鏡 2.5102/4	内表面：透視	上部け継：緑色+白銀色	内表面：ケメリ	鏡	
323	A-0015	土蔵質	玩具	0.7	0.0	0.10	白	鏡 2.5102/3	内表面：にぬい-鏡 2.5102/3	キラ物	集合せ	人形	
324	A-0016	土蔵質	玩具	0.1	0.4	1.1	白	鏡 2.5102/3	内表面：鏡 2.5102/3	キラ物	集合せ	鳥	
325	A-0016	土蔵質	玩具	0.15	2.6	1.1	鏡	鏡 10.0102/3	内表面：透視	透明化	手づくね	人形	
326	A-0016	土蔵質	玩具	0.0	0.4	1.9	鏡	鏡 10.0102/2	内表面：透視	透明化	手づくね	人形	
327	A-0028	土蔵質	玩具	0.7	0.0	0.10	白	鏡 2.5102/3	内表面：にぬい-鏡 2.5102/3	上部け継：緑色+白銀色	内表面：ケメリ	鏡	
328	A-0015	土蔵質	竹垣板 芯合板	0.6	2.4	0.6	白	鏡 2.5102/3	内表面：にぬい-鏡 2.5102/3	キラ物	集合せ	人形	
329	A-0015	土蔵質	竹垣板 芯合板	0.9	0.1	2.0	白	鏡 2.5102/4	内表面：にぬい-鏡 2.5102/4	キラ物	集合せ	鏡	
330	A-0015	土蔵質	玩具	4.0	2.25	2.0	白	鏡 10.0102/2	内表面：鏡 10.0102/2	上部け継：緑色	手づくね	人形	
331	A-0015	土蔵質	玩具	0.0	2.0	2.1	白	鏡 10.0102/2	内表面：鏡 10.0102/2	キラ物	集合せ	鳥	
332	A-0015	土蔵質	玩具	0.0	2.0	1.0	白	鏡 10.0102/2	内表面：鏡 10.0102/2	キラ物	集合せ	鳥の鏡	
333	A-0015	土蔵質	玩具	0.0	2.0	2.2	白	鏡 10.0102/2	内表面：鏡 10.0102/2	キラ物	集合せ	手づくね	
334	A-0015	土蔵質	玩具	0.0	2.0	1.0	白	鏡 10.0102/2	内表面：鏡 10.0102/2	キラ物	集合せ	手づくね	
335	A-0015	土蔵質	竹垣板 芯合板	0.9	0.1	2.0	白	鏡 2.5102/4	内表面：にぬい-鏡 2.5102/4	キラ物	集合せ	鏡	
336	A-0015	土蔵質	玩具	4.0	1.5	2.25	白	鏡 10.0102/2	内表面：鏡 10.0102/2	上部け継：緑色	手づくね	人形	
337	A-0015	土蔵質	玩具	4.0	1.0	2.25	白	鏡 10.0102/2	内表面：鏡 10.0102/2	キラ物	集合せ	鏡	
338	A-0015	土蔵質	玩具	4.0	1.0	2.25	白	鏡 10.0102/2	内表面：鏡 10.0102/2	キラ物	集合せ	鏡	
339	A-0015	土蔵質	竹垣板 芯合板	0.9	0.1	2.0	白	鏡 2.5102/4	内表面：にぬい-鏡 2.5102/4	キラ物	集合せ	人形	
340	A-0015	土蔵質	土蔵	0.25	0.45	5.25	中や 青	鏡 2.5102/4	内表面：にぬい-鏡 2.5102/4	ナゲ	透明化		
342	A-0015	土蔵質	玩具	2.7	3.9	1.2	白	鏡 2.5102/4	内表面：にぬい-鏡 2.5102/4	キラ物	集合せ	人形	
343	A-0015	土蔵質	玩具	7.8	1.25	2.1	白	鏡 10.0102/2	内表面：鏡 10.0102/2	ナゲ	透明化		
345	A-0015	土蔵質	玩具	0.0	0.9	0.17	白	鏡 10.0102/2	内表面：鏡 10.0102/2	ナゲ	透明化		

番号	地区	出土遺物名	種類	標記名	法面 (cm)			砂土	色調1 (断面)	色調2 (表面、内側外側)	色調3 (底面、上部)	調査	備考
					最大径 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)						
347	E	SH010	土壌質	砂質	6.3	6.3	4.4	黄	II-51-48 7.0100/4	内外面：II-51-48 7.0100/4	粘土層 分割E	ナラ	風化半
502	E	SH010	土壌質	半砂	4.9	6.8	4.4	黄	II-51-48 5100/4	内外面：II-51-48 5100/4	内外面：II-51-48 5100/4	内側：指揮さま。ナラ 外側：指揮さまナラ	
503	E	SH010	土壌質	灰土	(2.8)	(3.4)	(2.0)	黄	II-51-48 7.0100/4	内外面：II-51-48 7.0100/4	内外面：II-51-48 7.0100/4	混合セ	少
506	E	SH010	土壌質	灰土	8.8	2.6	2.6	黄	II-51-48 2.0100/3	透明層	ナラセ	雨の半	
507	E	SH010	土壌質	灰土	(2.4)	(2.0)	(2.0)	黄	II-51-48 7.0100/4	内外面：II-51-48 7.0100/4	ナラ粉	混合セ	人形
508	E	SH010	土壌質	灰土	(2.0)	(2.0)	(0.9)	黄	II-51-48 7.0100/4	内外面：II-51-48 7.0100/4	ナラ粉	混合セ	人形
649	E	SH010	土壌質	灰土	(7.1)	(4.6)	(3.3)	黄	II-51-48 7.0100/3	内外面：II-51-48 7.0100/3	内外面：II-51-48 7.0100/3	ナラ	
643	E	SH010	土壌質	灰土	(4.5)	(4.0)	(1.6)	黄	II-51-48 7.0100/4	内外面：II-51-48 7.0100/4	内側：指揮さま。ナラ 外側：指揮さまナラ	混合セ	地
544	E	SH010	土壌質	灰土	(3.8)	(4.2)	4.2	黄	II-51-48 7.0100/3	内側：指揮さま。ナラ 外側：指揮さまナラ 一部に赤褐色斑点	透明層	ナラ	手すり柱孔(3.8)
445	E	SH010	土壌質	灰土	—	(2.0)	—	黄	II-51-48 7.0100/3	内側：指揮さま。ナラ 外側：指揮さまナラ	透明層	ナラ	手すり柱孔(3.8)
646	E	SH010	土壌質	灰土	(2.7)	(2.0)	(2.7)	黄	II-51-48 7.0100/4	内外面：II-51-48 7.0100/4	混合セ	城	
647	E	SH010	土壌質	灰土	(4.5)	(4.2)	(2.6)	黄	II-51-48 7.0100/4	内外面：II-51-48 7.0100/4	混合セ	城	
604	E	SH010001	土壌質	土壌	(3.0)	1.7	1.1	黄	灰白 10100/2	内外面：灰白 10100/2	ナラ	風化：(3.0) c.	
423	E	遺構使用など	土壌質	灰土	2.5	2.6	1.4	黄	II-51-48 10100/2	内外面：II-51-48 10100/2	ナラ粉	ナラ	
609	C	SH200	土壌質	灰土	(2.0)	(4.7)	3.9	黄	II-51-48 7.0100/3	内外面：II-51-48 7.0100/3	ナラ粉	混合セ	
603	C	SH211	土壌質	灰土	(3.1)	3.2	2.8	黄	II-51-48 7.0100/3	透明層	上部の層：壁モリープ 7.0100/2	手づくね	壁
677	C	SH218	土壌質	灰土	(4.4)	(3.0)	(2.0)	灰白	II-51-48 7.0100/2	透明層	上部の層：壁モリープ 緑色・銀錫	混合セと手づくね	壁
702	C	SH226	土壌質	灰土	(4.0)	—	—	綠	II-51-48 7.0100/4	内外面：II-51-48 7.0100/4	ナラ粉	内側：指揮さま	不明
703	C	SH228	土壌質	灰土	(6.0)	(7.0)	—	綠	II-51-48 7.0100/3	内外面：II-51-48 7.0100/3	ナラ粉	内側：指揮さま	不明
711	C	遺構使用	土壌質	灰土	(4.8)	(4.2)	(0.6)	綠	II-51-48 7.0100/3	内外面：II-51-48 7.0100/3	ナラ粉	混合セ	内側：指揮さま
726	C	東一級下2f	土壌質	土壠	(0.0)	1.25	1.3	黄	灰白 7.0100/1			ナラ	風化：(2.0) c.

(3) 石製品

番号	地区	出土遺物名	種類	標記名	法面			石材	備考
					最大径 (cm)	最大幅 (cm)	厚さ (cm)		
65	A	SH015	砾石	(3.3)	(3.2)	(1.2)	9.9	西紅泥	
197	A	SH100	石 G	(8.5)	6.65	1.7	141.2	片岩	
285	A	SH100	石	(4.05)	—	3.25	0.8	12.1	片岩
421	A	構築物用	石 G	(3.9)	—	5.1	0.6	18.7	西紅泥
591	B	SH103	石 G	(11.5)	(2.7)	(1.3)	66.0	片岩	砧面2面
730	B	SH102/103	石	10.65	—	7.05	2.95	802.0	粘土層
646	C	SH217	石	(4.25)	—	3.4	0.6	16.4	片岩 表面：草花あり 裏面：縞模あり
678	C	SH218	石	(6.1)	—	7.75	2.3	64.5	片岩 表面に墨跡存
712	C	遺構使用	石	(2.5)	—	2.5	0.5	5.6	花崗岩?
729	C	東一級下2f	石板	4.9	—	2.2	0.5	11.9	片岩おり 付帶物あり

(4) 瓦

番号	地区	出土遺物名	種類名	法量 (cm)			色調	鉢上	調整	備考
				最大長	最大幅	厚さ				
90	A	40045	軽瓦	13.2	17.5	1.6	黒灰	2.556/1	直	
98	A	40045	軽瓦	13.9	12.2	1.9	黒灰	2.537/1	直	内面：ナガ 裏面：ナガ 縁面：コビキ丸、タガ
97	A	40045	軽瓦	13.8	12.5	1.6	黒灰	2.537/1	直	内面：ナガ 裏面：ナガ 縁面：コビキ丸、タガ
99	A	40045	軽瓦	13.1	21.2	1.8	黒灰	2.556/1	直	縁面：ナゲ
100	A	40045	軽瓦	17.5	11.0	1.6	黒灰	2.557/1	直	内面：ナゲ
101	A	40045	軽瓦	16.9	18.2	1.8	黒灰	2.557/1	直	内面：ナゲ
102	A	40045	軽瓦	17.0	21.0	1.5	黒灰	2.557/1	直	内面：ナゲ
103	A	40045	軽瓦	16.8	25.0	1.5	黒灰	2.577/1	直	内面：ナゲ 裏面：ナゲ
326	A	40046	軽瓦	14.0	18.2	1.6	黒灰	2.561/1	直	内面：ナゲ
327	A	40046	軽瓦	15.0	18.0	1.5	黒灰	2.561/1	直	内面：ナゲ 裏面：ナゲ
328	A	40046	軽瓦	16.0	24.5	1.1	黒灰	2.578/1	縫合	内面：ナゲ 裏面：ナゲ
329	A	40046	軽瓦	23.7	21.0	1.4	黒灰	2.578/1	縫合	内面：ナゲ 裏面：ナゲ
580	A	40046	軽瓦	17.0	11.7	1.6	黒灰	2.581/1	直	内面：ナゲ
581	A	40046	軽瓦	0.8	9.4	1.0	黒灰	2.581/1	直	内面：ナゲ
391	B	40046	軽瓦	4.1	9.3	2.1	黒灰	2.536/1	直	内面：ナゲ
582	B	40046	軽瓦	3.5	15.5	1.0	黒灰	2.536/1	直	内面：ナゲ
583	B	内側表面削落	軽瓦	12.2	12.4	1.5	黒灰	2.578/1	縫合	内面：ナゲ 裏面：コビキ丸、タガ
384	B	40047	軽瓦	11.0	11.0	2.1	黒灰	2.578/1	直	内面：ナゲ 縁面：ナゲ
585	B	40047	軽瓦	12.0	11.8	1.4	黒灰	2.581/1	縫合	内面：ナゲ 裏面：コビキ丸、タガ
390	C	40047	軽瓦	7.5	7.4	1.3	黒灰	2.581/1	直	内面：ナゲ
647	C	40047	軽瓦	14.0	12.0	1.5	黒灰	2.581/1	縫合	内面：ナゲ 裏面：コビキ丸、ナゲ
648	C	40047	軽瓦	13.2	9.8	1.6	黒灰	2.581/1	直	ナゲ
649	C	40047	軽瓦	12.0	25.0	1.4	黒灰	2.581/1	縫合	ナゲ
650	C	40047	軽瓦	12.2	12.3	2.0	黒灰	2.581/1	直	ナゲ
651	C	40047	軽瓦	7.0	14.0	—	黒灰	2.581/1	直	内面：ナゲ
652	C	40047	軽瓦	11.0	15.2	2.4	黒灰	2.581/1	直	内面：ナゲ 内面：タガ
653	C	40047	軽瓦	12.2	9.0	1.4	黒灰	2.581/1	直	内面：ナゲ
654	C	40047	軽瓦	7.2	13.0	1.0	黒灰	2.581/1	直	内面：ナゲ
655	C	40047	軽瓦	7.3	14.0	1.7	黒灰	2.581/1	直	内面：ナゲ
656	C	40047	軽瓦	13.0	18.2	1.6	黒灰	2.581/1	直	内面：ナゲ 裏面：ナゲ
657	C	40047	軽瓦	13.7	11.9	1.5	黒灰	2.581/1	直	内面：ナゲ 内面：タガ 内面：ナゲ
658	C	40047	軽瓦	25.6	14.0	1.6	黒灰	2.581/1	直	内面：ナゲ 内面：タガ 内面：ナゲ
659	C	遺構削除	瓦	18.2	8.1	1.7	黒灰	2.581/1	直	内面：ナゲ 裏面：ナゲ 内面：タガ
660	C	遺構削除	瓦	13.0	9.0	1.7	黒灰	10.000/2	直	丁子山・御所山
491	C	40048から重宝	軽瓦	16.0	12.4	1.5	黒灰	2.581/1	直	内面：ナゲ
692	C	二段下	軽瓦	6.5	11.5	1.5	黒灰	2.581/1	直	内面：ナゲ
740	C	40048	軽瓦	7.0	16.7	2.0	黒灰	2.581/1	直	内面：ナゲ
741	C	40048	軽瓦	6.0	13.2	1.6	黒灰	2.581/1	直	内面：ナゲ 縁面：ナゲ
742	C	40048-095	軽瓦	5.1	10.2	1.5	黒灰	2.581/1	直	内面：ナゲ 縁面：ナゲ
743	C	40049	軽瓦	7.0	13.0	1.7	黒灰	2.556/1	縫合	縫合
744	C	40049	軽瓦	12.0	17.0	1.8	黒灰	2.556/1	直	内面：ナゲ
745	C	40049	軽瓦	10.0	18.0	1.8	黒灰	2.556/1	直	内面：ナゲ
746	C	40049	軽瓦	12.0	17.0	1.8	黒灰	2.556/1	直	内面：ナゲ
747	C	40049	軽瓦	10.0	14.0	1.6	黒灰	2.556/1	直	内面：ナゲ
748	C	40049	軽瓦	12.0	17.0	1.6	黒灰	2.556/1	直	内面：ナゲ
749	C	40049	軽瓦	10.0	11.0	1.4	黒灰	2.557/1	直	内面：ナゲ
750	C	40049-095	軽瓦	10.0	10.0	1.4	黒灰	2.557/1	直	内面：ナゲ
751	C	40049	軽瓦	9.0	11.0	1.4	黒灰	2.557/1	直	内面：ナゲ
752	C	40049	軽瓦	9.0	12.0	1.4	黒灰	2.557/1	直	内面：ナゲ
753	C	40049	軽瓦	9.0	12.0	1.4	黒灰	2.557/1	直	内面：ナゲ

(5) 金属製品

番号	地区	出土遺物名	種類名	法量 (cm)			材質	備考
				最大長	最大幅	厚さ		
64	A	50045	環	4.00	(金糸?)	1.5	3.6	0.8 銅
75	A	50046	管	(13.0)	1.4	0.15 銅		
81	A	50047	環管	(8.0)	0.8	0.8 銅		
130	A	50125	鉤	2.0	2.5	0.1 銅	束水道定。『文』鉤	
131	A	50125	鉤	2.5	2.5	0.1 銅	束水道定。『文』鉤	
140	A	50125+130+135	手形環	9.4	9.0	0.7 銅	手形環	
144	A	50165	不明	8.1	3.3	1.05 青銅 漆付金具の薄板金具で枕ねる	漆付金具の薄板金具で枕ねる	
232	A	50090-1995	鋸り金具	16.75	6.75	0.05 銅 漆付金具。タキ		
284	A	50166	鉤釘	8.0	0.5	0.5 銅		
308	A	50225	鉤釘	3.7	0.7	0.4 銅		
421	C	機械部品	鉤釘	4.7	1.6	1.6 銅		
579	B	50102	不明	4.5	3.3	0.4 銅		
363	B	西側一段下	金具	4.0	3.6	1.1 銅		
364	B	西側一段下	石子	8.6	1.9	0.7 銅		
425	B	西側表面削除	鉤釘	9.0	0.9	0.8 銅		
426	B	東側表面削除	鉤釘	11.2	1.0	0.7 銅		
732	B	50102	鉤釘	4.7	0.9	0.7 銅		
734	B	50102	鉤	(8.3)	2.5	0.5 銅		
668	C	50010	管?	12.0	0.9	0.4 銅		
713	C	南側	管	—	2.1	0.3 銅	深水道定(新規本)	
717	C	一段下	鉤釘	5.8	0.9	0.6 銅		
729	C	50110から東側	鉤釘	8.1	0.8	0.5 銅	先端部折れ上がる	
731	C	50125	鉤?	10.0	0.5	0.4 銅		
732	C	50125	鉤?	7.1	0.9	0.4 銅		
735	A	50090-1995	鉤金	—	—	— 銅		
736	B	50165	鉤金	—	—	— 銅		
737	B	50045	鉤金	—	—	— 銅		
739	A	50165	鉤金?	7.2	7.0	2.1 銅		
739	C	一段下	不明	8.2	0.8	0.5 銅		

(3) 骨角器

番号	地区	出土遺物名	種類名	法量 (cm)			備考
				最大長	最大幅	厚さ	
141	A	50125	管?	(6.5)	1.0	0.4	穿孔1箇所・文様彫刻
745	C	—	不明	(12.0)	(2.7)	0.63	穿孔4箇所
717	C	—	不明	(2.4)	(2.7)	0.25	

写 真 図 版



1 A区第1遺構面全景（北から）



2 A区と新校舎および旧校舎（東から）



3 C区と旧校舎（南西から）



2 A区第2造構面 西側 全景(北から)



4 B区柱穴列 完掘状況



1 A区第2造構面 東側 全景(東から)



3 B区柱穴列 漏出状況(東から)

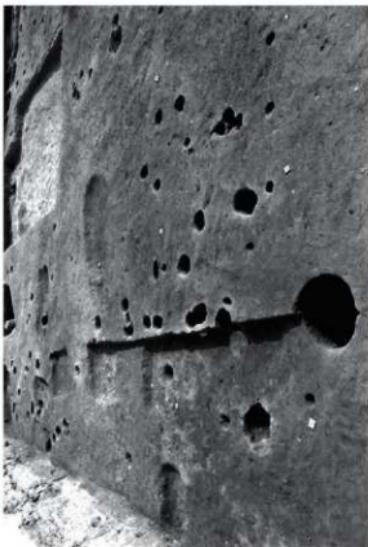
4 A区南側柱穴群 (南から5)



2 A区東側 土坑 完施状況 (南から5)



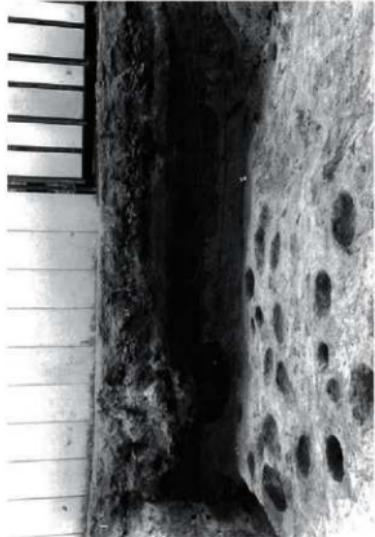
1 A区南東隅 土坑 完施状況 (東から5)



3 A区西側 柱穴群 (南から5)



1 A区北壁土層① (南北5m)



2 A区南壁土層 (南北5m)



3 A区北壁土層② (南北5m)



4 A区南壁土層 (東方5m)



1 ASX200 周辺①（東から）



2 ASX200 周辺②（南から）



3 A区東側 柱穴群（北から）



4 ASD215（東から）



1 BSK102・103 土層（南か ζ_3 ）

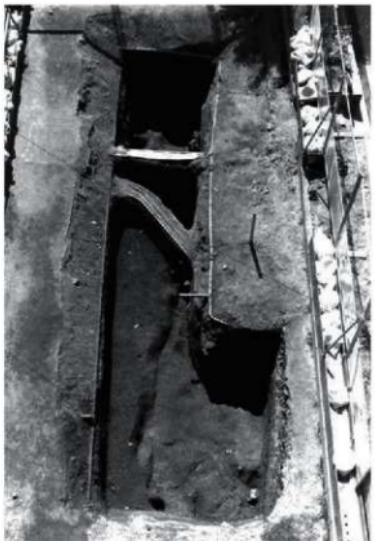


2 BSB105 土層（西か ζ_3 ）



3 BSK102・103（南か ζ_3 ）

BSK102・103 周辺（北か ζ_3 ）



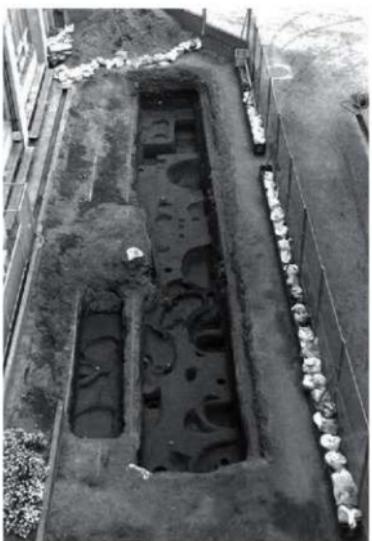
1 B 区 全景(東から)



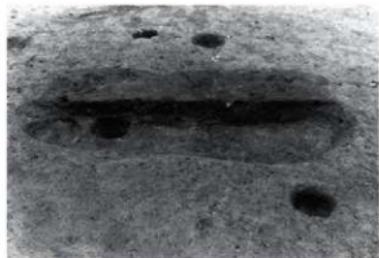
2 C 区 挖削状況



3 C 区 全景①(西から)



4 C 区 全景②(西から)



1 ASK025 半截状況（南から）



2 ASK040 半截状況（東から）



3 ASK045（南から）



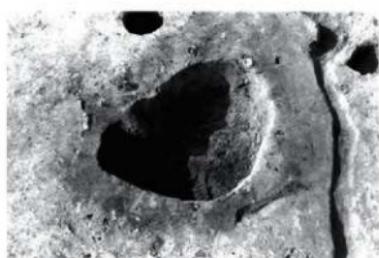
4 ASK045 半截状況（東から）



5 ASK050（西から）



6 ASK055・060 半截状況（西から）



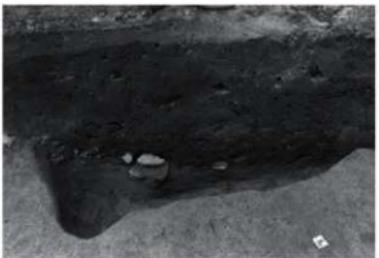
7 ASK070（南から）



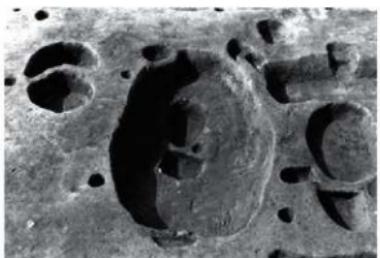
8 ASK080 半截状況（南から）



1 ASK085 半截状況（北から）



2 ASK090 (西から)



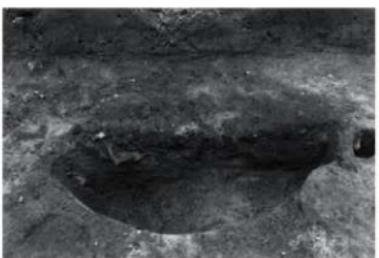
3 ASK0105 (南から)



4 ASK105 半截状況（西から）



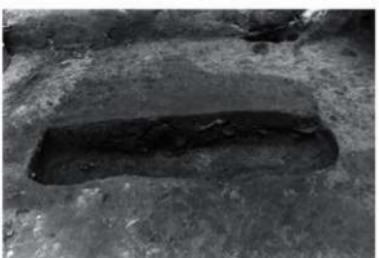
5 ASK110・115 半截状況（西から）



6 ASK120 半截状況（西から）



7 ASK140 (東から)



8 ASK140 半截状況（西から）



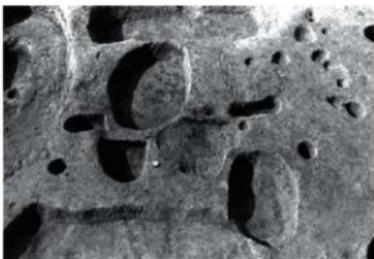
1 ASK145 半截状況（東から）



2 ASK150 半截状況（東から）



3 ASK155（北から）



4 ASK160・170・175・225（南から）



5 ASK160 半截状況（西から）



6 ASK170 半截状況（西から）



7 ASK175 半截状況（北から）



8 ASK185（東から）



1 ASK185 半截状況（東から）



2 ASK205 半截状況（南から）



3 ASX200 ①土層（西から）



4 ASX200 ②土層（北から）



5 ASK065（北から）



6 ASP002 半截状況（北から）



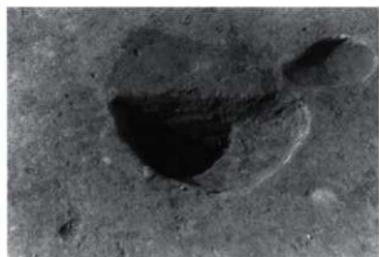
7 ASP051 半截状況（北から）



1 ASP039 (西から)



2 ASP041・042 半截状況 (東から)



3 ASP043 半截状況



4 ASP318 検出状況 (西から)



5 ASP318 半截状況 (南から)



6 ASP318 完掘状況 (南から)



7 ASP318 曲物・土器出土状況 (南から)



8 BSP113 (北から)



1 BSP114 (北から)



2 CSK209 (南から)



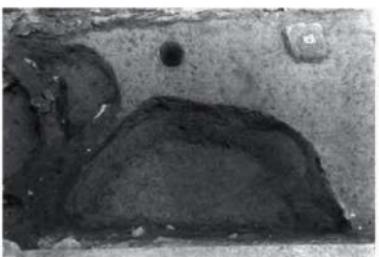
3 CSK210・218周辺 (南から)



4 CSK209 土層 (北から)



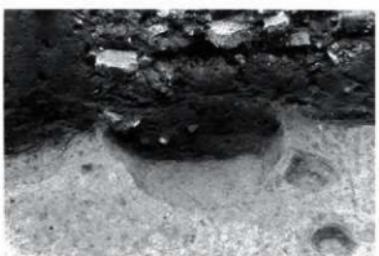
5 CSK210・218 (北から)



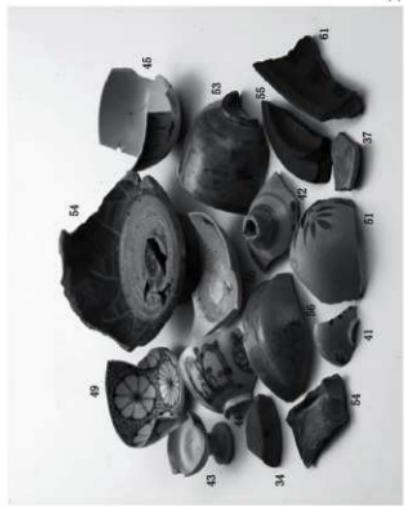
6 CSK217 (南から)



7 CSK226 (南から)

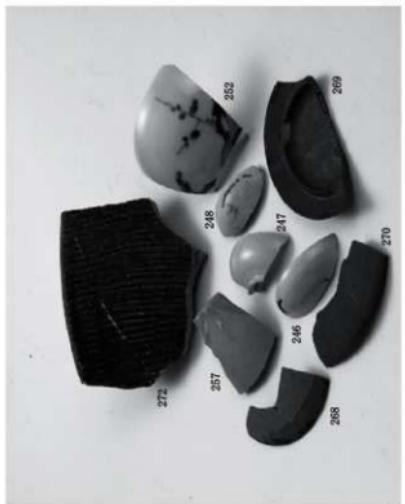


8 CSK225 (北から)

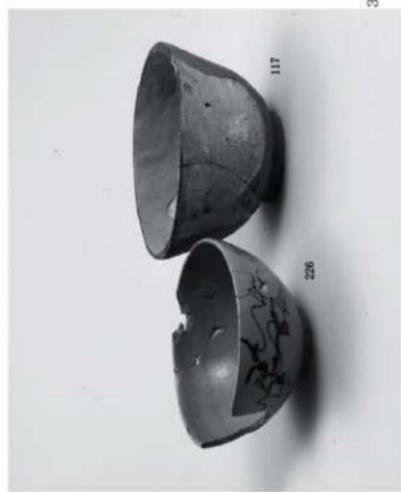




1 A区 SK90・95



2 A区 SK100



3 A区 SK90・95
A区 SK125



4 A区 SK185



1 B区 SK103



A photograph showing a group of 20 numbered fragments of black pottery, possibly from a teapot or jar. The fragments are arranged in a loose cluster. Each fragment is labeled with a number: 482, 484, 485, 486, 487, 488, 489, 490, 491, 492, 493, 494, 495, 496, 497, 498, 499, 500, 501, 502, and 503. Some fragments have small white labels attached to them.



83

1 A 区 SK025



137

2 A 区 SK125・130・135 一段下げる



355



718

3 A 区 SK140

4 C 区 SK219



361

5 A 区 SK170



698

6 C 区 SK225



231

7 A 区 SK90・95



644

8 C 区 SK217



360

1 A区 SK170



440

2 B区 SK102・103



384

3 A区 SK225



466

4 B区 SK102・103



307

5 A区 SK155



499

7 B区 SK102・103



622

6 B区遺構検出時



561

8 B区西侧段下げる時



33

9 A区 045



1 A区 SP318



2 A区 SK030



3 A区 SK125・130・135



5 A区 SK102



6 A区 SK205



7 C区 SK217



1 A区瓦



2 C区瓦



3 B区瓦



1 A区玩具（動物）



2 A区玩具（人形）



1 B 区玩具



2 C 区玩具



1 青銅製品



3 鉄製品、針金



2 鉄製品



4 骨角器



1 A区玩具



2 石製品

3 土製品

報 告 書 抄 錄

2011年3月31日 印刷

2011年3月31日 発行

高松市埋蔵文化財調査報告第132集
新設統合第二小学校建設事業に伴う埋蔵文化財調査報告書
二番丁小学校遺跡

発行者 高松市番町一丁目8番15号
高松市教育委員会
印刷者 高松市観光通2丁目3番7号
(有)若葉プリント